令和4年壮警町議会第3回定例会を、次のとおり招集する。

令和4年8月26日

壮警町長 田 鍋 敏 也

記

- 1 期 日 令和4年9月8日
- 2 場 所 壮警町役場 大会議室
- 3 付議事件（予定）
 - (1) 教育委員会教育長の任命について
 - (2) 教育委員会委員の任命について
 - (3) 専決処分の承認を求めることについて
 - (4) 専決処分の承認を求めることについて
 - (5) 壮警町表彰条例に基づく表彰について
 - (6) 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - (7) 壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - (8) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための壮警町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について
 - (9) 令和4年度壮警町一般会計補正予算（第8号）について
 - (10) 令和4年度壮警町介護保険特別会計補正予算（第1号）について
 - (11) 令和4年度壮警町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）について
 - (12) 令和4年度壮警町集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について
 - (13) 令和3年度壮警町各会計歳入歳出決算認定について
 - (14) 出資法人の経営状況について

○応招議員（9名）

1番 菊地敏法君
3番 佐藤忞君
5番 山本勲君
7番 毛利爾君
9番 長内伸一君

2番 松本勉君
4番 加藤正志君
6番 真鍋盛男君
8番 森太郎君

○不応招議員（0名）

令和4年壮瞥町議会第3回定例会会議録

○議事日程（第1号）

令和4年9月8日（木曜日） 午前10時00分開会

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定について
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 行政報告
- 日程第 5 会期中における仮議長の選任を議長に委任する件
- 日程第 6 一般質問

○出席議員（8名）

1番	菊地敏法君	2番	松本勉君
3番	佐藤恣君	4番	加藤正志君
5番	山本勲君	6番	真鍋盛男君
7番	毛利爾君	8番	森太郎君

○欠席議員（1名）

9番 長内伸一君

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町長	田鍋敏也君
副町長	黒崎嘉方君
教育長	谷坂常年君
会計管理者兼	
	小野寺寿勝君
税務会計課長	
総務課長	庵匡君
企画財政課長	上名正樹君
企画財政課参事	市田喜芳君
住民福祉課長	阿部正一君
産業振興課長	木下薫君
商工観光課長	三松靖志君
建設課長	澤井智明君
生涯学習課長補佐	石塚季男君
選管書記長(兼)	庵匡君
農委事務局長	齋藤誠士君
監委事務局長(兼)	小林一也君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長 小林一也君

◎開会の宣告

○副議長（森 太郎君） おはようございます。長内議長から本日の定例会を欠席する旨の届出がありましたので、地方自治法第106条第1項の議会の議長に事故があるとき、副議長が議長の職務を行うの規定に基づき、私が議長を務めますので、よろしくをお願いいたします。

これより令和4年壮警町議会第3回定例会を開会いたします。

◎開議の宣告

○副議長（森 太郎君） 直ちに本日の会議を開きます。
(午前10時00分)

◎議事日程の報告

○副議長（森 太郎君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○副議長（森 太郎君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第116条の規定により、議長において

7番 毛利 爾君 1番 菊地敏法君

を指名いたします。

◎会期の決定について

○副議長（森 太郎君） 日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から9月16日までの9日間といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、会期は本日から9月16日までの9日間と決しました。

◎諸般の報告

○副議長（森 太郎君） 日程第3、諸般の報告を行います。

議会一般、総務・経済合同常任委員会所管事務調査報告、監査委員からの例月出納検査結果報告、定期監査結果報告、各団体からの陳情、要望など、広域連合、行政事務組合議会等報告につきましては、お手元に配付のとおりであります。

今期定例会の付議事件は、議案13件、報告1件であります。

以上で諸般の報告を終わります。

◎行政報告

○副議長（森 太郎君） 日程第4、行政報告を行います。

町長。

○町長（田鍋敏也君） 令和4年第2回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第2回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますので、ご照覧ください。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。7月7日に室蘭地方総合開発期成会として北海道開発局、北海道などに令和5年度の国費等の要望を行いました。本町といたしましては、国道453号蟠溪道路の整備促進と交通安全施設等の整備、上久保内、幸内地区地滑り対策の推進、道道洞爺湖登別線の整備促進、有珠山外環状線の整備に係る町道上立香第2線の道道認定と整備の早期実現等について要望を行いました。また、各省庁等への要望につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、期成会会長である青山室蘭市長ほか1名で8月8日、9日に国土交通省北海道局、道路局等をはじめ、地元選出国會議員に対し要望を行いました。

行政報告を行います。初めに、新型コロナウイルス感染症の対応状況についてご報告申し上げます。町では、これまで長期化する新型コロナウイルス感染症から、町民の皆様の健康保持や社会経済活動の維持に努めてきたところであります。道内の新規感染者数については、6月下旬の段階で1日300人程度でありましたが、その後新たな株BA.5の検出により急増し、8月中旬には8,000人を超え、現在感染者は若干減少しているものの、感染は続いております。こうした中、北海道は本年8月9日、BA.5対策強化宣言を行い、感染防止行動の徹底とワクチン接種、感染防止対策と社会経済活動の両立など、道民と事業者呼びかけ、取り組むこととしたところであります。本町においては、8月21日から27日までの1週間で31人の新規感染者が確認されたことなどから、ホームページや新聞折り込み、さらには広報9月号で町民の皆様へメッセージを発出し、改めて基本的な感染予防対策の徹底などをお願いしたところであります。

次に、ワクチン接種の状況と見通しについてであります。町では令和3年5月から新型コロナワクチンの接種を開始し、現在5歳から11歳までの初回接種、18歳から60歳以下の3回目接種、60歳以上、または基礎疾患のある方と医療従事者への4回目接種を実施しております。4回目追加接種については、9月末まで引き続き実施するとともに、その後も国の方針に基づき、適切に対応していく考えであります。町としましては、ワクチン接種は新型コロナウイルス感染症のまん延防止と重症化予防を図る上で重要な対策であると考えており、引き続き町民の皆様が円滑に接種できる

よう、医療機関やその他の関係機関と連携し、取り組んでまいりたいと考えております。

次に、地域経済の状況についてご報告申し上げます。本年4月から7月までの観光入り込み数は38万人で、昨年同時期の24万2,000人に比べ57%増となり、回復基調にあるものの、コロナ前の令和元年の同時期は75万3,000人で、これに比べると50%程度となり、海外からの旅行客の回復になお時間がかかるものと思われることから、観光や飲食業を中心に厳しい状況が継続しております。町では、関係機関や団体と連携した対応とともに、国の地方創生臨時交付金を活用した町独自の緊急経済対策として、ビジット昭和山キャンペーン第3弾やプレミアム商品券事業第3弾の実施に加え、商工業者の事業継続支援など、地域経済活性化に取り組んでいるところでございます。今後も国、道の施策を有効活用し、事業者の事業継続や地域経済の活性化に資する施策を検討、展開する所存でございますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、壮瞥町防災学識アドバイザーの委嘱についてご報告を申し上げます。町では、有珠山噴火に備え、火山防災を中心とした専門知識や科学的知見に基づき的確に助言をいただくため、これまで北海道大学名誉教授の岡田弘先生に壮瞥町防災学識アドバイザーを委嘱しておりましたが、なお一層の防災体制の強化を目的として、このたび元北海道大学准教授の大島弘光先生にも委嘱し、2名体制とさせていただきました。大島先生は、北海道大学の助教授、准教授などの立場で有珠山や道内の火山を中心に研究と次世代の人材育成に尽力されたことなどに加え、気象庁の火山噴火予知連絡会委員や参与を歴任されるなど、幅広い知見と視野を持つ専門家であり、今後まちづくりや人づくりも含め助言をいただけるものと期待しているところであります。

次に、消防指令業務の共同化の検討についてご報告を申し上げます。当該業務につきましては、現行では平成28年に伊達市に指令センターを設置し、西胆振4市町全体の119番通報に対応しております。この業務を胆振管内全市町まで広げて共同化することについて、昨年11月から検討を開始し、協議してまいりましたが、新たに導入する設備の規模や運営方法、費用負担などについて最終的に合意に至らず、本年8月をもってこの協議は白紙となり、検討を終了したところであります。この結果を受け、従前から広域化の枠組みとして検討されていた室蘭市、登別市、西胆振の3消防による共同化に向けた調整を進め、協議を進めることについて3市3町で確認をしたところであります。町としましては、現行の設備が令和7年頃に更新期を迎えることも踏まえ、町民の皆様との安全で安心な生活の確保や行政コストの節減などの視点から適切な運営方法を検討してまいりたいと考えております。

次に、地域のあそびばミナミナの開設についてご報告申し上げます。本町の地域おこし協力隊の新たな活動拠点である当該施設は、地域おこし協力隊の活動を広く周知し、住民の皆様との交流や町の地域情報の発信などを目的として8月26日にオープ

ンしたものであります。このミナミナは、「そうべつの素敵なヒト・モノ・コトに出会う場」として「そうべつを知り、そうべつをつなげる」ことをコンセプトにした地域おこし協力隊が常駐するコミュニティースペースです。町としましては、新たな活動拠点を核として、にぎわいの創出や関係人口、交流人口の拡大に向け取り組んでいく考えでありますので、ご理解、ご協力を賜りようようお願い申し上げます。

次に、マイナンバーカードの普及拡大に向けた取組状況についてご報告申し上げます。マイナンバーカードは、行政を効率化し、国民の利便性を高めるなど、これから必要とされる社会基盤であるとの認識の下、本町ではこれまでも窓口において普及拡大に取り組んできたところであります。本年度の町政執行方針では、デジタルを活用した地域づくりや国の方針に基づき本町の実情に合わせたマイナンバーカードの普及に努めることをお示し、デジタルトランスフォーメーション推進を目的として設置した庁内若手職員によるワーキンググループで普及拡大に向けた検討を行ってきたところであります。こうした中、本年5月17日に発出された総務大臣書簡において、令和4年度末までにほぼ全国民にマイナンバーカードが行き渡ることを目指し、普及を推進するよう示され、その後6月7日に閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針及びデジタル田園都市国家構想基本方針においても、より重点的かつ具体的な方針が示されたところであります。

このようなことから、本町では住民生活を発展させ、全ての世代が豊かさと利便性を分かち合えるまちづくりを推進するため、重要な施策であることを改めて全職員で共有し、住民福祉課を中心に、具体的にはさきの選挙の期日前投票やコロナワクチン接種など人が集まる機会を捉えての説明と申請勧奨の実施をはじめ、夜間や出張での申請の受付など鋭意取り組んでいるところであります。交付状況については、6月末時点では44.92%、胆振管内3位、全道25位でありましたが、予算措置後取組を本格化させ、町民の皆様のご理解もあり、8月14日時点では54.93%、胆振管内1位、全道6位となっているところであります。今後も引き続き普及拡大に取り組む所存ですので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、第46回りんごまつりの開催中止についてご報告を申し上げます。そうべつりんごまつりは、毎年10月上旬に開催し、町内外から1万人以上のお客様にご来場いただくなど、町の農産物等をPRする重要なイベントになっているところであります。今年度の開催につきましては、とうや湖農業協同組合代表理事組合長が実行委員長を務めるそうべつりんごまつり実行委員会で新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら慎重に議論したところ、来場するお客様をはじめ、関係する方々の健康及び安全を最優先することとして中止することとされましたので、ご報告いたします。なお、中止に伴い、ウェブサイトを利用した地場産品等の販売を検討しているところでありますが、コロナ禍で3年連続で中止となる中、りんごまつりが果たしてきた役割を踏まえ、時代のニーズに即したりんごまつりの在り方について関係機関、団体と

危機感を持って議論をしていく考えであります。りんごまつりにつきましては、開催を心待ちにしていたお客様並びに関係者の皆様におかれましては、やむを得ない判断となりましたことについてご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、壮瞥町中小企業等振興審議会の設置についてご報告申し上げます。本年3月に制定した壮瞥町中小企業・小規模企業振興基本条例に基づき、町商工会や胆振総合振興局、町内中小企業等から6名の委員を委嘱し、本年7月19日、第1回目の審議を開催いたしました。今後委員会で町内の中小企業等の振興施策を調査、審議いただき、施策に反映する検討を行っていく考えでありますので、よろしくお願いをいたします。

以上、令和4年第2回定例会以降における町政の主なものについてのご報告といたします。

○副議長（森 太郎君） これにて行政報告を終結いたします。

◎会期中における仮議長の選任を議長に委任する件

○副議長（森 太郎君） 日程第5、会期中における仮議長の選任を議長に委任する件を議題といたします。

この件については、お手元に説明資料を配付しておりますので、議会事務局長に要点説明をいたさせます。

○議会事務局長（小林一也君） それでは、会期中における仮議長の選任を議長に委任する件についてご説明いたします。

地方自治法第106条第1項に規定する議長に事故があるときとは、議長は在職しているが、職務を執り得ない事情にある場合であり、除斥、病気、旅行等の場合を言います。この場合は、同項に基づき、副議長が議長の職務を行うこととなります。しかしながら、この状況で議長の職務を行っている副議長が同様に急病や除斥など事故があるときに該当する事態になった場合は、議長の職務を行う者が不在となり、同条第2項の規定により同法第118条による選挙を行い、仮議長を決める必要がありますが、選挙による場合は立会人の指名から投票、開票、そして当選人の決定まで時間を要します。このことから、同法第106条第3項の規定により、仮議長の選任を議長に委任しておくことができます。なお、この場合の議長には議長の職務を行う副議長も含まれているというふうに解されています。また、仮議長が職務を執る期間は非常に限定的で、議長または副議長のいずれか一方の事故がやむまでであって、会議の途中でも交代しなければなりません。

以上、本会期中における速やかな議会運営等を行うため、標記、会期中における仮議長の選任を議長に委任する件を提案するものでございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） お諮りいたします。

議長に事故があるときに対応し、滞りなく議会運営を行うため、地方自治法第106条第3項の規定によって、この会期中における仮議長の選任を議長に委任願いたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

この会期中における仮議長の選任を議長に委任することに決しました。

それでは、この会期中における仮議長に菊地敏法君を指名いたします。

◎一般質問

○副議長（森 太郎君） 日程第6、一般質問を行います。

一般質問の通告がありますので、通告順に順次発言を許します。

2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 私は、政策公約の進捗と評価についてお伺いいたします。

田鍋町長は、就任され、3年半が過ぎようとしていますが、就任2年目から新型コロナウイルス感染症対策に時間と労力を傾けざるを得ない状況が続き、当初のもくろみどおりに行政運営を運べなかった面もあるとは思いますが、任期も残り半年となり、就任の際掲げられた政策公約について現時点での進捗状況や自己評価、今後の見通し等について伺います。

1点目、基金減のない財政運営。基金を減らさない財政運営を早急に実現するため、予算と事務事業の適切で厳格な執行管理や種々の財源確保等に取り組む姿勢を示され、令和2年度当初予算からは財政調整基金繰入金を9,900万円、前年対比でマイナス9,400万円として、以来毎年当初予算では前年対比でマイナス1,000万円に抑えており、令和4年度当初では7,900万円となっております。さらに、令和2年度決算では1億3,200万円の基金積立てが可能となりました。基金繰入金が8,900万円ありましたので、実質的には4,300万円のプラス効果ではありますが、改めて財政収支の改善の取組についての評価を伺います。また、令和3年度の決算見込み、この後決算審査もございますけれども、及び次年度以降の見通しについても伺います。

2点目、農業と観光が元気なまちづくりについて。農業に関しましては、後継者、担い手不足の課題解決が喫緊の課題であるとの認識から、担い手育成センターの機能強化や関係機関との連携強化を図り、具体的な施策展開やそのための組織体制整備を進めるとされておりました。現時点での評価、見通しについて伺います。

観光に関しては、本町の特色ある様々な地域資源を活用して魅力ある観光地づくりを進めたいとされておりましたが、コロナ禍により施策の軌道修正を余儀なくされたと思いますが、コロナ対策を含め、現時点での行政施策についての評価を伺います。

また、観光関連事業者は先の見えない不安と焦燥感に駆られているのが現状であり

ますが、ポストコロナを見据えた本町の今後の観光振興の取組についても伺います。

3点目、火山との共生について。将来の有珠山噴火災害を念頭に置き、具体的で実践的な避難計画を策定し、必要とされる備品類の整備や関係機関との協定の締結などを行い、また自助、共助の精神を高めるため、自主防衛組織の組織化の推奨を図るとの考えを示され、町内避難所の収容人員や避難所運営マニュアルの見直し、防災備蓄計画の見直しや備蓄資材の整備、それから壮瞥町防災マニュアルの作成と町内配布等を行ってきました。そして、噴火避難マニュアル兼対策本部計画や本町の防災に関する最上位計画であります地域防災計画の見直し、策定を現在進められていると思いますが、取組の進捗状況と事業の評価、さらに自主防衛組織を含め、今後の防災普及啓蒙活動への取組も伺います。

4点目は、公正、公平で開かれた町政の推進についてであります。町長は、就任の際、町民から近年の町政運営について将来展望が示されていないという不安や悲観の声、また町政が町民にひとしく向き合っていない、情報開示がされていない等の声を聞いたとして、公正、公平で開かれた町政を公約に掲げられましたが、具体的に取組んできた内容とその評価について伺います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 2番、松本議員のご質問にご答弁申し上げます。

町長として町政を担わせていただき、3年4か月が経過しました。これまで常に町民の皆様の幸せと壮瞥町の持続的な発展のために健全な財政運営を最優先課題として、職員の皆さんと共にまちづくりを推進してきました。この間、新型コロナウイルス感染症という困難に直面しておりますが、この難局を町民の皆様と心をつなげて乗り越えるため取り組んでいるところであり、これまで賜ってきたご理解とご協力に對しまして深く感謝を申し上げます。

以下、質問事項に沿ってご答弁を申し上げます。

1点目の基金減のない財政運営についてですが、本町の財政運営は実質的な財政収支を把握するための指標である実質単年度収支が平成28年度から平成30年度までの3年間で3億1,181万円の不均衡となっており、財政調整基金等を取り崩し、均衡を図っていたところであります。合併協議を経験した者として、町が持続、発展していくためには財政の安定的な運営が重要で、様々な行政サービスを継続させていくためにも健全な財政運営が不可欠という認識を持っており、この認識を職員と共有し、収支改善を最優先課題として住民生活と地域経済に支障を来さない範囲で徹底した歳出の抑制と既存事業も含め、活用できる財源の調査、確保など、黒崎副町長を陣頭指揮に全庁挙げて取り組んできたところであります。

このような取組により、決算収支は年々改善し、令和元年度は667万円、令和2年度では150万円まで赤字額を圧縮し、令和3年度では2億4,797万円、6年ぶりに黒字となる見込みであります。こうした状況から、財政調整基金については令和3年度

末の保有額は2億7,603万円増加し、6億6,870万円となり、基金全体でも3億5,564万円の増、21億6,864万円となったところです。今後については、第5次まちづくり総合計画や諸計画に基づき、計画的な社会資本整備や施策の展開が必要と認識しており、さらなる収支改善により健全な財政運営が必要と考えております。

次に、2点目の農業の担い手の育成、確保についてですが、経営感覚に優れた次代を担う人材の育成、確保は、生産性や付加価値の高い地域農業を推進する上で重要な取組でありますので、就任以来その対策に力を注いできたところであります。このため、町では関係機関、団体で構成する担い手育成センターの体制整備を行うとともに、その連携と役割の発揮を強化し、就農相談から研修、実習の受入れをはじめ、新規就農時だけでなく就農後のキャリア支援までを含めた受入れ、支援体制の機能強化を図っているところであります。

こうした取組も相まって、令和元年度から3年度までの間では新たに法人化した2件の経営体を含めて11件の新規就農に結びつくなど、着実に推進しているところでありますが、一方で農業経営に夢を抱いて就農したものの、様々な事情から途中で断念せざるを得ない方も4件あるなど、人材を育て、夢を実現させる難しさを改めて実感しているところであります。また、本年度からはこうした事例も踏まえて、就農を希望する方に事前体験研修を推奨するとともに、研修計画を認定する際には本人の出席により計画の発表と面談を行う審査会の導入や担い手育成センター構成員による新規就農支援対策の充実強化に向けた検討会を開催するなどしているところであります。

町としましては、今後とも地域に即した技術研修や受入れ態勢の整備をはじめ、就農後のフォローアップ等、実効性のある支援策の充実強化を絶えず図るとともに、新規就農者ばかりでなく、経営の効率化に意欲を持って取り組む生産者の皆様の経営発展を支援する施策に取り組み、地域農業を牽引する人材を育成、確保してまいる考えであります。

次に、観光に関して、コロナ対策も含め、現時点での行政施策についてですが、コロナ感染症の長期化は、外国人観光客の比率が高い地域や施設を中心に町全体に甚大な影響を及ぼしております。町では、その対策として、経営の持続化に向け、商工会等と連携した国の施策、支援策の活用に向けた取組をはじめ、独自の支援策として上下水道料金の免除や売上減の一部を支援する商工業振興緊急対策事業を実施するとともに、ビジット昭和山キャンペーンなど誘客にも力を注いできたところです。このような施策を展開しているところですが、外国人観光客等の集客を主体とした地域を中心に、入り込みの回復にはまだ時間を要する状況と認識しており、引き続き国や道の施策の活用や支援とともに、地域のポテンシャルを最大限生かした活性化策が必要と考えております。

ポストコロナを見据えた観光振興の取組についてですが、コロナの状況を踏まえ、

これまで実施してきた近隣自治体と連携した東南アジアを中心としたエージェンツセールスやジオパークなどの資源を生かした教育旅行の誘致等に努めるとともに、スポーツツーリズムやアドベンチャートラベル等、本町の強みである自然環境を生かした新たな誘客に取り組むことが重要と考えております。

また、町ではこれまで情報発信、農業、観光、移住等を担う地域おこし協力隊を採用しており、SNS情報発信の強化により、フェイスブックフォロワー数、人口比ランキング全国第2位になるなど、多様な人材の能力を生かした地域活性化に取り組んでおります。加えて、このようなこれまでの取組を基盤として、本町にある地域の自然、景観、食、文化、人材等の資源を生かし、国の施策を活用し、新たな観光と地域の活性化ブランドを創造し、組み込まれた観光地から選ばれる観光地への変容を図り、長期滞在、周遊型観光で魅力ある観光地づくりに向け取り組んでまいる考えでありますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、3点目の火山との共生についてですが、20世紀4回噴火した有珠山や近年全国的に激甚化、頻発化している自然災害に備えたまちづくり、人づくりが重要となっております。具体的なこの3年半の町単独での取組を申し上げますと、防災行政無線の更新と戸別受信機の全戸配布、避難道路である町道滝之町中島1号線の整備、避難所看板の更新、旧立香ふれあいセンターなどの避難所予定施設の改修やトイレの水洗化など、社会資本整備を進めているところであります。

また、コロナ禍等を踏まえた避難所の見直し、民間施設を活用した福祉避難所の確保、避難所運営マニュアルの更新、防災備蓄計画の見直しに基づく備蓄食料、資材の計画的な購入、民間企業との協定に基づく食料品や生活物資、燃料等に係る流通備蓄先の確保、地域防災マネジャー資格を有する退職自衛官の採用や町防災学識アドバイザーの増員による体制強化、壮警小学校、中学校での防災キャンプ事業や町広報を通じた各種普及啓発活動、火山災害以外の災害による影響予測なども掲載した壮警町防災マップの発行、配布など、計画的に財源や施策を活用し、取り組んできたところであります。

このように総合的に取組を展開してきたところであり、一定の成果が図れたと考えております。こうした中で、有珠山噴火避難マニュアルや地域防災計画等につきましては鋭意策定作業を進めており、一部の検証作業や関係者、関係機関調整を残してほぼ完成しており、遅くとも本年度中に町防災会議等を開催し、所定の作業を完了させる予定であります。また、自主防災組織を含めた普及啓発につきましては、組織化に向け、枠組みや認識の共有に向けて検討を行っており、町民の皆様の理解促進、啓発活動に引き続き取り組んでいく所存であります。町民の皆様の生命、財産と生活を守ることは地方自治体の重要な役割であり、皆様の安全で安心な生活の確保に向け、今後も取組を進めてまいる所存であります。

次に、4点目の公正、公平で開かれた町政の推進についてご答弁申し上げます。さ

きの選挙を通し、多くの町民の皆様、農業、観光業など様々な業種の方や世代の方と懇談、対話をさせていただきました。そうした中で、町民の皆様一人一人に向き合い、思いを受け止め、行動することを政治の基本姿勢として、公正で公平な町政、町民の皆様と共に歩む町政、課題解決に果敢にチャレンジする町政を信条として、「明るく元気なまち、そうべつ」を目指し、公約を掲げ、その実現に向け、町政運営に当たらせていただいております。

ご質問の具体的に取り組んできた内容の例としましては、第5次壮警町まちづくり総合計画の策定に当たっては、町の課題を共有し、課題解決に向けた施策と将来展望を町民の皆様と共に検討することなどを目的として、まちづくり懇談会や分野別懇談会などを可能な限り設定し、皆様の参画を得た中で策定し、ビジョンをお示したところであります。その後も財政状況を勘案しながら、諸計画に基づき、国、北海道等の施策や財源を活用し、施策を展開しているところです。また、町政の持続、発展に重要な財政の状況につきましては、広報やホームページの活用はもとより、コロナ禍ではありますが、感染対策を行った上で自治会長会議や町政懇談会などを開催し、情報の共有を図るなど、開かれた町政運営に努めているところであります。

なお、ご質問の冒頭にありました当初想定していない新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、感染症から町民の皆様の生命と生活を守ることを最優先事項と捉え、町民の皆様一人一人に向き合い、日常生活や地域経済への影響を各所管で把握し、その対策に全庁挙げて取り組んでいるところであります。コロナ対策には多くの労力を傾注しているところですが、国や道の財源を活用し、人材を雇用、配置するなど体制を整え、庁内全体の事務事業を遂行しているところであり、これからも適切な進行管理の下、施策を推進していく考えであります。

以上、ご質問に沿って取組の概要と今後の見通しについて答弁させていただきました。町政運営の評価については、議員各位、町民の皆様にご委ねるべきと認識しております。私としましては、残された任期、山積する課題の解決に向け、全力で取り組んでまいり所存であります。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご答弁といたします。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） それでは、まず基金減のない財政運営について再質問を進めます。

答弁もございましたが、実質単年度収支の推移でありますけれども、令和元年、マイナス 667 万、令和 2 年、マイナス 150 万、そして令和 3 年度、プラスの 2 億 4,797 万 3,000 円、黒字でございます。ちなみに、平成 30 年度はマイナス 7,500 万、平成 29 年度はマイナス 8,400 万、平成 28 年度は 1 億 5,100 万円の赤字でありました。そして、答弁もございました。6 年ぶりと言いましたか、平成 27 年以来の黒字の決算であります。しかも、プラス 2 億 4,700 万を超えるという実績でございます。それか

ら、財政調整基金の残高についてもご答弁がありました。令和元年度は、年度末の残高でありますけれども、3億4,900万、令和2年度はプラスに転じて3億9,200万、そしてこのたびの令和3年度の決算で6億6,827万8,000円、プラス2億7,600万円を積み上げたということになります。ちなみに、平成30年は3億9,000万、残高です。平成29年度は4億4,600万、28年度は5億4,800万でした。これはピークかどうか分かりませんが、平成27年度、6億7,149万6,000円、これに並ぶ数字になっております。改めてこの2つを見ても、十分評価できるというふうに言えると思います。

そこで、答弁にもありましたように、以前から何回か財政運営について質問しておりますが、そのたび収支改善を最優先課題として、徹底した歳出抑制や活用できる財源の調査、確保などに全庁挙げて取り組んできたという答弁もありましたし、また第5次行政改革の推進に加えて、事業別に決算額の経年推移から支出傾向を把握して事業評価を行い、予算に反映して事業費の大幅な削減等にも努めてきたという答弁をいただいておりますけれども、改めてこの際取組の要点、肝といいますか、その辺のところ分かりやすく、あるいはその仕組みについても再度お伺いしたいと思うのですけれども、よろしく申し上げます。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 私から答弁を申し上げます。

執行方針でも述べましたけれども、地方財政法の規定であります予算の編成、査定
の段階から決算を見越した額を計上するということと、執行に当たっては歳入については確実な歳入と、歳出では充
当可能な財源の調査と節減に努めると、こうした規定が地方財政法にあって、その原点に立ち返る取組をしてきた
ということではないかなと、このように思っております。平成30年度までの町の財政状況も含めてご質問が
ありましたけれども、厳しい財政収支の状況から、施設の廃止のみが議論されていたのではないかと
思っているところであり、自治体では基金減がなく、経営されていると。他の自治体を見ますと、必
ずしも壮警町の財政状況のところが多くはない。こうした状況から、その現状を探っていった結果が、先
ほどの答弁で申し上げたとおりですが、執行方針で述べたとおり、地方財政法の規定に基づいて着実に
予算の執行に関しては収入も支出についても行っていくということを徹底していたということに
尽きるのかなと、このように思っているところであります。

そのために各課所管している歳入と歳出があるわけであって、その執行管理を十分
それぞれが適切に、予算割れがないか、執行抑制ができるかということに努めて、総
体的にそれを全部やっていくと結果として予算の執行どおり、当初の見立てどおりの
執行ができる。もちろん災害ですとか新型コロナウイルスのような突発的な困難に出
会うこともありますけれども、そのときも英知を結集して収入の確保に向けていくと、
このような取組の成果ではなかったかなと思っております。個別に例を挙げると財源

確保でも様々な点がありますが、今原則論として取り組んできたことについてまずご答弁をさせていただいたところです。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 決して手品ではなく、正道といいますか、地方財政法に基づいて適宜適切に運営したというふうなことでございますけれども、地方財政法というのは多分どの地方自治体でもその法に基づいて、その法の考え方にのっとって財政運営されているのでしようけれども、でも結果としてうちの町が過去に歩んだような経過をたどるまちもあれば、健全で、あるいは基金を積み増ししていくところもあれば、財政破綻の危機に面している自治体もあるというのが現状ではないかというふうに推察するわけでありまして、ただ具体的に、ごめんなさい、ここ別に突っ込みどころでも何でもないのでございますけれども、評価した上で、どこに肝があったのかということをつまびらかといいますか、分かりやすく伺えたらというのがずっと思っていることでもありますけれども、進めますが、前にも質問したことがありまして、当然健全な財政運営に努めるという自己管理の下でありますけれども、外的な要因といいますか、先ほど町長もおっしゃった災害等の突発的な要因もございまして、例えば公債費の推移なのでありますけれども、これも以前指摘といいますか、事実をつまびらかにしたことがあるのでありますけれども、例えば公債費、この数年の推移でいいますと令和元年は、公債費というのは町が負担する借金、その元本、利息の返済でございますが、その公債費の推移は令和元年度は5億2,800万、令和2年度は4億8,200万、そして令和3年度、4億3,200万、ちなみに令和4年度の当初予算でありますけれども、3億6,688万円となっております、負担額が年々減っていると、これもプラスに働いた要因ではないのかというふうなことを感じるのですけれども、いかがでしょうか。

もう一つ、何といたっても地方財政に、特にうちのような小さい規模の自治体には地方交付税というのは本当に大きな影響を与えるわけでありまして、それに左右されていることもありました。歳入の40%を超えるわけでありまして、ちなみにこの動きも令和元年は16億9,300万、令和2年度は17億2,800万、令和3年度、これコロナもあったかもしれませんが、19億2,759万5,000円、決算額です。という推移をしている。増額しているということです。これ予算のときの説明で担当課のほうからありましたけれども、令和3年度の地方交付税の毎年の額を決めるというか、その基礎となる地方財政計画、国のです。これが出口ベースで、地方交付税ですけれども、5.1%アップするというのが令和3年度のたしか説明であった。令和4年度は3.5%アップするという説明があったと思うのです。改めて考えますと、コロナ対策で国が財政規模大きくなっていますけれども、地方を支援していくという意味の地方交付税が増額されているということも大きいのかもしれませんけれども、先ほどの公債費の内的な

プラス要因、それから大きな地方交付税のアップ率みたいなことも財政運営にプラスに働いたのではないかと、追い風になっているのではないかとというふうに推察するわけでありまして、その辺を含めて現状、今後の見通しを再度伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） これも私からご答弁を申し上げたいと思います。

まず、先ほどの答弁の中で具体的なことを答弁していませんでしたので、若干冒頭で紹介をさせていただきますと、令和3年度の収支の改善の要因といたしましては、例えば入湯税を、コロナの直前でしたけれども、引き上げさせていただいて、こういう財源確保を図っているということですか、平成30年度に比べての話として、例えばふるさと納税についても当初3,000万弱であったものが1億2,000万円に上がっていると、企業版ふるさと納税も担当の努力により、内閣府の認定をもらいまして昨年度から受入れ可能となっておりますけれども、賛同する企業さんからの収入がある。こうした財源確保によるものが要因として挙げられると。

それと、自主財源を使わないで取組ができています。例えば令和3年度から4年度、2か年で取り組んでおります農業情報の通信環境整備対策事業については、これにつきましては全国で11団体、道内で4団体、そのうちの一つの団体が壮警町で、総額2,000万円以上を全額ほぼ国費で賄って、そういう企業や団体の参画も得ながら、農業、農村の将来像を検討しているところであり、ほかにもスポーツによる地域づくりですか、こうした努力の積み重ねもあるということと、さらに3年度につきましては2度、3度と除雪経費を補正させていただきましたけれども、当初予算3,000万円弱であったものが決算ではその倍以上になっていると、こういう状況も北海道の建設部、総合政策部並びに開発局に実情を訴え、補助金ですか特別交付税の積み増しをいただいたところである。

また、数字には出ませんが、特定課題の解決のために派遣職員を道から派遣していただいている。財政措置のある地域おこし協力隊を活用させていただいたり、地域防災マネジャーの採用など体制整備を行っている。コロナという困難でありますけれども、国の交付金を活用して取り組んできたこともあり、こうした積み重ねから決算で6年ぶりの黒字になったと、このように認識をしているところであります。それと、公債費が年々少なくなっていることも、それは要因の一つと、このように認識をしているところであります。

それと、交付税につきましては、先ほど議員がおっしゃられたとおりでありますけれども、本年の6月1日に財務省が発表しました本年4月末現在の令和3年度の国の税収については、法人税が令和2年度比24.2%増の8兆1,386億円、国の国税です。所得税は19.3%増の21兆868億円、このように全体としてはコロナで閉塞感があり、特に道内ではそういう空気ではありますけれども、一方で令和3年度については国税

が空前の税収にあったということがあって、私も 40 年弱ですけれども、地方行政の中におりますけれども、地方交付税が再算定されて増額になったということはあまり記憶にないことでありまして、こうした要因が背景にあり、地方交付税、特別交付税の 3,000 億円以上積み増しになったものを含めて約 2 億円の増加になったと、このように思っております。交付税に左右されるところは大変、小さな自治体でありますので、ありますけれども、交付税に左右されずに自主的な財源で運営が賄っていただけるように今後も努めていきたいと、このように思っているところでありますので、よろしくお願いいたします。

○副議長（森 太郎君） 2 番、松本勉君。

○2 番（松本 勉君） 今町長のお話ししたとおりでありまして、周りを見渡すとコロナ禍で疲弊している。特に北海道、田舎はまた別かもしれませんが、ただ国の税収というのは令和 2 年度が 60 兆円、令和 3 年度は 67 兆円、1 番なのです。1 番というか、レコードつくったぐらい。だから、そういったことが不思議だけれどもあって、所得税もそうですけれども、賃上げがどんどん続いているから、その所得改善によって上がっている。そういうことで、豊富な財源で、コロナもごさいますけれども、強い力で地域を支援しているというのが背景にあるわけなのです。改めて多少驚いたのですけれども、ただそれに浮かれている場合でも、特にちっちゃい自治体はないですし、当然自律といいますか、自らを自らで律して進めていかなければいけないというのが原点ですし、しかもまた我々の町、この後中学校の移築、建て替えというのでしょうか、プロジェクトもごさいますし、大規模な、それから例えば改良住宅の移築も考えなければいけないだろう。もしかしたら、その先に壮瞥高校の問題もあるかもしれない。

あるいは、今まで事業費を抑えたという中には、本来であれば経年劣化で改修が必要な、例えば施設の屋根だとか壁だとか廊下だとか、そういったものを我慢して使っているという状況もあるのだろうと現状思いますので、それを含めて、かといって財政が多少改善したから、それをどんどん進めていくという話を要請しているのではないのですけれども、大きなプロジェクトを目前に、当然財政計画をつくらなければいけないわけですが、それも含めて今後の見通し、それから地方交付税、この追い風がどんどん続くかどうかも定かではないわけでありまして、町長答弁していただいたと同じなのですけれども、地方交付税の増減に左右されない財政運営、まさにそれに尽きるのでしょうかけれども、今後の見通し含めて町民にご説明いただければと思うのですけれども、この問題について最後をお願いします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 私が答弁していないところも発言していただいて、ありがとうございます。

今後の財政運営についてでありますけれども、令和 3 年度の決算、これから議会で

ご審議をいただくようになりますけれども、6年ぶりの黒字となっているところでもあり、基金保有額も増加しておりますけれども、実は壮瞥町だけの傾向ではなくて、道内や全国のほとんどの自治体において、それぞれの努力により健全な財政運営の下で自治体運営がされていると、こういう時代であると私は認識しております。基金減のない経営につきましては、令和2年度、3年度、成果を得たところでございますけれども、今松本議員がおっしゃったように、これから計画的に社会資本整備を行っていく計画でもありますので、町の持続、安定的な発展には健全財政運営が不可欠であると、それと不確定要素でコロナ禍でもあり、国の税収がどのようになっていくか、社会情勢、国際情勢も不安定な中で、今後の見通しというのは非常に難しいところでもありますけれども、さらなる健全な財政運営に向けて国の情勢等を注視しながら健全な財政運営の下で全庁挙げて取り組み、豊かさを実感して利便性を分かち合える町政を、持続的な町政運営を行っていききたいと、このように思っておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○副議長（森 太郎君） これより休憩といたします。再開は11時10分といたします。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時10分

○副議長（森 太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 農業振興、農業の担い手育成と確保、担い手支援施策の推進について再質問をいたしたいと思えます。

本町では、新規就農フェアへの出展ですとか、農業シェアハウスの整備、農業研修時あるいは就農時の貸付金だとか、農地、機械取得費の支援など、国の事業を補完する形の農業雇用奨励貸付金など施策を進めてまいりました。田鍋町長が就任されてからは、所管をする産業振興課、農業委員会の事務局の体制強化を図るということを明言されました。そして、担い手育成センター、この機能強化という意味で構成団体を町、農業委員会、農協に加えて、高校ですか、それから指導農業士、それから農業法人等を加えて機能強化を図るというふうなことを進められてきております。新たに、令和2年からでしたでしょうか、道立農業大学と連携を図って進路相談会、キャリアサポートに農業者と同席して説明をして、それが結果的に町の新規就農にもつながったという実績もございました。このような施策を進めておりますが、その中でというか、その考え方として就農相談から研修、実習の受け入れ、あるいは後継者を含めた就農後の技術や経営管理の研修、それから雇用、就農後の研修やキャリア支援など、体系的で一貫した支援体制の確立が必要だということを明言されて施策をしてきたということで、これ確認でございますけれども、これでよろしかったですか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

ただいまの確認といえますか、新規就農相談から就農研修、研修終了後のフォローアップまでの一貫した体制ということですが、この辺につきましては今現在取り組んでいるところをごさいますて、事前の研修に入る前に面談形式での審査会を開いたりですとか、その以前の相談の段階で全くの初心者の方に対しては一旦雇用就農という形で農業のことを知ってもらうようにとか、そういった形での対応を取らせていただいております。フォローアップの部分については、まだ具体的な事例は申し上げられるものはないのですが、これから随時検討して反映していきたいというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） この先質問しようとしたやつを答弁いただいたのですが、まず考え方の確認だけしかかった。その上で、今年度当初、これも質問させてもらっていたのだけれども、その答弁の中で就農支援について就農研修やうちの町の支援策が就農時に集中していると、そこで雇用就農を含めて就農後のフォローアップを進めることが課題だということで課題の明確化をされたわけです。

その上で、今年度は就農計画策定時の審査方法の見直しだとか、ちょっと答弁ありましたけれども、それから研修中の相談、研修相談に検討するとか、あるいは事前体験研修でしたか、その推奨ですとか、研修計画認定の際の審査会の導入、あるいは審査するときの検討会というのですか、そのメンバーとの意識共有などを図るというようなことを年度当初の答弁で聞いたものですから、コロナ禍ではございましたけれども、具体的にどのように対応されたのかなということを聞いたかった。若干答弁いただきましたけれども、もう一度分かりやすく答弁いただければありがたいのですが。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

まず、新規就農の方の受入れ態勢なのですが、就農認定の際の審査会ございますが、その構成メンバーの方々により、現在の支援制度の見直しに関しまして打合せ会議を開きまして意見交換等を行いまして、今の制度のいいところ、悪いところ、こういうところ。もう古いので、時代にそぐわない部分ですとか、そういうところもございまして、そういったところの問題点の抽出だとかをしながら、今検討会を開いて、1回終わっているのですが、2回目、3回目という形でこれから開いていって、より充実した支援制度の構築に向けて検討してまいりたいというふうに考えています。

それから、先ほどもちらっと申し上げましたけれども、就農相談、新規に来られた方に対して、4月から雇用就農という形で、いきなり就農研修ではなくて、まずは雇

用就農という形で農業を知っていただいているというようなアドバイスも行っておきます。それから、この6月から就農研修を始められた方の研修計画の認定の会議では、本人にご出席いただいて、対面でプロポーザル方式といいますか、そういう形での審査会を開催しております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 審査という言い方が適切かどうか、審査会になっているから、それでいいのでしょうかけれども、就農を希望する方の研修計画を出していただいて、面談したり、その内部検討、審査会の中身、何を検討して、何をやり取りをして、是非ではないのでしょうかけれども、アドバイス含めて進めていくのか。速やかな就農と、それから最終的には就農支援と経営健全、一個の経営体として成り立つように進めていくということになるのでしょうかけれども、具体的にどんな検討、中身にしていくかを今、制度設計と言わないな、メンバーとして協議をして中身を検討していくと。実際に新たに来た方に対して、その導入による進め方はまだやっていないということなのでしょうか、具体的に。すみません、あまり細かいことは別にいいのですけれども、新たな新規就農の希望者に対してそういった新たな対応施策で対応していったというようなケースはまだないということでもいいのでしょうか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

検討の結果を反映した形で、新たな形での新規就農の受入れということですが、残念ながらそこまでまだ中身が具体的に固まっていない部分があって、できることからまず手をつけてはいるところではあります。

○副議長（森 太郎君） 暫時休憩。

休憩 午前11時19分

再開 午前11時20分

○副議長（森 太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

副町長。

○副町長（黒崎嘉方君） 私のほうで若干整理させていただきたいと思います。

今回取り組んでいるやり方なのですが、入り口の段階で、どうしても入ってきて、そして辞めていく方もいらっしゃるものですから、入り口の段階でもよく指導したり、方向づけを間違わないようにしようということで、お試し研修みたいな形で、そういうのを推奨して、実際そういうふうにならざるを得ないところもありますし、それからそういう段階から今度実際に就農しようということで、役場の規定に基づいて、担い手センターの規定に基づいて就農していくときには就農計画というものを提出しなければならないのですけれども、その審査は今まで書面みたいな形でしかやっ

ていなかったものですから、人となりも実際にコミュニケーション取りながら、プロポーザル方式とは言ったのですけれども、計画をちゃんと自分の口で発表してもらって、それでみんなで審査会で評価して、意見交換もしながら、こういうふうにしたほうがいいのではないのとかと、そういう指導もしながら認めていく、そういう形をまずやってみようということでも今やっているところです。事例はまだ1件かそこらぐらいしかないと思います。そういう形でやっています。

それから、フォローアップについてなのですけれども、うちの研修体系を見ると、ここに入ってしまったから勉強する機会がほとんどないということに気づいたので。就農後3年ぐらいの間はやはり技術も未熟ですし、経営をする計数管理、そういったものも見よう見まねではなかなかできない部分もあるので、実は私の元いた農業大学校でそういう研修をやっていますので、そこに、旅費だとか研修費用はすごく安いものから、少し支援をしながら行っていくような機会をつくったらどうかということで、それを盛り込んでいるのですけれども、実際のところ去年までは、今年もそうですけれども、コロナがあつていろいろ研修計画がうまくいかないものから、実際のところ結びついたものはないのですけれども、これから4年以降についてはもう少し予算立てもしながら、そういうところに、現在就農している若い担い手もそうですし、新規就農した方もそうなのですけれども、そういう研修に短い期間で勉強に行く機会をつくってあげたいなということをフォローアップ。それから、雇用就農で入った方も、いろんなことがあつて途中で挫折する方もいらつしたものですから、そういう方の意見交換みたいな、そういうことも途中で盛り込んであげて、どんなことを課題抱えているだとか、何か不安を持っているだとか、そういうことも聞いてやる機会を設けたらどうかと、そういうのが私が言っているフォローアップということでございます。

こんな取組をしているということです。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 実は、この後、今副町長にご答弁いただいたフォローアップの中で道立農業大学でやっているキャリア支援、実施している各種研修を活用したフォローアップ研修、これこの3月にたしか答弁、説明あつたのです。その具体を聞こうとしたのですけれども、当然コロナ禍ですから、厳しいのでしょうけれども、その考えに変わりなく、今後それを進めたいと。了解いたしました。

コロナ禍ではありますが、今後就農相談ですとか就農計画の策定、それから就農研修の受入れ、そして就農後のフォローアップまで一貫して切れ目のない支援、今後もそのように進めていくのでしょうかけれども、今後一体的に支援していくために、新たにも含めてですけれども、どの辺のこと、肝といいますか、こういうことが必要であるという今後の見通しについて、考え方について最後にお伺いしたいと思うのですけれども。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

新規就農者、雇用就農者も含めてですけれども、今後どのような施策をメインとしてということでもありますけれども、人材を育てるという部分で大事なものは、環境といえますか、教えていただく指導農業者の方ですとか、また農業の専門機関ですとか、農大ですとか、普及センターさんなんかも含まれると思うのですが、そういうところとの連携を強化して、お互い意思疎通を図りながら、研修される方の自立といえますか、自営に向けてしっかりと指導していけるような体制を組んでいくということが大事なのではないかというふうに思います。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 副町長。

○副町長（黒崎嘉方君） 少しだけ補足させてください。

私が思っているのは、ここで農業をやりたい、ここで農業の仕事でなりわいを立てたいと来られる方はやっぱり人生をかけて来ると、そういうことですから、一人前の職業人になるように、育てるように地域全体で見守って、あるいは時には厳しく指導して、とにかく時間をかけながら受け入れていって育て上げる、そういう体制を取るのが一番いいのかなと思っています。いろんな地域のことを見てくると、入ったけれども、なじめず挫折するという案件も結構多いものですから、地域の農業者ですとか皆さん方、一般の方もそうなのですから、皆さんで育てるという環境、そういうのを全部入れて受入れ態勢と言うのですけれども、それをきちっとしていくのが一番かなと思っています。

ただ、そんなことは一朝一夕にできることではないので、そこをうまくいくために研修前の計画づくりのときからちゃんと指導しようとか、研修中のフォローアップもしようとか、研修後のフォローアップもしようとか、そういう各段階は今僕らも歩きながらいろいろ見直していこうというふうに考えていますので、その都度施策の中身を、取組の中身を修正しながら、人生かけて来た人がここの町の農業を担っていただけるように育てていきたいなと、そんなふうなやり方でやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） それでは、続いて観光施策の取組についてお伺いします。

コロナ禍において、国の支援策のほかにも町独自で固定資産税の減免ですとか、上下水道の免除でしたか、それから商工業者の振興緊急対策事業など、あとビジット昭和新山キャンペーン等、事業、支援施策を展開してございますけれども、中身について、概要について、結果についてもご報告、説明いただいたところなのでありますけれども、肝腎なといえますか、事業者の声、一、二の声は聞きますが、あまり耳にする機会もないかもしれませんけれども、行政のところに伝わっている事業者の声とい

うようなところはどんなことなのか、お伺いしたいと思うのですが。

○副議長（森 太郎君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） それでは、私のほうから、新型コロナウイルスの対策で商工事業者のほうの評価といたしますか、声についてのご質問でございますが、商工業の緊急対策事業につきましては、コロナへの対策に係る経費であるとか、売上げに応じた減額に応じた支援をしておりました。これについては、特に観光事業者を中心に、売上げに対して補助ではとても追いつかないような大きなダメージを受けているのですけれども、国、道並びに町のこういった独自の支援によって非常に助かっているという声は聞こえてきているところでございます。シャッターをいつ開けるかとか、それから取引先の旅行会社からいつ入るか、仕入れも含めて非常に不安定で、先行きの見えない不安な状況の中で、まとまった経営の安定を図るという意味でも事業の資金として支援をしていただいているということに感謝の声も聞こえております。

ビジット昭和新山キャンペーンにつきましては、駐車場代を実質無料にする商品券のキャッシュバックといたしますか、それを昭和新山、壮瞥温泉地区で使っていただくという事業なのですが、事業所によって使われる枚数の濃淡、大小はございますけれども、おおむね全事業所さんのほうから換金が上がっているということでございますし、見て帰る人たちにお金を使わせるという行為は評価を受けて、次回もやってほしいというような声も聞こえております。

もう一つは、プレミアム商品券についてでございますけれども、昨年度もご答弁申し上げましたが、農産品と、それから商工サービス用という、この2つを組み合わせることによって特に町外からのリピーターが増えた。果物を購入する方が商品券を使い切ってもまた来てくださるというようなことがあったり、それから工事の発注が、建設業者さんですか、のほうにあったり、そういった効果もあったということ聞いております。お店に来て、財布の中が商品券でいっぱいだったというような方もいらっしゃったということで、少なからずそういった声を商工会や観光協会を通じて承知しているという状況でございます。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 事業者の声は分かりました。

答弁ございましたポストコロナの観光施策というか、観光の方向性と言えいいのでしょうか、どう対応していくか。結論から言ったら、地域の魅力を発信して、選ばれる観光地になるように変容できるようにしていきたい。魅力ある観光地づくりというようなことで、言葉では分かりますけれども、具体的な内容はどのようなことかということですが、魅力というのは相手から見ての吸引力といたしますか、行ってみたいと思わせる力であります。やっぱりそれは、ほかと違う魅力というか、差別化、人種差別とか、そういう意味の差別化ではなくて、経営用語の差別化。ほかとの優位性

を強調して、いかに魅力を発信して人を引きつけるかという差別化であろうと思うのですけれども、私が言うまでもなく、観光地としての要素はほぼ備えていまして、ロケーションだったり、温泉だったり、それからいろいろ食べ物だったりあるわけでありまして、その中で新たな要素といいますか、選ばれる観光地となって長期滞在や周遊観光につながるような、一応、言い方はあれだけでも、エージェン参加したり、アドベンチャートラベルやスポーツツーリズムなど、あとジオパークの資源活用などしながら進めるというのは、言葉では分かるのですけれども、その組み合わせといいますか、この方向性、これを具体的に説明してくれと言っても難しいかもしれませんが、もう少しみ砕いて分かりやすく、こういうことだというのがあれば理解しやすいのですけれども、いかがでしょうか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ポストコロナを見据えた選ばれる観光地づくりについて、どういった進め方をするかというご質問でございますが、これということ限定すると、コロナのような事態があった場合に団体観光客がぱたっと来なくなったり、インバウンドがほぼ来なかったりということに翻弄されてきたのがこの3年ではなかったかと思えます。団体観光客というのは依然当町の主力でございます、今国の観光施策が5万人、外国人の受入れを緩和して、本日の報道にもありましたけれども、という中でもまだ依然ビザの発給を要件にしたり、なお回復には時間がかかるであろうと思えます。そうした中で、では何に取り組んでいくかといいますと、団体観光客の回復を待ちつつ、いろんなことに取り組んでいくというのが求められているというわけでございます、当然これはほかの市町村でも同じように、誘客ということで同じようなことを考えているような状況でございます。

そうした中、当町の差別化というのは、今議員のご指摘の中にありましたけれども、ジオパークであったり、それから農業をはじめとする産業、それからガイドツアーとか温泉とか、そういった要素はほかからうらやましがられるようなコンテンツがいっぱいあるわけでございます。これを発信するために、先ほど答弁にもございましたが、当町はSNSのフォロワーが全国第2位ということでございます。ですから、こちらにあるものを選んで見に来てくれる、情報を取りに来てくれるというお客様をターゲットにするということも一つです、その中には長期滞在もあるでしょうし、ジオパークを楽しむ方も大勢いらっしゃるだろうと思えます。ほかにはないものというものを壮瞥町としてこれから見いだしていかなければならない。それが団体観光客が戻ってきたときに相乗的に大きな効果を生むということを目指していかなければいけないと思えます。

例えば一つの例といたしまして、アニメによる観光というので大成功したまちもございます。聞くところによりますと、当町の聖地巡礼ツアーということで、一部の景色がアニメに出てくるような場所であるというようなことで、ひそかに回られている

ような方もおられるわけでございます。これは、その景色を見にわざわざ町を訪れるというようなことにつながるわけございまして、その方々にどうやってお金を落とさせていくかというような、ニッチというか、狭義の狭いところを狙ってくるお客様というのも存在するわけでございます。そういった方々への仕掛けも必要でございますし、当町にある資源をいろいろ組み合わせて観光振興に結びつけていくことがポストコロナの復活に大きく力を与えてくれるものではないかと、このように考えているところでございます。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 若干論点を変えて、質問というよりも考え方を述べさせてもらいたいと思っておりますけれども、偉そうに言う話でもないのですが、過日新聞にも載ってございましたけれども、釜石でよかったでしたかね、岩手県の修学旅行の生徒に壮瞥中学校の生徒が、有珠山でいいのですか、昭和新山でしょうか、説明を行った。ツアーガイドの一端を担って、事前研修して説明をした。本町でも火山マイスターの皆さんがそういったボランティア精神にのっとりお客さんに対して、あるいは研修の人に対してガイドを行っているということあるのですけれども、中学生が中学生に対応したというのが記事が載っていました。

非常にどちらにとってもすばらしい体験だったろうと思っておりますけれども、ちょっと論をずらしまして、こういうことが成り立つ地域というのがうちの町なのではないかと、私が言うまでもなくです。そして、先ほど言ったように、火山があって、すごいランドスケープというのでしょうか、迫力、地球そのものを感じる有珠山、昭和新山を見上げながら地球の成り立ちや地域の成り立ちを学ぶという、ただその一瞬だけの聞き取りではなくて、中学生を指導できる。それは、小さいときから子ども郷土史講座などの土壌があって、地域の生活があって、文化があって、暮らしがあって、その延長線上でそういったことにつながる。こういうところが実は大きくて、地に足のついた、自分たちが持っているポテンシャルと言いますけれども、潜在能力なのでしょうけれども、これはあまり感じていない自分の力ではないかと思うのです。

それを、答弁にもございましたけれども、地域資源ミックスさせて発信していくことになるのでしようけれども、ほかとの差別化を図るのであれば、火山との共生というキーワードが合っているかどうかは別ですけれども、そこに関わって火山と共に生活すること、それを活用すること、あるいはそれが地域にアルカリ土壌を生んで食べ物に還元されていることですか、そしてそれが暮らしや文化につながっていくという、そんなことを力強く発信というよりも、地道にやっていくことが注目を浴びて、ほかとの差別化につながって、魅力の発信になるのではないかとということの日頃感じてございまして、その辺を力点と言うのも変ですが、着実に進める。これこの後の質問にもつながるのですけれども、火山との共生、要するに行政がやる守備範囲

ってあると思いますけれども、住民の皆様にも協力してもらう、ないしは住民の皆さんの自らの意識もきちんと持ってもらって、生活の、あるいは文化の延長線上に観光としての連携、観光との連携があつてというふうになれば理想ではないかというようなことを感じながらいたのですけれども、改めて火山防災の実践、あるいは火山の学習などの機会提供、そしてそれが観光と連携していくという方向性について考え方がなのでしょうか。火山防災の先進地を広い意味で目指す、それが観光につながっていくという考えはいかがでしょうか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

私はジオツーリズム推進係長という役職も実は持っておりまして、今ご指摘の点については、同じ考えでご答弁させていただきますけれども、ジオパークというのは、今壮警中学校の生徒さんが釜石中学校の生徒を修学旅行でガイドすると、これ以上のものはないなと思っております。もともとは、2000年噴火の後、壮警が被災地という形になったのを、それを逆手に取って、エコミュージアム構想から有珠山ロープウエーガイドを地元の団体が専門部会をつくってガイドし始めたところからジオツアーというのは始まってございまして、今洞爺湖有珠火山マイスターという資格を持った方に、旅行会社が火山マイスターと行く有珠山ツアーという触れ込みで、逆に言うと火山マイスターしかできなくなったのですけれども、ツアーを組んでいただけるところで、コロナ前の2019年度の実績で、有珠山ロープウエーのジオツアーが9,100名だったそうでございます。これは、地元のガイド部会設立のときの4倍になっていまして、明らかに教育旅行を中心に成果が出ているもの、こういった地域の火山との共生というものを目玉に、減災文化、災害を減らす文化をこの地域では伝えているのだと。そして、地球のダイナミズムを来訪者に伝えて、教育や文化、産業、全てにおいて地域を活性化して持続可能な社会をつくるというジオパークの理念そのものであるということをガイドさんは訴えてきております。それが災害が多発する日本において、先進地と言ってよろしいかと思うのですけれども、そういったイメージで浸透してきたのではないかと思います。

そこにつながってくるのが、釜石中学校の生徒に壮中の3年生の生徒さんがやっていただいた。これは、生徒にとっては、人前で自分の地域のすばらしさや先祖が受け継いできた災害を減らす文化を誇りを持ってガイドできるというすばらしい機会でございます。相手方の学校からも非常に高い評価を受けたというふうに聞いております。また、これを火山マイスターがアドバイスすることによって、生徒さん自体がより地域の文化を見直して、誇りを持って、また対面でコミュニケーションを取って堂々と発表できる機会を誇りに、その後の観光につながっていく。それが世代がどんどん若い世代にバトンを受け渡していけば、火山マイスターの理念の理想は住民皆マイスターということで、誰に聞いてもそういったことが分かるということで、次の噴

火に備えてすぐ逃げられる知識を持つというようなことを目指しているわけでごさいますし、ご指摘のとおり、それがこの地域の売りになっていくものと私は信じておりますし、またこれはそうそう簡単に根づくわけではございませんで、長い目で見て、地域の防災学習会であったり、ジオツアーであったり、そういった機会をどんどんまた観光につなげていけるようにこれからも努力してまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 町長。

○町長（田鍋敏也君） 私からも少々補足をさせていただきたいと思っておりますけれども、釜石中学校と牡警中学校の交流が行われた背景につきましては、もともと牡警町の観光協会長をはじめ、観光協会の人たちから、ウポポイを活用した何か圏域の振興策はないかという、そういう話題のテーマのときに、国策として造られておりました東北新幹線の影響によって東北地方の小学生、中学生、特に中学生の修学旅行が新幹線開業とともに関東圏のほうにシフトをしてしまったと、このようなことを受けていて、私どもの地域は少なくとも中学生はほとんどコロナ前は東北地方に行っていると、今も行っていると思うのですけれども、実際詳しい統計で数字は分かりませんが、ほとんど6割ぐらいが関東圏に東北地方の中学生が修学旅行に行っていると。こうした実態を少しでも、ウポポイですとかジオパークもありますし、北海道・北東北のユネスコの縄文遺跡もありますし、こうしたウポポイを活用して周遊できるということを中心に東北地方を中心にPR活動してはいかかと、このようなことを3年ほど前から話し、なかなかコロナでプロモーション活動ができない形ではありますけれども、胆振総合振興局のほうで独自事業としてその取組を、プロモーション活動を昨年度も今年度も予算化して、独自事業としてしておりますし、その中に子供たちの交流もあったほうがいいのではないかと、人材育成も含めて、そういうプログラムの一環であるということも補足をさせていただきたいと思っておりますし、釜石市においても津波てんでんこで有名なように防災教育を長年行ってきたところであり、牡警町においてもまるごと牡警という、いつも子ども議会で発表されますけれども、ジオパークですとか地域防災を学ばれた成果を子ども議会で発表していただいておりますけれども、そうした両校が今回交流を持つことができた。この縁を大切にしながら、今年はコロナ禍にあってもプロモーション活動を実施するという情報もありますので、そうした地域振興の面でもつなげていけるようにしていきたいと、このように思っているところでありますので、補足をさせていただいたところで。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） では、火山との共生というところで、3点目です。質問続けてまいりたいと思っておりますけれども、先ほど観光の最後のほうではないですけれども、

行政施策の展開によって住民の防災意識の高揚を図ることがひいては火山防災先進地域を目指すというようなところにつながって、それが広い、長い目で見れば観光にもつながっていくのではないかなというようなことを言っていましたけれども、火山防災先進地域を目指すそう、地域全体でというところで質問を進めますが、令和2年3月、防災に関する質問させてもらって、答弁いただいて、そのときに具体的で実践的な避難計画の策定が重要であるということがあって、伊達市、壮瞥、豊浦、洞爺湖町でつくっている有珠山火山防災会議において見直し、策定された有珠山火山避難計画、これが令和3年の7月に見直された。それにのっとって町独自のマニュアル等を作成して、いつ、どこから誰がどこへどうやって避難するかを明確にしていきたいのだという答弁をいただきました。

そして、年が明けまして、令和3年、伊達市を中心とする、中心とはしていないのか、4自治体で構成する防災協議会でいいのでしたっけ、そこで有珠山避難計画ができましたということであったけれども、壮瞥町のホームページには更新されないで、平成27年度でしたっけ、作成されたままのやつが載っていますよねという指摘をさせてもらったのですけれども、その後直ってまして、令和3年7月のものが載っているようになっておりますが、そういった点も行政ができる範囲での防災意識の高揚という意味ではいかがなものかという質問をさせてもらった経緯があるのですが、今言ったように壮瞥町のホームページも令和3年7月に改定されたものに直っております。それが掲載されております。

ちなみに、防災の最初のほうを見ていきますと、これも令和2年から見直しをしてきた町の避難所の場所と人員が載っています。これも見直しをしてきたわけです。そして、プラスして壮瞥高校の体育館ですとか山美湖も加えて、あるいは福祉避難所として民間の蟠岳荘さん、湯人家さんも利用させてもらって、10名ずつの福祉避難所も設けて、これが防災の最初に載ってくるのです。それは非常に分かるし、そのとおりでいいと思うのですけれども、あともう一つは、壮瞥中学校体育館、従来240名だった収容人員を144名に少なくして、住みやすくするという意味なのでしょうけれども、それも分かるのですが、先ほど言った壮瞥町のホームページに載っている有珠山避難計画の中の資料がずっと載っていますけれども、これ前も指摘しましたけれども、そのときの避難所の収容人員は改定前の240名のままになっている。これは整合性がいいのではないですか、ないしは4自治体でつくる避難計画がそれだから、資料としてついているけれども、壮瞥町は、くどいですが、表面に出てくるのは最初に出てくるように収容人員を変えているし、福祉避難所もできているし、それが分かりやすくしているけれども、計画としてホームページに載っているその数字が違っているというのは整合性に欠けませんか。細かいことですが、その辺はどうでしょう、考え方としては。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

ただいまのご指摘につきましては、以前もいただいていたかと思いますが、今ご意見の中にもあったように、4市町として、実はもっと言うと4市町だけではございませんが、関係する機関等も含めた協議の中で決定をしている計画として成案化をされてしまっているのです、それ自体を4市町全ての計画を差し替えるような、そういう修正でないと、当町のほうだけ一部変えるというのはちょっと難しいかなというふうに思っていたので、まだ保留になっていたのですが、改めてご指摘もいただきましたので、事務局が伊達市になるのですけれども、そちらのほうとも適切な対応としてどういう形がよろしいかというのは協議をしまいたいというふうに考えております。現状では、町単独の町の判断で変える計画ではないという認識で現状維持していたというのが現状でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 細かい点ではございますけれども、実際必要なことは町民に密着して、いつ、どこから誰がどこへどうやって避難していくのだということが分かる住民生活に沿った避難マニュアルであるべきでありまして、そういった意味ではホームページの防災の最初に避難所の場所と人員が書いてあって、それは正しいことでありまして、細かいことですけれども、4市町で構成する防災協議会の資料がいかげなものかと、その整合性を指摘したままでございました。よろしく検討願いたい。

いろいろ施策、事業を進めているわけでありまして、いまだ残っているのが有珠山噴火避難マニュアル、それから防災の最上位計画であります地域防災計画の策定、見直しでございますが、鋭意策定協議を進めている。よく使われる言葉ですけれども、鋭意、まだ成案化、成文化完了していないところは、答弁あったかもしれませんが、どの辺のことなのか、具体的に分ければお伺いしたいのが1つ。

それと、ちょっと見方を変えまして、これは批判でなくて、やむを得ないわけですが、先ほど言ったように防災の最上位計画なんていう言葉使いますから、地域防災計画は国の法律にのっとってやらなければいけないということが義務化なのは分かるのですけれども、あるいは避難マニュアルもやると言ったから、完了するのは分かるのですけれども、問題は計画が完成した、完了した、それで事業が終わったということではないのではないかと。先ほど、ちょっと戻りますけれども、火山との共生、防災先進地域を目指すということであれば、その考え方が浸透して行って、住民生活に密着して、一人一人と言うと大げさですが、住民の足元からそういったものが浸透していくということ、行政として完成した後の計画、マニュアルをいかに浸透させていくかと、その辺に本当は力を傾注すべきなのではないかなと考えているわけなのでありますけれども、理想的かもしれませんが、その辺のことも併せて、今後完了はいいけれども、どうも行政は目標、計画ができた時点で終わってしまうと、

事業が。そういう意識も分からぬではないのだけれども、本当はもっとその先にそれをどう浸透させていくのかというところに力を傾注していく工夫はないのかということをお伺いしたかったのですが、いかがですか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

まず、1点目のちょっと遅れているマニュアルですとか防災計画の進捗、どこができていないのだというご質問でございますが、町としての考え方というか、それはほぼというか、できております。マニュアルに関して言うと、考え方はできているのだけれども、まだ検証が終わっていない部分が一部あって、具体的に言うと情報館に、これは住民の方というよりは役場のほうなのですが、情報館にいざというときに役場の機能を移転するというので、シミュレーション等はもう終わっているのですが、現実にはそれがどう機能させるのか、あるいは当然同じような業務を向こうへ行ってできるということは多分難しいと思うので、現実にはそうなったときに何をやる、どの業務をやるのかと、そういったものとか、あるいはそれに伴ってどういう備品を持っていくのか、そういう詳細のところを今年訓練をやって、確認をした上で最終としたいなというふうに現状では考えています。

それから、防災計画のほうに関しましては、こちらでも今年の春ぐらいにある程度出来上がって、当然その会議等を行う前に、関係する特に有識者の方というか、火山を筆頭に、あるいは防災学識アドバイザーの先生方、そういった方々に意見照会を求めたところ、結構いろんなご意見をいただきまして、その諸調整でちょっと手間取ってしまったところがあるのですけれども、あとは具体的に会議を開けば手続的には終わるのですが、前段で例えば町内の特に防災に関わる機関、具体的に言うと医療機関ですとか福祉施設、それから一部の観光施設、そういったところと意見調整を最終的に行った上で会議を開いて成案化という、その手続に進みたいと思っていたので、ちょっと言い訳がましく聞こえるかもしれませんが、基本的には最終のところが残っていて、それが終わったら、基本的に防災マニュアルと計画というのは内容が当然リンクするわけで、基本的には同時に完成するものだというふうに担当課としては考えているところもあるものですから、先ほど町長がご答弁したように、ちょっと遅れぎみではありますが、何とか年度内には終わらせたいというふうに思っています。

それから、2点目の住民周知に関してですが、まさしくご意見のとおりだと思っています。計画をつくって終わりではなくて、特にマニュアルのほう、特に避難マニュアルのほうに関しては避難をしなければならぬ方々に理解をしていただかないと多分機能しない。意味をなさないというものでございますから、こちらの作業の遅れで周知が遅れているというところは大変申し訳なく思うのですが、成案化した暁には今度は周知のほうにシフトして行って、どのようなやり方、どのような説明会、ないしは広報掲載、そういったやり方に関してはまだ検討段階ではありますが、機

会を捉まえて理解を深めていただく、そういう努力を成案化の後に進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） ただいまより昼食休憩といたします。再開は午後 1 時といたします。

休憩 午後 0 時 0 1 分

再開 午後 1 時 0 0 分

○副議長（森 太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

2 番、松本勉君。

○2 番（松本 勉君） 午前中に引き続きまして、最後答弁いただきましたけれども、近々完成できるでありましよう地域防災計画並びに有珠山火山避難マニュアル、完成が最終目的ではなくて、目標としてそれをいかに住民に周知していくか、意識に浸透させていくのかということに力を傾注いただきたいと思います。あわせて、自主防衛組織の組織化に向けて努力するという、これ就任当時から町長も口にしておりましたし、何回かの質問のやり取りでも町長及び担当課のほうから答弁も、コロナ禍あってなかなか進めないけれども、必要性を強調されておりました。第 5 次まちづくり総合計画にもいろんな数値目標があるのですが、一応この組織化も数値目標って入って入って、現状で、建部自治会でしょうか、1 自治会だけれども、数値目標としてそれを増加させる。極めて明確でありますけれども、アバウトな数値目標が載っていましたが、やゆするものでもないですけれども、実際難しい問題だろうということを感じていますし、そもそも自分たちの自意識の中で必要性を感じていないと自主防災組織を自前でつくっていくということにはなっていないのだらうと。実際災害対応だけでなく、住民は行政に頼り切りみたいところがあって、災害対応として住民自らが自助、互助、共助、公助でしたっけ、そういった段階をとというようなことを言われますけれども、それすらもなかなか理解されていないのかというようなことを考えますが、プラス先ほど言ったように行政依存の体質、これはうちの町だけではないですけれども、我々含めて住民は持っていますし、噴火後であっても、あるいは噴火に間近、火山の災害が間近なこの地域であっても何となく自分だけは大丈夫みたいな正常性バイアスみたいなところとか、本当は万が一の確率ではなくて千が一、百が一、10 分の 1 ぐらいの確率で噴火災害対応はあるわけですが、それが万が一ぐらいのイメージしか持っていないというのが現状ではないかということも重々分かっておまして、近年やっておりませんが、避難訓練の実施の際に壮瞥温泉の住民として自治会として参加をすることになっているのですけれども、自由参加呼びかけたら、せいぜい来れば 5 人です。それもそのうちの 3 人ぐらいは電話で無理やり引っ張ってきたみたいなのを含めてです。それが実態で、

壮警高校生徒が、学校から言われて来るのでしょうけれども、住民に代わって参加をしてシミュレーションに、自衛隊さんもそうだし、うちの役場もそうだけれども、そういうことの参考になっているというのは本当に頭が下がる思いですけれども、肝腎な住民が関心を持たない。

また、それから新たな有珠山避難の、火山防災ではないですけれども、避難経路のこういう経路をたどって避難所に行きますというような図面も示されたと思うのですが、そのシミュレーションもやったのだけれども、一人乗っているか乗っていないかみたいところで、先ほど言ったように、いつ、どこで誰がどうやってどこへ行くのだというようなことがふだんから、日頃から全然見についていないのが現状です。自己批判含めて言いますと。そんな中で、自主防衛組織を組織化しろ、住民意識に浸透させろと言うのは簡単なのですけれども、本当に難しい問題だと思うのであります。でも、一応立場で質問しますけれども、住民に関心を持ってもらうような工夫、何かないでしょうか、こういう質問です。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

今ご質問にあったように、行政で組織をつくるという類いのもものではございませんので、今ある1団体というのは仲洞翁の自治会なのですが、そちらも自発的に地域の方から組織化の相談があって、自主防災組織に至ったと。そういう形で進めていくというのが理想形だと思いますので、そうすると行政が中心になって施策を打つてというのですぐ出来上がるということではないのかなというふうには思います。ただ、重要性というのは今ご質問にあったとおりでと思います。当然いざというときの防災もあります、平時からそういった防災の意識を高める、あるいは災害弱者と言われる方々の見守りですとか、そういった把握、そういったものもひっくるめてのいろんな、地域としてやっていただければよりいいということはたくさんあるのだというふうに思います。

町としてその組織化をもっと進めるためにはという観点で言うと、当然普及活動を強化するということは重要なのですけれども、よりもっと身近に感じていただけるための普及の仕方といいたいまいしょうか、そういったものはまだまだこれから工夫をしなければならぬのかなというふうに思います。今例えば壮警温泉、有珠山災害、噴火災害を例として挙げれば、避難経路にしても避難先の避難所にしても、あるいは避難所へ持っていくもの、そういった細かなものを情報としてもっと整理をして、広報に出すだけではなくて、もっといろんな場面をつくって、見ていただく、あるいは聞き伝えしていただく、そういうための取組というのはもっともっとやっていくことはできるのだろうというふうには思います。

再三先ほど来からちょっと作業が遅れていてという話をしておりますが、先ほどのマニュアルの成案化の暁には、より身近に、皆さんに災害というものが本当に他人事

ではないのだということを理解していただくためのいろいろな工夫、ほかの先進事例も見ながら、手を替え、いろんなやり方に取り組んで、町民一人一人の皆様の防災への理解の促進を図っていくように今後も努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 了解いたしました。根底に住民と行政との信頼関係ということが大前提にあって、その距離感と申しますか、そういったものも重要なのだろうというふうに思います。よろしくお願ひしたい。

そういった信頼関係という意味では、次の4番目、公平、公正で開かれた町政運営に質問を進めてまいります。町長は過去この種の私の質問に対して、町の課題を共有、住民との共有ですね、問題解決を住民参画で取り組み、将来ビジョンを示していきたい。また、情報共有と情報提供に努めて、これは今回の答弁でもあったです。コロナも含めて限られた時間ではありますけれども、機会を捉えて町政懇談とか自治会長会議等、あるいは広報などを通じて、信頼関係醸成のためにそういった機会を有効に使っていききたいと。

当初も質問したことでありますけれども、もう一度の確認になるのですけれども、そもそも公平、公正で開かれた町政運営が必要だという論の根拠は何だ。要するにどこからスタートしたのかということに質問していたのですが、つまるところ町政が全体にひとしく向き合っていない、町民と行政が。一部の方向や団体にゆがんで向かっているのではないかと、そんなことを感じられたのかなというようなことを前回というか、就任当初質問したような記憶もあつたのですけれども、今回の答弁もございましたけれども、町長の考え方というのは住民と行政の距離感、言わば溝、乖離しているという距離を埋める努力が行政側から必要だろうと。そして、先ほどの信頼関係、これが低下しているのではないかと。それを上げていく、そういう意味合いで公平、公正な開かれた町政運営、こういう言葉をお使いになったという解釈でよろしいのでしょうか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） さきの最初の答弁のとおりでありまして、多くの町民の皆様と対話をした中でこういう基本姿勢を持つようになったと、持つことが大切だということを実感してきたわけでありまして、これは行政を預かる者として当然ではないかなというふうにも思っているところでありますけれども、町民の皆様一人一人に向き合い、思いを受け止め、行動するというのを政治基本姿勢としているところであり、これからもそのような考え方でいきたいと、このように思っているところであります。様々な意見というか、今ご質問の中でありましたけれども、私の答えといたしましては、多くの町民の皆様と対談した中でそういう考え方を基本に据えて今この場

に立っているということをご理解いただければと思っております。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） それを確認させてもらって、進めますが、今もその信条は変わらないのでしょうかけれども、こういったコロナ禍にあってはそういった機会も随分抑制といいますか、限られてくるのだろうということは思いますが、多少論点がずれているかもしれませんけれども、これ以前にコロナが発生してすぐに協議会あるいは一般質問、忘れましてけれども、やり取りがあって、あくまでこれは個人で感じたことを話しますが、当時八方塞がりといいますか、客足も途絶えて、どうしていいかわからないという商業者、商店というか、商売やっている方と話したときに、自暴自棄もあるけれども、行政は何もやってくれない、何も連絡が来ないみたいな話をしていたけれども、実際には商工会を通して支援策というのはもうつまびらかになっていたのでありますけれども、それを自ら調べたり自分で足を運んで行政に聞いたり、あるいは商工会に相談したりもしないで、ただ批判をしているみたいな状況で、助言、アドバイスではないですけれども、そういう制度があるから、連絡してみなさいと、そんなことで終わったのですが、その後商工会さん直接来る、商工の担当の課からも職員が来る、しまいには町長から電話いただいたというのです。こういうことがあって、何か心配ありませんか。何が言いたいかという、その電話一本で態度変わるのです。見てくれているみたいな。こういう施策で申し込んだのだと。顔に、変な言い方で情緒的なことを言う気はないですけれども、明らかに不満から、不平から一歩前へ出て、大きいのだなと思ったのですということが言いたかった。

ちょっとまた論点変えますけれども、この前自分の母親のコロナの接種に行ったのですけれども、その際に住民福祉課の職員の方がマイナンバーのセールスみたいなことをやっているのですけれども、非常に熱心にやっていて、僕の目の前でも2人ぐらいが新たに申込みしていましたけれども、個人的には、うちのおふくろ95だし、もういいのではないかなというのでお断りしたのですが、それは置いておいて、その距離感って大切なのだろうなと思ったのです。そんなことを踏まえて言うと、先ほど町長が一人一人に向き合っただけという話がまさにそうで、そう感じる努力、別にだからといって二千何百人の町民に1人ずつ向き合えなんていう物理的な話ではなくて、そのように伝わるような工夫、あるいは機会というのはやっぱり重要であるなと思った次第で発言しております。

そんなので、例えば自治会との町政懇談も、人は少ないのでありますけれども、あるいはうちの壮警温泉も、でも十何人来たかな。テーマと違ったことでもどンドン、どンドン話が出て、結局30分もオーバーするのですけれども、中身は大したことないと言ったら怒られてしまうけれども、テーマと全く違うこと言っているのだけれども、町側と町長と話がしたいのですよね、単純に。そういう部分で精神的に満足したいというか、そういう欲求なのだと思うのです。それはみんなひとしく持っていて、

だからそれがアプローチとして行政側から来ると案外思った以上に受け止めてくれている。そういうのっていろんな施策で言っていることではないかなと。情緒的な精神論で終わるのもなんですからけれども、そういうことを捉えた施策、アプローチの仕方というのをぜひ、ちっちゃい町だから工夫していいのではないかなと。先ほど言ったようないろんな場面見ていてそう感じました。

それから、あまり言うとなんですけれども、そんなことで先ほどの公正、公平で開かれた町政の町長がおっしゃる一人一人に向かい合ったということを具現化するような工夫。また長くなって恐縮ですけれども、前町政の最終段階のときに壮警高校の移設問題等あって、町政懇談が延びて、延びて、町は内部的に整理をしてから出したということもあったけれども、結局は延び過ぎてしまって、何か收拾つかないというか、落としどころが分からないというか、そういう感想を持ったのです。中途でもいいから、この経過、現状を説明するという機会を持つことが必要だと私は思って、そのとき言ったのですが、そういったことが信頼関係とか、距離感といいますか、それを埋める行政側の工夫なのではないかと。

その先に、先ほど言った自主防災組織もそうなのですから、自分のことを行政と一緒に醸成していく、あるいは火山との共生もそうですけれども、そんな信頼関係の先のほうにそういう問題解決の出口があったりしないかなというような感じを持つのでありますけれども、残り5分となりましたので、これ最後にいたしたいと思っておりますけれども、今コロナが蔓延している時期でありまして、そういった機会はなかなか難しいという状況は分かりますけれども、例えば広報一つ取りましても町長のメッセージ出ています。いいことだと思うのですが、活字だけだし、もうちょっと写真載せないのとか、そんなことも感じたり、これまた蛇足ですが、私議長やっているとときに新年の広報の文章書いて、写真これ使ってくれと持って行って、でも事務局は笑っているから駄目ではないですかと言うのですけれども、いいから載せろと一度載せたら、2件、3件クレームが来たそうで、歯出して笑っているというのですけれども、それから強硬にもう一回やったら、次は絶対載せないと事務局に怒られたのですが、それはそれとして、いいのではないですか、歯出して笑っても。むしろ明るいイメージで写真つけて、最後に頑張りましょうというメッセージで、文章だけではなくて、そういった、細かいことだけれども、工夫だってあってもいいのではないかと、このご時世と思ひまして、今後そんなことも含めて町長から何かいただければということにしまして、それで本当のつけ足しですけれども、一般質問ご自身も抱えながら急遽代替されている森副議長に敬意と感謝の意を表し、それから多分この場面を家で見ているらっしゃるのではないかとという長内議長の早期の復活をご祈念申し上げて、私の一般質問を終わります。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 様々な観点から大切なご提言、ご質問をいただいたというふ

うに思っているところであります。2,400人の町民の皆さん一人一人に向き合うという姿勢は大切にしていきたいと思っておりますし、先ほども例としてコロナ対策等で職員が事業所さんを回ってくれたと、こういうことでありますけれども、それぞれ所管する人がありまして、それぞれの業界団体ですとか、農業者の皆さんも含めて、あと高齢者の皆さんですとか、関わりの深い各所管で持っているというふうに思っております。そういう所管の皆さんが、私も時間的な制約がある中で、大変よく回っていただいているところであり、そういうところから意見が出てきて、対策が出てくると。これは、私も含めてまだまだ足りないなというふうに認識はしておりますが、職員の皆さん一生懸命やっただいていて、このように思っているところであります。距離感を埋めて町民の皆さんと共感を持ってまちづくりを進めていく、そういう姿勢を大切にしていきたいと、このように思っているところであります。

それと、過去の問題の中でももう少し議論が深まればということもあったようでございますけれども、そうしたことがないように、コロナ禍でありまして工夫をしなければいけないところでありますけれども、努めていきたいと、このように思っているところであります。

それと、今後につきましては、最優先課題として、冒頭ありました全庁的に職員の皆さんの頑張りによって財政が少し改善の兆しがあると、これは大きな成果であると私は認識しております。職員一人一人の頑張りが、このように思っているところであります。様々な行政サービスを継続させて町の困難な課題を解決していくためには健全な財政運営が不可欠であると、このことを共有した中で、残された期間、課題解決に向けて持続可能な経済社会を実現していくために全力で取り組んでいきたいと。コロナ対策も含めて可能なことは前向きに取り組んでまいりたいと思っておりますので、また気がついた点等がありましたら、ご指導いただきながら進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げますということを答弁させていただいて、最終のご答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（森 太郎君） 次に、3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 私は、今回環境美化活動の取組について伺いたいと思います。

その1、住環境美化活動の取組について。壮瞥町は、自然環境に恵まれ、住環境としてすばらしい土地であり、近年移住の希望者も増えつつあることは喜ばしいことです。このために移住しやすい各種支援に取り組み、その成果が現れつつあることを評価します。町では、公営住宅をはじめ、単身者、世帯向け特定公共賃貸住宅、借り上げ住宅、子育て応援住宅等の整備の取組が一定の成果を上げていることを評価します。しかし、その反面、入居者の中には環境美化の意識に欠ける面が見られることは残念なことです。

そこで、1番目、環境美化の意識に欠けている面が見られるような入居者に対して

町はどのように取り組み、指導しているか。

2点目、団地に遊具のある広場を設けているが、管理方法についての取組の現状と課題があれば伺いたいと思います。

その2、地域の環境美化活動の取組についてでありますけれども、壮瞥町は町民憲章の中で、壮瞥町は農業と観光の町です。資源を活用し、豊かなまちづくりに励みますと定め、コロナ禍の中ではありますが、観光客も増えつつあるのが現状と言ってよいでしょう。来遊する観光客の皆さんの目に壮瞥町はどのように映っているのでしょうか。ただの通過点に終わっているのではと危惧する一人です。このためにも、地域の環境美化活動に真剣に取り組むことが必要と考えますが、1点目、町の現状をどのように把握しているか。

2点目、現状をよりよくするための環境美化活動の方策についての考えがあれば伺いたいと思います。

3点目、地域の環境美化活動に果たす住民の役割についてどのようにお考えになっているか。

以上の点についてよろしく願いいたします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 3番、佐藤議員のご質問にご答弁申し上げます。

1点目の住環境美化活動の取組についてですが、美しい町並みや景観を維持することは、地域に暮らす人々の心を癒やし、豊かな人間性を育む大切な取組と考えております。このため、公営住宅等へ入居される方には地域の環境美化に関心を持っていただけるよう、入居が決まった際に団地内の草刈りや除雪などは入居者の協力の下で行われる自治組織の活動であることを町営住宅入居のしおりに従って説明しており、その運営状況につきましては各団地の慣習により、自治会や個人の意識に基づき活動がなされ、おおむね適切に行われているものと認識しております。町としましては、今後とも各団地の自主性に基づき、これらの活動が継承され、良好なコミュニティが発展することを期待しております。

次に、遊具のある広場の管理状況と課題については、さきの答弁と同様に自治組織の活動として行っております。遊具のある広場は7団地に設置されておりますが、一部子供や子育て世帯の入居が少ない団地にあっては管理の行き届かない状況もあり、広場の役割と管理の在り方について検証が必要と考えております。

2点目の地域の環境美化活動の取組についてですが、まず町の環境美化の現状については、当地域は昭和山や洞爺湖など美しい景観により多くの方が来訪する観光地であり、景観を保持するため、そうべつ観光協会や自然公園財団などが美化活動を実施しており、加えて多くの民間団体や壮瞥高校、住民の皆様の自主的な活動により、景観の保全と環境美化が維持されているものと認識しております。

次に、現状をよりよくするための方策については、これまで環境美化を推進してい

る団体活動の継続とともに、国や道の支援策などを活用した施策の展開が必要と考えます。

また、美化活動に果たす住民の役割については、地域のことは自分たちでという意識で活動が実施されておりますが、人口減、高齢化により活動の担い手不足という課題もあり、町の実情に合わせた環境美化の継続、向上を図っていく考えですので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます、ご答弁といたします。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 通告に従って答弁をいただきましたので、以下質問を続けさせていただきます。

1点目の住環境美化活動の根底となるのは自治会組織の活動で、入居者はその一員としての活動である旨が今の答弁で強調されておりました。新たに町営住宅に入居される方に入居のしおりを配付しているということですので、昨日担当課に伺い、頂きました。町営住宅入居のしおりを頂いて、その内容を見ますと、答弁にありましたが、自治会組織活動という言葉は一言もないのです。一言もないのが私は残念だなと思いました。その内容をかいつまんで申し上げますと、家賃は毎月納めましょうから始まり、入居者が費用負担するもの、住宅の修繕、こんなときとして、家賃が払えなくなったとき、退去するときの手續等が主な内容でした。入居される方がその地域の一員として生活する。まして団地内の草刈りや除雪などは入居者で行われる自治会組織の活動と行政は捉えておりますので、私は入居者に求めるのであれば、現在のしおりの中にきちっと明記すべきでないかなと考えますけれども、この点についてどのようなお考えを持つか伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

町営住宅入居のしおりについてでございますけれども、町営住宅の入居のしおりの中には、議員ご指摘のとおりといたしますが、記載されている事項の中には一応入居者が費用を負担するものという項目を設けておまして、各住戸で使用する光熱水費のほかにも、共同施設または給水施設及び汚水施設の使用または維持、運営に要する費用ですとか、そういう費用を負担するものというものを記載されている中に、共用部分の電気料のほかにも、団地内の草刈り、除雪、そういうものは団地、またはそれぞれの棟ごとに行ってくださいということで、団地によっては共益費として徴収している場合もありますので、その際はちゃんとお支払いくださいという旨のことは書いてございます。そのほかにも、住宅の修繕という中にも、入居者の負担で修理または取替え及び環境整備していただくものという項目がございます、その中にも改めて団地内及び周辺の草刈り、団地内及び周辺の除雪ということで、こういうこともやっていただきたいということは記載しているところでございます。

それに伴いまして、新しく公営住宅に入居が決まった際には、入居の手續の中で、

このようなことがありますよという説明についてはさせていただいているところでございます。ただ、議員ご指摘の中でもありましたように、多分分かりづらいのかな、見づらいのかなというところは、今現在お配りしております町営住宅の入居のしおりにつきましては、議員ご指摘のとおり、分かりにくい構成といえますか、作り方になっているので、それにつきましてはより見やすく分かりやすい資料にしていきたいなというところで、ただいま改善作業を行っているところでございますので、このようなご意見もいただきましたので、そのように取り進めていきたいというふうに考えております。

入居のしおりについては以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） ありがとうございます。私は、この質問に際して、公的住宅に入居されている方のところを訪問して、入居するときに入居のしおり頂きましたよねと言ったら、そこのご主人は、そんなものあったかなという言葉が返ってきました。しかし、奥さんがいろいろと内容を知っていて、こんなこと書いてあったよとご主人に教えている場面に遭遇したのです。私は、分かりやすい形での入居のしおりを継続してやっていただきたいな、そんな気がしてなりません。ぜひ改訂版を期待しております。

そこで、この通告書の答弁に際して、多分担当課は町内の実態を調査、または現地に出向き、確認していると私は考えております。ただ机上の答弁ではないと思っております。もし現地確認で住環境美化の面で、答弁にもありましたが、おおむね適切との答弁をいただきました。この点、おおむねということは100%ではないということです。ですから、住環境美化の面で気がかりな点、入居者に環境美化の面で考えていただきたいという事項がもしあれば伺いたい。お答えの中に、何々団地ではこういうことがありましたなんて、そういう団地の名前は求めません。現実に気がかりな点、そういうことがもしも分かれば伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

現地の確認につきましては、日常業務の中でも行っておりますけれども、美化環境整備の関係で確認するタイミングというのでもちょっと見え方が変わってくるかもしれないけれども、我々が団地にお伺いしてその辺の状況を確認する限りでは、草刈り等の美化活動については景観上も特に問題なく行っていただいているというものはしっかりと伺っております。答弁の中でおおむね適切というところにつきましては、一応団地内ではあるのですけれども、直接入居者が利用することが少ないような場所、そういうところ、ほんの一部なのですけれども、草刈りがなされていなかったところ、そういうところが少し見受けられたということでございますので、そのような表現をさせていただいたものでございます。

このように、日頃より美化活動に取り組んでいただいている入居者には感謝申し上げますとともに、現状では特に景観上ですとか、それらの活動について問題ないものというふうに認識はしているところでございます。これらの活動が今後とも今までどおり継承されて、良好なコミュニティーが発展することを町としまして住宅管理を担当する立場といたしまして期待しているところではございます。以上のように、おおむねにつきましては景観上は特に支障はないものと判断しておりますけれども、部分的なところが行き届いていないところが見られたというところによる答弁でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） それでは、入居されている方の実態、若い世代もあれば、高齢者で日常生活にも困るような方も入居されていると思います。そういう中で、高齢化した住宅周辺の草刈りを地域の皆さんにお願いするのは、私悪いとは言いません。当然入居されている方々が協力して、住宅でなくて自分の家という感覚を持ちながら、私はきちっと周辺の草刈りだとか、そういうものは実施すべきだという考えの下で質問しているのですけれども、意外と若い世代の協力が無いのだねなんていう言葉も聞くのです。そういう面で、若い世代の人にも協力していただけるような方策として、今草刈り鎌を持って一々草を刈る人はほとんどいないのではないかと思います。私のような高齢者を除いてはいないと思います。そういう面で、町もこういう面で努力しているのだから、皆さん協力して一緒にやりましょうというような気持ち、それは何かというと、草刈り機なども町で持っていて、住宅周辺の草刈りをしたいので、その機械を貸してくださいと言われる。または、貸し出せるような方法もこれから必要になるのでないだろうか。特に高齢化してくると、若い人たちにお願いするときもこういうことが必要になってくるのではないかな。

そして、西胆振のあるまちでは、台数はあまり多くない。1台とか2台でしたけれども、草刈り機、そして公的住宅の周辺の草刈りに貸し出している。そして、燃料も添えて貸し出して、町もこうやって努力しているのだからということでやって成果を上げているということも、実は公的住宅を見に行った帰りに役所に寄って担当の方とお話ししたら、そういう言葉も返ってきておりました。ですから、壮瞥町もそんなことできないのかな。何十台でなくて、1台か2台そういうものを用意して、町も一生懸命やっているのだという姿勢を見せることによって住民の皆さんの意識も変わってくるのではないかなと思うのですけれども、このような考えは間違っているでしょうか。このことについて伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

議員のご質問のとおり、美化環境への取組に対する課題というところにつきまして

は、公営住宅等の団地に限ることではございませんけれども、全国的な課題としまして、入居者の高齢化、体力面から自治組織の活動に参加できない、勤労状況や生活環境により活動に参加するゆとりがないなど、そういった状況の下で担い手不足という状況になっていたり、入居者の意識の変化としまして、共同体意識の希薄さということから、そういう自治組織の活動に参加したくないというような人も増えているというのが全国的な課題というところで挙げられているところでございます。

町としましてもこのような問題への課題意識を持ちつつも、現行のとおり壮瞥町の団地につきましては団地の自主性に基きまして、入居者個人の意識も高めつつ、環境美化に取り組むよう取り組んでいきたいというふうに考えておりますけれども、今のご質問の中で近隣のまちでの取組というご紹介いただきましたけれども、草刈り機を町で団地ごとに貸し出すということですが、その自治体へまた改めて私どものほうでその取組状況等について確認をさせていただいて、その取組が本町においてやった場合どんなような効果があるのかということについても検証、検討しながら考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） ぜひ検討して、住民の皆さんが活動する、またその後ろ盾として町も一生懸命やっているのだという姿勢を見せて、私は住民と町が一緒になっていろいろな課題解決に取り組むことが必要だという立場でこのようなお話をしているのです。

そこで次に、町内を車で走っていると、地域によっては道道に面した空き家状態がずっと続いているというところもあるのです。そして、その住宅にカーテンがかかっているから、人が住んでいるかどうかは分かりませんが、玄関を見ると玄関先にいろんな草が生えているのです。ですから、その地域の皆さんがただ空き家だからといってほっておくのではなくて、せめて玄関先、どんな大きな玄関でも幅1メートル80か、そんなものですよね、そういう前の草刈りなども地域の皆さんが力を合わせて、空き家であってもせめて玄関の前だけは草がないような状況を私はつくっていくべきでないかな。これは、いろいろとそんなことまでする必要あるかなんていうことはあるかもしれませんが、車で走っているとそのようなこと気になるのです。私だけかもしれませんが、そういう面で地域の皆さんが考えることが必要でないかな。

また、公的住宅が建っていて、その前に車が通ったり、舗装された道があります。ほとんどのところは、舗装された部分と住宅の間はアスファルトで埋まっているところもあるのですが、やはり古いところは住宅の土台と舗装された間が土になっているとか、そういうところを入居している人が草刈りでなくて草取りをするようなことも私はしていくことが環境美化の一つでないかな、住環境美化につながって

るのでないかなということを考えております。ですから、そのようなことも住民の皆さんに呼びかけるだとか、または連合自治会などでもそういう地域の環境美化というものを取り上げて、そして取り組むことが必要でないかと思えますけれども、このことについてどのようにお考えになるか伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

入居者によります環境整備、日々の取組と申しますか、その辺についてご答弁申し上げます。住宅周りの美化につきましては、町営住宅等々に限らず、戸建て住宅でもそうだと思うのですが、住まわれている方の意識に委ねられているところが大きいのかなというふうに思っております。町営住宅につきましても実際取り組まれている方も多数いらっしゃいますが、そのような方の中には、少数ではございますけれども、いるのだと思います。ということもございまして、環境美化の継続、向上を図っていくためにも、今までやっているような入居時の丁寧なこういうことに取り組んでいるのですよという説明のほかにも、入居後の周知等についてもどのような形でやっていったら効果が上がっていくのかというものについても検討しながら対策を講じてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） よろしく願いしたいと思えます。

それで、1点目の最後の答弁にありましたけれども、遊具のある広場の管理状況と課題の中で町内に遊具のある広場は7団地という言葉がありましたけれども、この7団地についてまずどこか。

それから、団地内の遊具のある広場の設置は、何戸の団地であればそういう遊具の場所を設置するというのが法的に決まっているのか。または、設置する、建設する行政のほうで地域の皆さんから要望があって造っているものがあるのか。これどちらなのでしょう、このことについてちょっと私理解を深めたいので、お答えいただきたいと思えます。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） 団地内にございます遊具のある広場についてご答弁いたしますけれども、さきの答弁で7団地に遊具のある広場を整備しているということで答弁いたしましたけれども、場所につきましては建部団地、しらかば団地、ほくと団地、壮瞥温泉団地、久保内団地、第2南久保内団地、ほくと団地の以上7団地でございます。

それと、設置の考え方につきましては、今基本的にはそういう団地の希望に応じて設置しなさいというよりは、ある程度自治体の裁量によって整備できるようにはなっております。過去、昔30年程度前であればある一定規模以上の団地であれば設

けなさいという基準もございましたけれども、今はないようでございます。現在ある7団地のうち5つは団地整備に併せて整備したものでございまして、2か所の広場につきましては地域の要望がございまして、団地が形成された後に整備したものでございます。団地内の遊具の広場につきましては、遊具につきましては一般的なブランコですとか滑り台ですとか、あとは管理用でベンチ的なものがあったり、フェンスで囲われていたりという程度、一般的な広場の整備というものになっております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 町内の実態分かりました。私もずっと回って、見てはいるのですけれども、これをインターネットで見ている方、どこにあるのだろうかなんて疑問も抱くのではないかなと思いましたので、あえて質問させていただきました。

そこで、団地内にある遊具のある広場の草刈りは自治会で、先ほどから申されているように、これは理解できます。そこで、事故防止のための遊具の点検はどのような形で行われているのか、これについてまず伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

団地内にある遊具の点検でございますけれども、不定期ではございますけれども、最低でも年1回、団地に伺った際には確認、点検するようにはしているところでございまして、現状としましては大きな損傷も認められていないという状況でございますので、これからも引き続き事故防止に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 今の答弁を聞きますと、点検などきちっとしているということです。ぜひ事故のないような形で設置継続されることを私は望みたいと思います。

そこで、私は先ほど町内の7か所に子供遊園地的なものがあるということを現実にもその場所も見せておりますけれども、中にはこれでいいのかなと、そういう場所が7つの中で1か所あるのです。これは、私は年何回かその地域を回るものですから、目にするのですけれども、地域の皆さんにそれを呼びかけても、子供がいないからなんていうことで整備されていないのではないかと思いますけれども、本当に伸びた雑草の中にブランコだとか滑り台がぽつんと座っていると言ったら悪いので、立っている状況です。ですから、そうやって自治会に働きかけてもできないのであれば、町の施設として、そんな大きな面積ではありません。どなたが見ても恥ずかしくないような形で私はすべきでないかなと思うのですけれども、入居のしおりでその地域、自治会にお願いしていますからとって、そのままにしておくのが本当にいいのかどうかということ私はいつも回ってみて疑問に感じるのですけれども、考えて、そしてどなたが見ても、ああ、遊園地だな、そう思われるような町の施設にさせていただきたいと、

そう思っているのですけれども、このことについては今後どのような対応を取る考えか伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

遊具のある広場の管理状況とその課題についてでございますけれども、さきに町長の答弁からもございましたとおり遊具のある広場、7団地で設置されておりますけれども、一部子供や子育て世帯の入居の少ない団地の広場につきましては管理が行き届いていないという答弁も先ほどさせていただきましたけれども、その今後の広場の役割と管理の在り方について町としましても考えなければいけないのかなというふうにいるところではございますけれども、全ての団地内の広場には子供向けの遊具というものを設置しているのですけれども、子供たちの利用に限ったものではなくて、入居者同士でしたり地域住民の方々とコミュニティを育む大切な施設であるという認識も持っているところでございます。

ということで、公営住宅の遊具のある広場につきましては、現状としては子育て世帯の入居状況により利用頻度というのがそれぞれの団地ごとによって異なってしまうという現状も見受けられますけれども、公営住宅等ということで入居者の入れ替わりというものもございますので、今後も有効的に活用していただきたいというふうにご考えてはおりますけれども、一概に利用されていない、管理されていないので廃止、撤去するといったような考え方ではなくて、先ほど言ったように子供たちの利用に限定せずに、多目的に利用できる可能性ということについて、その活用であったり適切な管理方法というのについてはこれからちょっと検討していきたいというふうにご考えておりますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

以上です。

○副議長（森 太郎君） これより休憩といたします。再開は14時10分といたします。

休憩 午後 2時00分

再開 午後 2時10分

○副議長（森 太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 今までいろいろと答弁いただきましたけれども、そこに入居している住民の皆さんと一緒にその地域の皆さんが力を合わせてまちづくりをすることが私は今一番求められているのではないかな、そんな気がしてなりません。そこで、私はこの質問に際して団地を含む自治会に伺ってお話を聞きました。そんな大きな数の団地ではありませんけれども、そこに入居される方が戸数が少ないのですよという言葉が返ってきました。このまま続いたら、入居者が入れ替わって行って、入る人が

少なくなつて、自治会だとか町内会に入る人が少なくなつたら将来どうなるのでしょうかという様な言葉も言っておりました。ですから、そのような心配の声が現在でも聞かれている。これがまた何年もたつとさらに大きくなっていくのではないかな。そうならないためにも、私は地域と町と何らかの方策を考えていかなければ地域は崩壊してしまうのではないかな、そんな気がしてなりませんけれども、今までの1点目の答弁を聞いて、町長は今後どうあるのが一番望ましいのか、もしもお考えがあれば伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 人口減と高齢化、少子化などの変化があつて、様々な課題の一つとして今取り上げられている話題があるのかなと、このように思っているところでもありますけれども、最初のこの1点目というか、総括的な答弁で申し上げましたとおり、様々な対策が求められているだろう、このように思っているところでもあります。地域コミュニティの維持についてですとか、今環境美化の問題については本町の実情に合わせた継続的な活動がどのように図られていくのがいいのか、こうしたことを今後も検証していく必要があるでしょうし、必要な対策を取っていく必要があるのではないかと、このように思っております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） ありがとうございます。

それでは、2点目の地域の環境美化について進めたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。答弁の中に、多くの団体が地域の環境美化に取り組んでいるとの答弁をいただきました。その筆頭が観光協会だとか、昭和新山地区を管理している自然美化財団、これは皆さんも承知していると思いますけれども、答弁の中に多くの民間団体とありましたけれども、現在この環境美化活動に取り組んでいる多くの団体は何団体程度あつて取り組んでいるのか、まず最初にお願ひしたいと思いますけれども、よろしくお願ひします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

2点目のご質問ということで、来遊する観光客の皆様に映る主として観光地、これの環境美化に取り組んでいる団体でございますけれども、支笏洞爺ニセコルート、シーニックバイウェイという団体の洞爺湖エリアの団体、これが民間団体でゴミ、清掃活動等、観光地の清掃に取り組んでいまして、これが8団体ほどございます。そのほかに、町内の河川の環境整備に努めていただいている壮瞥川の環境を守る会などもございます。特に観光に関わる部分でございますので、承知しているのが以上の団体でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 観光に関連してということで理解していいのですね。私は、地域の環境美化ということでしたので、町内のそういう活動している団体かなということで今聞いたのですけれども、そこで町内では過去に、思い起こせば2000年の当初から町内ではいろいろな自治会が環境美化の一つとして花壇など造っておりました。そして、2008年のサミットのときには本当に町内一丸となって環境美化に取り組んだのが思い起こされるのですけれども、現在はほとんどそういう活動がなされていないのが壮瞥町の実態でないかなという気がしてなりません。この原因は、地域の高齢化によるものが多いと思われれます。この質問をまとめるときに、私は幾つかの自治会に伺って、そして昔あなたの自治会では一生懸命やっていたのに、今どうしてできないのですか、取り組んでいないのですかということを探ねると、やはり地域の高齢化、地域の協力、そういう言葉が返ってくるのです。ですから、そういう中でも、私はやはり地域をみんなの力で環境を整えていくことが必要でないかということ常日頃考えております。

そこで、町内の実施団体が、開発局というのですか、そこと協力して、その中には町の名前も入っておりますけれども、実施団体と町、開発局の3者が一丸となって環境整備、花壇の造成に取り組んだ経緯がありますけれども、その団体も、地域の団体ですけれども、その団体も高齢化して取り組めなくなった。初めは花代だとか肥料代は経費を負担してくれたけれども、年とともにそれが消えて、その先頭に立っていた自治会長が全額負担しているということを聞いてびっくりしたのです。そういうことがある。また、学校でも看板上げているところが町内にありますけれども、その取組を見ていると草の中に花が沈んでいる。手入れが一切されていない。それで本当に環境の教育だとか、または子供たちの情緒的な面で果たしてそのような取組でいいのかなと疑問に感じたのです。そういうことから今回の環境美化について取り上げたのですけれども、そのような状況をどなたか見ておりますか。もしも見ていた方があったら、どのようにそれを見て感じたか伺いたいなと、そんな気がしてなりません。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

取組がいろいろ言われておりますけれども、私のほうからは久保内の自治会の取組についてご答弁申し上げます。久保内第5町内自治会の取組としましては、壮瞥いきいき花壇ということで、議員のご質問のとおり、久保内5自治会と開発局、壮瞥町と3者協議の下、行っていた事業でございます。名称につきましてはボランティアサポートプログラムというものでございまして、これは地域や企業の皆さんに道路の美化、清掃等に参加していただき、皆さんと共に快適な道づくりを進めるためのものということで、実施団体が道路脇の簡単な清掃、美化活動を行うことを開発局と地元の自治会と協定を結びまして、その内容を3者で確認し、その協定の内容に沿って活動をし

ていただくというのがボランティアサポートプログラムというものでございます。その際には、実施団体の名前が入っているサインボードというものを開発局さんのほうで作っていただきまして、それを事業地のところに立てるといような内容になっておりますということで、道をきれいにしようという活動から始まった地域のコミュニティの活性化ということを期待したものだというふうに伺っております。

それで、昨年度、令和3年度までは花壇整備というものを久保内5の町内の自治会で行っていただいておりますけれども、今年、令和4年の4月に入ってから、自治会のほうから町のほうに、今年度はもう花壇整備はできないということで、それにつきましても議員のご指摘のとおり、高齢化に伴うものという理由でございました。事情を聞きまして、今年度につきましては協定書の取り交わしもしていないという状況でございまして、今まで花壇整備していた枠を、コンクリートのテストピースで囲っていたのですけれども、その枠の部分につきましては自治会のほうで撤去している状態でございます。開発局で設置していただきましたサインボード、看板につきましては、4月当初そういうような状況になったときにご相談したところ、開発局のほうで撤去しますというお話にはなっておりますけれども、まだ撤去されていない状況だと思われませんが、今年度中には撤去されるのではないかとこのふうには考えております。

以上が久保内5の自治会の花壇整備の取組についての現状でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 久保内5ということを私最初申し上げなかったのですけれども、今答弁の中に久保内5という言葉がありましたので、久保内5自治会の言葉を使わせていただきます。ずっと長い間そういう形で取り組んでいた。こちらから行って、久保内の町を通り過ぎて、そして坂を上っていったら左側に本当にきれいに花壇が整備されていた。そして、これも1年や2年でなくて、本当に長い間整備されていたのですけれども、現在は今課長がお話しになったように取りやめたのだと、その原因は高齢化ということのようですけれども、今の姿を見ていると、その枠のコンクリートか何かは外したかもしれないけれども、看板が立っている。プレートが立っている部分は草が伸び放題になっているのです。これは町でなくて開発局の課題だと思えますけれども、きちっと開発局でその後始末といいますか、草刈りなどもぜひ実施していただきたいな、そんな気がしてなりません。

また、久保内では久保内3自治会が一生懸命やっておりました。その方法としては、久保内駐在所前の花壇の造成、そして今まではプランターに花を植えて、3町内の各家庭に配付していたのですけれども、今年はプランターは消えた。それで、その担当といいますか、自治会の方に会ってお話聞いたら、先ほどの答弁にもありましたが、高齢化という言葉が返ってきましたし、もう一つは経費の問題です。今年駐在所の前に花を植えるだけで2万8,000円かかりましたと、そういう言葉も聞いているのです。

ですから、私は、そういう活動に対して全額とは言いませんけれども、少額でも取り組む団体に財政的な援助があってもいいのではないだろうか、そんな気がしてなりません。

皆さんご承知のように、西胆振にはすばらしい花壇を造っている町があります。やっている方を私承知しているものですから、電話でお話ししました。そうすると、今のような姿になったのは何十年という歴史があるのだと。最初は、役場の各課が国道の縁にそれぞれの課が場所を決めて花を植えました。駅周辺もそんな形で植えたのですけれども、その後町内会だとか、そういう方々が一生懸命植えたけれども、今現在はどんな形で運営されているかという、社会福祉施設にお願いしているというのです。社会福祉施設の理事長が私と同じ年齢で、ずっと懇意にしている方ですので、いろいろとお話聞きました。そうすると、町も社会福祉施設に入所している方々のためにも考えながら、現在の姿を継続しているのですよということをお話聞きました。町もある程度環境美化には出費しているのです。幾らぐらいの経費ですかということ聞いたのですけれども、いろいろ集合しなければ、今即座に答えは出ませんということで、金額は聞くことができませんでした。春先に大型のハウス4棟で花を育てるので、それを施設の入所している方々が一生懸命植えて、そしてそれを手入れしている。その姿が現在の西胆振にあります。

皆さんも札幌に行く途中に、小さな村と言ったら叱られるかもしれませんが、小さな村があります。私は、この村はずっと札幌に行く途中に通るものですから、いつも見ております。取組の最初はどうであったか、それを聞きましたら、230号線に面している町内会といいますか、自治会といいますか、その方々が一生懸命やって、現在の姿になったのだと。それは、サミットの前からやっていたということですが、3年前からコロナ、また高齢化のために地域の人々の協力が得られなくなったので、現在はその村にある業者に、これは建設というか、土建会社だと思うのですけれども、そこに依頼して今年で3年目になるのですということをお話聞きました。

というのは、私はつい先日、しばらく通っていなかったものですから、その花壇はどうなっているかと見に行きました。そうすると、偶然に花を手入れしている6名の方がいらっしゃいました。その方にお話を聞くと、今お話ししたように3年前から会社が引き受けて実施しているのですよと、毎月2回です。距離が大変長いですね、あそこ、その場所を会社の社員が出て月2回、花を摘んだり、また草を取っているのですよというお話聞きました。それで、私はこの事業どのぐらいでやっているのでしょうかと聞いたのですけれども、答えは返ってきませんでした。私は会社員で、会社で幾らで引き受けているか分かりませんという答えでした。

そこで、私は留寿都村の担当者に電話をしました。そうすると、今までの留寿都村の取組を聞くことができました。最後に現在どの程度のお金をかけて実施していますかということをお聞いたら、それは言うことはできませんという答えで、幾らかかって

いるかということは聞くことができませんでしたが、あそこの花壇はずっと町外れから、今は向こうの遊園地のあるところまで延ばそうとしているのです。そのように真剣になってまちづくりと申しますか、ただ一過性のまちでなくて印象に残るまちづくりがされているなということ、いつもそれを見ているのですけれども、環境美化活動というのは町民の皆さんが協力しながら特色のあるものをつくり上げて、多くの観光客の皆さんにいつまでも覚えてもらえる、記憶に残るようなまちづくりが、私は環境美化活動は必要だなと考えているのですけれども、このことについてどのようにお考えになるか伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） 全体的な話かなと思いましたが、私のほうからご答弁いたしますが、各まちでいろんな取組をされていらっしゃるなということをお教えいただきまして、非常に参考になりました。確かにそれぞれのまちで独自にいろんな取組をされていらっしゃるということはすばらしいことだと思いますし、一方で当町も、先ほど来から自治会の話が、特に自治会あるいは団体レベルでの花壇整備というところに焦点が当たって話題が展開されていたかなというふうに思うのですが、実際には団体以外にも、それぞれ事業所さんですとか、あるいは個人で取り組まれて沿道の景観をきれいにしている方もいらっしゃいますし、町のほうでも、手前みそではあります、役場職員で事業所さんの協力を得ながら役場の前に花壇を整備したり、あるいは町内には先ほどから話題になった観光協会、あるいは自然公園財団のほかにも団体で、例えば具体的に言うと北の湖記念館としらかば団地のあるところの交差点の辺りに公園あると思うのですが、あちらなんかは完全に町が土地をお貸ししているだけで、費用は全てボランティア団体で賄ってきれいな花壇、公園整備なんかをされています。

当町もそういった意味でまだまだ捨てたものではないというか、それぞれの立場でそれぞれのできる範囲の中でいろんな美化活動に貢献をいただいているのだと思います。もっと申しますと、環境美化というのはそもそも花壇整備だけではないのだというふうに思います。ごみ拾いですとか、草刈りですとか、そういったものもひっくるめて地域をきれいにする、美観をよくする、そういうような広義な意味で言えば本当に多くの町民の方がこの町の美化のために関わっていただいていると思います。ですので、もちろん当町の先ほどの事例にあったような取組ももちろんすばらしいですけれども、当町においても冒頭で町長がおっしゃっていましたが、町の実情に合わせて環境美化の継続、向上を図っていくという考え方に帰結するのだと思うのですが、このような考え方で他町も参考にしながら、よりよいまちづくりというものを進めていくというのが望ましいのかなというふうに感じております。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） これで終わりにしたいと思いますが、多くの町民の皆さん、地域の皆さんが一つの目標に向かって、当然それは花だけではないと思います。花壇だけではない。ごみ拾いもあるでしょうけれども、地域の皆さんが一丸となって一つの目標に向かって特色ある地域をつくり上げていくことが町のPRにもなるし、そういう意味でぜひ環境美化活動を推進していただきたいなど、そういうことを希望してお願いして、一般質問を終わりたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） それでは、総括的に私のほうから答弁を申し上げたいと思っております。

最初にご答弁を申し上げましたとおり、当地域は美しい景観によりまして多くの方が来訪する観光地であり、景観を保持するために多くの民間団体や個人の自主的な活動により景観の保全と環境美化の向上が図られて、維持されているものと認識をしております。その中には、先ほど来団体名もありましたけれども、民間企業、建設業者さんの地域貢献活動も含めて幅広い方々、団体が美化活動に参加しているところであると、このように認識をしております。先ほど担当課長から話されたとおり、私どもの町なりに環境美化が保全されているのではないかなど、このように私も認識をしているところであり、この際、こういうご質問をいただきましたので、ボランティア活動をしていただいている団体、個人の皆さんに本当に心から感謝を申し上げたいと、このように思っております。

最初の答弁と重なりますけれども、先ほど高齢化に関するなかなか活動ができていないという実態も紹介いただきましたけれども、高齢化によるもの、人口減、それとコロナによる行動制限などについても様々な制約、要因によるものと思っておりますし、これをどうしていくかというコミュニティ維持の問題など大きな課題にも言及をいただいたところですが、ご意見を踏まえまして、改善に向けて対処できるところはしていきたいと思っておりますし、繰り返しになりますけれども、本町の实情に合わせた環境美化の継続、向上を図っていく考えでありますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。ご答弁とさせていただきます。

○副議長（森 太郎君） 次に、私の一般質問となりますので、議長を菊地敏法君と交代しますので、議長席に移動してください。

〔議長交代〕

○仮議長（菊地敏法君） 引き続き一般質問を行います。

8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 私のほうからは新型コロナウイルス感染症拡大の影響と課題についてお伺いいたします。

本町では既に高齢者等に対する4回目の新型コロナウイルスワクチン接種も進んでいるところですが、全国的に新型コロナウイルス感染症拡大の勢いはいまだに衰えを見せず、

第7波による死者数は過去最悪の水準になっております。町内においても感染者は拡大傾向にあり、いつ、どこで、誰がなってもおかしくない状況になりつつありますが、この感染拡大が町内の教育分野や地域経済、医療、福祉分野に与える影響について、その課題と対応策を伺います。

1点目、学校教育、社会教育について。

まず、学校運営と感染症対策の現状と課題は。

次に、授業、部活動等に与える影響と課題は。

次に、重大事態、いじめ、不登校など発生の現状と課題は。

中学生フィンランド派遣事業の見通しは。

社会教育関係事業実施の現状と課題は。

2点目につきましては、地域経済について。

観光事業者の現状と課題は。

次に、農業事業分野の現状と課題は。

次に、商工事業者の現状と課題は。

3点目、医療と福祉分野について。

久保内地区の医療機関移転の見通しと今後のコロナ対応に課題は。

感染症を疑われる症状が出た場合の受診に課題は。

重症化予防のための投薬体制の課題は。

次に、在宅生活支援事業、訪問支援の現状と課題は。

以上、お伺いいたします。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） 8番、森議員のご質問にご答弁申し上げます。

1点目の学校教育、社会教育についてですが、まず学校運営と感染症対策の現状と課題については、国や道からの通知を踏まえ、状況に応じて感染拡大防止に努め、学校行事は一部内容を縮小、変更して実施するなどの対策を講じて学校運営を継続しているところであります。今後につきましては、家庭との連携を継続し、児童生徒の日常的な健康観察を行うとともに、授業や学校行事等、場面ごとの状況に応じた感染対策を講じていく考えであります。

次に、授業、部活動に与える影響と課題については、授業、部活動ともに基本的な感染症対策を行った上で実施しており、部活動の大会参加は各競技団体による感染防止マニュアルに沿って行動しております。今後につきましては、活動の実情に応じて感染予防を行いながら、児童生徒が安心して学校生活を継続できるよう取り組んでいく考えであります。

次に、重大事態、いじめ、不登校等発生の現状と課題についてであります。いじめについては直近の調査では認知件数はなく、今後も早期発見、早期解決と未然防止に取り組んでいく考えであります。不登校については、生活習慣の乱れや家庭環境な

ど事情により数名が登校できていない状況ですが、今後引き続き家庭、学校、関係機関と連携し、早期解消に向け取り組んでいく考えであります。

次に、中学生フィンランド国派遣事業については、令和2年度から本年度まで中止し、昨年度から研修先を北海道内とした代替研修を実施しているところであります。今後の見通しは定まらない状況ですが、感染状況や社会情勢を見極めた上で適切に判断していく考えであります。

次に、社会教育関係事業の現状と課題については、緊急事態宣言等の期間は中止や縮小などの対応をしておりましたが、現在は感染症対策を行いながら実施しております。今後につきましては、感染防止対策を徹底し、工夫を加えるなど、必要な配慮の下、事業を実施していく考えであります。

以上、学校教育、社会教育について現状と対応状況をご質問に沿って答弁してまいりましたが、感染の拡大傾向の継続が課題として認識しているところであり、これからも国や北海道等の方針に基づき、適切に対応していく所存ですので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

○仮議長（菊地敏法君） 町長。

○町長（田鍋敏也君） 次に、2点目以降につきましては私のほうからご答弁を申し上げます。

2点目の地域経済への影響についてですが、まず観光事業者の影響と課題についてですが、コロナ感染症の長期化は外国人観光客の比率が高い地域や施設を中心に甚大な影響を及ぼしております。町では、その対策として観光事業者の支援を目的に、上下水道料金の免除やビジット昭和新山キャンペーンなど実施してきたところですが、外国人観光客等の集客を主体とした地域を中心に、入り込みの回復にはまだ時間を要する状況と認識しております。

次に、事前に通告のありました農業分野における影響と課題についてですが、全国的な外出や移動の自粛、インバウンドの大幅な減少、飲食店等の休業や営業時間の短縮等に伴い、外食産業等の食品等の需要が落ち込む中、本町においても一部の観光果樹園における団体客やインバウンドの入り込みの減少をはじめ、端境期に戦略的に出荷しているトマトの市場価格の下落、外国人労働力の確保などの影響があったものと承知をしております。こうした中、町ではコロナ禍における農業生産活動を支援するため、プレミアム付商品券に農産物購入の用途を設定するとともに、高収益作物の生産を推進する生産資材の購入支援のほか、農業生産現場での就労機会の調整等に取り組んだところであります。町としましては、コロナ禍はもとより、国内外の情勢の変化にも対応できるよう、地域のポテンシャルを生かした農畜産物のブランド化や付加価値の高い農業生産を計画的に推進し、本町農業、農村の体質強化を図っていく必要があると考えております。

次に、商工事業者の影響と課題についてですが、コロナ感染症の影響は町内の商工

事業者にも広く影響が波及していると認識しております。町では、その対策として、国の交付金等を活用し、商工会の協力を得て、売上減の一部を支援する商工業振興緊急対策事業やプレミアム付商品券事業など事業者支援と経済対策を推進しており、今後とも関係団体と連携して必要な対策を講じていく考えであります。

商工業と観光の振興については、ポストコロナを見据え、これまで実施してきた誘客活動や豊富な知識と多様な経験を有する地域おこし協力隊など多様な人材の能力を活用した地域活性化に加え、これまでの取組を基盤として、本町にある地域の自然、景観、食、文化、人材等の資源を生かし、国の施策を活用し、新たな観光と地域の活性化ブランドを創造し、組み込まれた観光地から選ばれる観光地への変容を図り、長期滞在、周遊型観光で魅力ある観光地づくりに向け、取り組んでいく考えであります。

次に、3点目の医療と福祉分野についてですが、初めに久保内地区の医療機関移転の見通しについては、当該医療法人からは伊達市内に医療施設を整備した上で移転を進める予定であるとの説明を受けております。また、今後のコロナ対応の課題ですが、当該医療機関からは現在ワクチン接種に全面的なご協力をいただくとともに、町民の健康維持にご尽力をいただいているところであり、当該医療法人からは移転後も本町の医療に対する役割は継続して果たしていくとの話をいただいているところであります。町としましては、これまで地域のホームドクターとして地域医療を牽引してきた当該医療機関との協力関係を引き続き構築するなどして、長期化するコロナ対応はもとより、町民の皆様の健康に支障が生じないように地域医療をしっかりと守ってまいりたいと考えております。

次に、感染症を疑われる症状が出た場合の受診の課題についてですが、コロナ感染症についてはいつ、誰が感染してもおかしくない状況であり、せきや発熱等の自覚症状がある場合、どのように対応するのか困惑する方も多いのではないかと懸念しているところであります。感染症を疑う自覚症状がある場合には、かかりつけ医、もしくは道が設置している感染症健康相談センターに相談し、医療機関を受診することになっており、町でも感染症予防や受診の方法等について広報やホームページで周知しているところでありますが、今後とも感染が疑われる方が戸惑うことなく対処ができるよう、電話での相談対応はもとより、ホームページや広報等により町民の皆様が利用しやすく分かりやすい情報提供を充実強化してまいりたいと考えております。

次に、重症化予防のための投薬体制についてですが、治療薬に係る国や医療機関等の具体的な対応については、私どものような自治体段階では直接的、間接的な情報を得る機会が少なく、私どもの情報収集不足の面もあろうかと思っておりますが、実際のところあまり持ち合わせていない状況であります。こうした中で町が知り得る範囲でお答えいたしますと、新型コロナウイルス感染症の治療薬としては体内でのウイルスの増殖を阻害する薬や感染によって引き起こされた炎症の暴走を抑える薬等がありますが、治療で使用する薬剤についてはそれぞれ発症後の日数や重症化リスク因子の有無、

酸素投与の必要性、服用できない方などの用法が定められており、当該感染症に対する治療は症状の重症度と感染症の経過等によって異なるものとされております。抗ウイルス薬の中には流通量が限られているため、政府が買い上げて、医療機関等が登録センターに発注して受け取る方式が取られているものもありますが、生産体制整備により、今後は一般の医薬品と同様に流通が始められるとの情報もあり、必要な患者に速やかに処方されることが期待されています。町としましては、これまで以上に積極的な情報収集を行うとともに、国及び道の動きを注視しながら、町民の皆様に対して適時的確な情報提供に努めてまいりたいと考えております。

次に、在宅生活支援事業の影響と課題についてですが、訪問支援を受ける高齢者の方は、感染症に対する抵抗力や基礎疾患の状況などから、感染した場合には重症化するリスクが一般の方よりも大きいと考えられますので、当該サービスの提供に当たっては、自らの感染防止対策を図るとともに、利用者の方の居宅にウイルスを持ち込むことがないよう、日常的に十分な感染予防対策を行うことが重要であると承知しております。このため、当該事業を担っている事業所におきましては、感染症に対する正しい知識と技術を身につけることを目的に感染症予防のマニュアルを整備しており、訪問する介護員については、これに基づいてマスクの着用や手指消毒を徹底するとともに、利用者の方については訪問時に発熱の確認を行った上で、サービス提供時はマスク着用をお願いしてサービスの提供に努めているところであります。また、発熱が確認されたときは訪問を中止することとしておりますが、利用者が生活する上で必要な最低限の支援については、感染防止対策を講じた上で対応しております。長期化するコロナ禍にあって、訪問する介護員をはじめ、利用者並びに利用者のご家族にとりましても感染防止に心労が重なる対応となりますが、町としましてはこれからも利用者の方が安心してサービスが受けられるよう、感染防止対策の徹底に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

○仮議長（菊地敏法君） これより休憩といたします。再開は15時10分といたします。

休憩 午後 2時59分

再開 午後 3時10分

○仮議長（菊地敏法君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

8番、森太郎君。

○8番（森太郎君） それでは、項目ごとに再質問を進めていきたいと思っております。

まず、大きな1点目、学校教育、社会教育でございますが、まず1点目で学校運営と感染対策の課題という部分で、これは学校行事が内容の縮小、変更などを行って実施していると。ただ、これによって変更された内容とコロナ禍での行事実施により保

護者とのコミュニケーションが希薄になることはないのか、その辺についてまずお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご答弁申し上げます。

まず、学校行事の縮小、変更等の内容についてでございますが、小中学校は入学式、卒業式において式参列者の人数制限、時間短縮のための内容の見直し、国歌、校歌などの歌唱の制限を実施しております。また、小学校では運動会の保護者の観覧制限、競技種目の縮小等を実施し、中学校では日曜日に実施してきた体育大会を授業と位置づけ、体育記録会として平日に競技種目を変更して実施するなどの内容の縮小や変更を行っています。高校は3年ぶりに朝市を行いました。3蜜を避けるために校外で入場を制限して感染防止対策を徹底するなど工夫しながら、おおむね予定どおり教育活動を実施しております。

保護者とのコミュニケーションが希薄になることはないのかというご質問ですが、議員のご質問のとおり、コロナ禍で心配される点ではありましたが、学校もコミュニケーション不足とならないように、コロナ禍において家庭との連携がより大切であることから、文書、電話、メール等で連絡を密にするよう努めております。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 学校運営は順調に運営されているという理解をいたしました。

それで、次に授業、部活動の影響と課題というところで、コロナ禍が学力に与えている影響と対策、それとコロナ禍により縮小された部活動の実態と課題について、これは文化系と体育会系があると思うので、その辺について分けて説明願いたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご答弁申し上げます。

コロナ禍が学力に与える影響と対策についてでございますが、生徒の学びを止めないということの基本として学校での教育活動を行っていることから、新型コロナウイルス感染症が子供の学力に大きく影響を与えていることはないというふうに考えております。また、陽性者が確認された生徒や感染者との濃厚接触により欠席を余儀なくされた生徒に対しても、オンライン授業の実施により学びの保障を行う環境も整っていることから、新型コロナウイルス感染症の影響は本町においては少ないものと考えております。

コロナ禍により縮小された部活動の実態と課題についてでございますが、中学校、高校ともに活動中の換気や消毒などの基本的な感染対策を徹底した上で活動を実施しております。文化系の中学校吹奏楽部については、日頃の練習の成果を発揮する場として8月に情報館iにおいてサマーコンサートを開催し、10月には山美湖において定期演奏会を開催する予定でございます。中学校運動部につきましては、6月に行わ

れました中体連の各種目に参加し、卓球部は団体戦、個人戦において西胆振大会を勝ち進み、胆振大会に進出、陸上部は全道大会への出場を果たしております。こうしたことから、新型コロナウイルス感染症により練習を休みにするなどの影響は少なからずもあるものの、感染対策を講じながら活動し、それぞれ成果を上げているものと承知しております。

以上です。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） この件に関しては、学校側がオンライン授業等の実施でやっているということだと思っておりますが、オンライン授業を進めるために教員に負荷がかかっているかどうかという部分についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご質問にご答弁申し上げます。

新しいことに取り組みますので、全く負担がかかっていないかとなると、それはやはりある意味先生方には負担はかかっているとは思いますが、しかしながら、研修の体制を整えたり、学校の中で管理職が中心となってICT教育の推進に向けて昨年度から準備を進めてまいりましたので、そういった点では本町の先生方はよく頑張っ

て対応してくれているというふうに考えております。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 了解いたします。

それで、次に重大事態、いじめ、不登校発生の現状と課題という部分ですけれども、先ほどの答弁では、いじめについての調査で認知されている件数はないが、不登校については数名が登校できていない状況にあると。これは、先日新聞記事で見たのですが、室蘭市における不登校の状況のことについて記事が載っておりました。これは、その中で述べられていた原因が新型コロナによる生活リズム、さらには環境の変化が原因と、そのように分析されたものでしたが、本町の教育委員会は不登校についての原因の分析をどのようにされているかについてお伺いします。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご答弁申し上げます。

本町の教育委員会の不登校についての原因分析ですが、教育委員会としましては、文部科学省の生徒指導提要というものがあまして、不登校の要因につきましては無気力、不安、生活リズムの乱れ、遊び、非行、いじめを除く友人関係を巡る問題、親子の関わり方、学業不振、教職員との関係を巡る問題等々多岐にわたっておりまして、さらに一つの要因だけではなく複数の要因が複合しているケースもあり、要因を特定するのは大変難しい状況にあるというふうにも書かれております。そのために、背景が違う児童生徒一人一人に寄り添い、学校、家庭、地域が共感的理解と受容の姿勢を持つことが大切であるというふうにもされております。教育委員会といたしま

しても、今後も引き続き学校や関係機関と連携し、児童生徒や保護者に適切な支援ができるよう対応する所存でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 適切に対応していくということですが、コロナ禍ですから、どうしても学校と生徒とコミュニケーションが不足して、それが不登校につながっていているというようなことはないのでしょうか。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） コミュニケーション不足が発生し、それが不登校につながっていることはないかというご質問でございますが、給食時における黙食ですとかソーシャルディスタンスの確保などが日常的な学校のスタンダードというふうになっている状況にあります。しかしながら、先生方と児童生徒がコミュニケーションを図ったり信頼関係を築いたりする場合は学校生活において十分にあるために、コミュニケーション不足となっている状況にはないというふうに考えられます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 了解いたしました。これは、いろいろと世間で騒がれている問題もありますから、事案の検証、それと関係者、保護者との連携を十分に行っていたら、そういう事案が一つでも少なくなるような対応を取っていただければと思います。

次に、中学生フィンランド派遣事業についてお伺いいたします。この中学校のフィンランド派遣事業につきましては、過去に修学旅行として位置づける取扱いができないかと、そういうような議論があったと思いますが、その際の結論として、海外研修は公立学校では修学旅行に扱えないということでありました。今後も道内研修、代替研修という形で継続していくということであれば、これは道内研修だけでなく道外における研修も含めて修学旅行として位置づける検討をしていってもよいのではないかと思いますので、その辺についての考え方、お伺いします。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご答弁申し上げます。

中学生フィンランド国派遣事業につきましては、令和2年2月12日の議会全員協議会において隔年で実施する見直し案についてご説明を申し上げ、ご承認いただき、令和8年度をめどにその後の事業について検討することと認識しております。議員のご意見にありました道外の修学旅行としての位置づけについては、考え方の一つとして今後検討を継続してまいります。次年度につきましては、本町の特色ある事業の一つであるフィンランドへの派遣について、適切な時期に状況を勘案し、判断をしていく考えでありますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 中学校のフィンランド派遣事業、これは我が町の本当に特色

のある事業だと思うのですが、昨今の世界情勢といいますか、そういうようなこともあってなかなか難しい状況にあるのかなという感じがいたしております。ですから、このままフィンランド事業がどうなっていくかということも含めて慎重に検討していただきたいと思います。

それで、学校教育、社会教育の最後になりますけれども、社会教育事業関係は中止、縮小等に対応していたが、感染対策しながら実施、感染防止策を徹底していくという答弁でございましたが、この辺については可能な範囲で積極的な事業展開をお願いしたいと思うのですが、その辺についての考え方、お伺いします。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、教育長。

○教育長（谷坂常年君） ご答弁申し上げます。

社会教育関係事業につきましては、住民の皆様の主体的な生涯学習活動を支援する重要な役割を果たしておりますことから、これまでと同様、状況に応じて感染防止及び感染拡大防止対策を徹底して事業を推進してまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） それでは、次に地域経済についてお伺いいたします。先ほど説明があったのですけれども、上下水道料金の免除ですとか、ビジット昭和新山キャンペーンなどを実施してきて、状況としては非常に厳しい状況で、外国人観光客の入り込みが回復するには多分まだまだ時間を要するのかなということだと思うのですが、昭和新山地区で行われた、これは途中経過もあると思うのですが、昨年も実施していると思うのですが、ビジットキャンペーン事業の感触から観光客入り込み数の状況と費用対効果をどの程度に見込んでおられるかという部分についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

ビジット昭和新山キャンペーンの実施による入り込みの効果と費用対効果についてのご質問でございますが、ビジット昭和新山キャンペーンは、外国人団体観光客が激減している状況の中、昭和新山の駐車場を実質無料化すると、商品券によって町内や周辺の方々に昭和新山の来訪の機運を醸成して、地域経済の活性化を図ることを目的として令和2年度から実施しておるところでございます。対象の昭和新山、壮瞥温泉地区の事業所では、売上げや来訪者の増に一定の効果があったということで、再度実施してほしいという声もあって、本年度も実施したというところでございます。

令和4年度の入り込み客数ですが、キャンペーンが今年度8月に終わったばかりで、まだ7月分しか出ておりませんが、7月15日から実施したビジットの入り込み客数の影響でございますが、観光の回復基調ということもあるのですが、7月の入り込みとしては5万人の入り込みがありまして、昨年度の同じ月が2万5,000人ということ

で、2倍に増加しているというところでございます。このようなことから、一定の効果があったと認識しておりますが、これからも本町観光の振興に効果的な事業を関係団体と協議していく所存でございます。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 非常に順調に事業としての効果は出ていると、そういう理解をいたします。それで、外国人観光客の回復ですが、これは最近ちょっと症状が出た方の対応によってかなり緩和されていくという記事は載ってございますけれども、ただ外国人観光客の回復というのはかなり時間を要すると思います。というのは、まず日本に来るとしても日本の中心である東京、もしくは大阪、その辺にお客さんが来て、それが地域のほうまで波及してくるというのは結構時間がかかることだと思うのです。

総合振興局が先日新聞で発表した館内の入り込みの関係でございますけれども、2021年度入り込み客数は2020年度と比べて1.8%増の947万人、僅かに回復している。ただ、コロナ前の2019年と比べると大きな減少であると。さらに、訪日外国人宿泊者数もコロナ禍で千歳空港の国際便休止などが発生して、2,800人という非常に少ない人数になっている。ですから、これは業界関係にとってはいまだに厳しい状況が続いているし、これからも続いていくと。ですから、回復が遅れてくるものと思われるのですが、これについて早急な対応が必要だと思うのですが、この辺についての考えがあれば伺いたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

外国人観光客の回復になお時間を要するというところで、その遅れに対しての早急な対応についてのご質問でございますが、国は昨日9月7日から、観光目的の短期間の滞在新規入国については入国者の上限を5万人ということで、引上げという状況にはなってきました。全ての国、国の制限なしにパッケージツアーの入国が認められる措置ということで実施されてきております。この上限は今後段階的に引き上げられていくものとは考えてございますが、個人旅行ではなく旅行会社の管理下において手配が必要であるという制限、それから日本に入国するに当たり、ビザの取得、これの時間と経費がかかってくると、キャンセルしたらほかの人乗せられないというような状況も報道にもございまして、これらが課題となって、コロナ以前の状況に回復するにはなお時間を要するものと考えております。

対応につきましては、町は観光協会と連携いたしまして海外へのトップセールスの実施を計画しているところでございますが、このトップセールスによってコロナ後を見据えた関係旅行会社等への誘客を行うというふうな考えでおります。しかし、昨今の社会情勢、それから感染が収まらないという状況を踏まえまして、適切な時期に効

果的なセールスを実施して着実に誘客につなげていけるよう、状況を引き続き注視し、検討を進めてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 町を挙げてトップセールスを行って海外誘客に努めていくというご説明ですけれども、先ほども言ったように、海外旅行者、さらに全国規模の観光の復活というのはコロナの影響で非常に厳しい状況にあると思います。当面は地元、それと近隣の客層をターゲットとした振興策、ですから例えばお祭り、この前のあれでたしかりんごまつりは中止されるというようなことですが、地元でできる取組といいますか、りんごまつりですとか雪合戦というのはなるべく、今の経済の流れからいくと中止することなく積極的にやる必要があるのではないだろうか。それですとか、地元のいいところ発見ではないですが、フォトコンテストなどを実施されて、地元をPRしていくと、そういう取組もあってもいいのではないかと思うのですが、その辺についての考えがあればお伺いします。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

地元、近隣の誘客によつての観光活性化策といいますか、考えについてのご質問でございますが、議員ご指摘のとおり、この3年間はイベントを企画しては中止ということが繰り返されておまして、先ほど町長の行政報告の中にもございましたとおり、りんごまつりも今年は中止というような状況にありまして、人を集客する行為という部分で慎重にならざるを得ない状況があるというのは共通の理解であろうかと思えます。そんな中で、今例に挙げられましたフォトコンテストであったり、ないしはスタンプラリーなどという、近郊、近在の人が何度も自由な時間でそういった、密を避けてリピーターになって来てくれるという仕掛けも一つ、この社会情勢の中では有効なのかなと思います。ただ、道の駅をはじめとしまして、フォトコン、スタンプラリーというのが乱立している状況で、それと同化しないような、先ほどのご質問の中にもありましたけれども、何か町独自の光るようなものを核にした、そういった仕掛けが必要なのではないかなと。それは今後検討してまいりたいと思えますが、いずれにいたしましても密を避けた観光の在り方ということを引き続き検討してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） ぜひとも積極的な仕掛け、そういう仕組みづくりを検討していただければと思います。

それでは、農業分野のほうに移させていただきます。農業分野でのコロナの影響、これにつきましては他の産業に比べて国内観光客の移動が活発になればそれなりに

回復はしてくるのかなと。ただ、そういうことで深刻さというのは観光ですとか商工分野に比べればそれほど大きくないと感じるのですが、ただ国内消費者に対応する場合に他地域の農産物との差別化、それと付加価値の高い生産物を生み出していくと、そういう必要があると思うのです。その体質強化は必須のものであって、それについての予算配分についての考え方と現在の取組状況をお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

農業の体質強化についてですが、本町ではお米をはじめ、果物、野菜、黒毛和牛など全道平均に比べて経営規模は大きくないものの、多様な農畜産物が生産されております。こうした作物の中には、端境期に出荷できるトマトや道内では産地の少ない果物など、優位性のある作物や品質の高い作物もあることから、地域の強みを生かした安定的な生産体制づくりを進めるとともに、生産性や収益性の向上はもとより、ブランド化を推進する必要があると考えております。

このため、国や道の施策を効果的に活用して生産性の向上や省力化に資する農業用施設、機械の整備を支援するとともに、令和3年度からは農業施設の管理の省力化や高度化を図る情報通信環境整備対策に取り組み、本町農業、農村の将来像を見据えた計画策定を進めるほか、町のホームページやインスタグラム等を活用した情報発信に取り組んできたところであります。町としましては、今後とも地域の実情に即したスマート農業の推進をはじめ、付加価値の高い農業経営の展開を積極的に進めるため、農業用施設、機械の導入や生産体制の整備など経営改善に意欲的な生産者の取組を後押しするよう、計画的な予算措置に努めてまいりたいと考えております。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） ぜひそういう形で積極的に進めていただきたいと思います。最初のほうの答弁の中で外国人労働力の確保に影響があったという答弁があったと思うのですが、外国人労働力確保のための宿舎の確保ですとか環境整備、確保するための環境整備といいますか、そういうこと取組が必要ではないかと感じるわけなのですが、伊達市あたりは結構、海外の外国人労働力を確保するために自宅を改造して何人か住まわせて常駐的に確保するというような取組をやっているやに聞いております。これは、今コロナの影響でベトナムの方ですとか中国の方、そういう部分については積極的に来ないと思うのですが、その辺についての環境整備を進めていくかということについての考え方をお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

外国人労働力の確保についてですが、少子化や高齢化が進行する中で、農業や産業等において外国人の受入れニーズが高まっており、本町においても4件の農業者で16名の技能実習生を受け入れているところであります。こうした外国人の受入れに必要な

な住宅については、農業者が自ら整備した宿泊施設や町内の空き家を利用するなどして確保しているところでもあります。町としましては、生活習慣の違いなどから生じる様々な課題をはじめ、空き家や令和3年度に拡充した民間賃貸住宅建設助成事業を活用した住宅の確保について適宜相談、対応等に協力するなど、農業生産現場が求める外国人等の人材がその有する能力を有効に発揮されるとともに、雇用者たる農業者にとっても生産活動が円滑に進行するよう、必要な支援に努めてまいる考えであります。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） そういう形で受け入れられる環境整備というものは積極的に進めていただきたいと思います。

それで、コロナの影響で外食産業といいますか、これ非常に大幅に落ち込んで、それが米の需要につながっていったら米余りになる。そういうような状態になるのではないということも実はささやかれております。これがひいては米価の暴落にもつながっていくとも言われておまして、こういう米食についての消費喚起につながるような取組をする考えがあるかどうかについてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

ただいまお話のありましたように、北海道米は全国食味ランキングでゆめぴりかが10年連続で最高位のランクを獲得するなど、高い評価を得ているわけではありますが、米の需給状況などについては、食生活の変化や人口の減少により年々需要が減少していることに加え、感染症の影響による外食産業の落ち込みなどにより、さらに業務用が中心のお米が需要の減が大きく、民間の在庫量が増加の傾向にありまして、価格についても下落の懸念があるというふうに言われております。その消費の喚起に関しましては、ふるさと納税ですとか、例えばりんごまつりの代替イベントでEC開催でウェブ上で販売したりもしているのですけれども、その中でもお米の人気というのは結構高いものでありまして、その辺も踏まえて今後も農協さんですとか生産者の皆様と連携しながら振興を図っていければなというふう考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

以上です。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） そういう形で農業も積極的に課題解決といいますか、そういうような取組を進めていただければと思います。

それで、経済の最後になりますが、商工事業者への影響と課題という部分で、これは対策としては売上減支援の商工業振興緊急対策事業ですとかプレミアム商品券ですとか、これらで必要な対策を講じていくということなのですが、商工業振興緊急対策事業ですとかプレミアム商品券事業実施による具体的効果、その部分についてお伺い

したいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

商工業振興緊急対策事業やプレミアム商品券事業の具体的効果ということでございますが、商工業振興緊急対策事業につきましては3か年にわたるコロナ禍にあって本年度まで合計4回、事業継続と経営安定のために商工事業者を対象に商工会を通じまして支援を行ってきたものでございます。その内容でございますが、コロナ対策でありますパーティションの設置とか、感染症予防の対策経費への支援とか、議員から今ございましたとおり、売上げが減少した観光事業者を対象に、一定の要件を設けまして売上減の一部を助成するなど、国の交付金を活用して実施してきたものでございます。このような対策と国や道の支援策も含めて、商工会と連携をいたしまして活用の勧奨を行っていることなどから、各事業所の事業継続とともに、商工会加入会員が増加するという事など一定の効果があつたものと認識してございます。

次に、事業者に対してのプレミアム商品券事業につきましては、先ほどもちょっと触れましたが、商品券が町内農産品や町内の事業所を限定としたことから、まず町内での経済の循環効果が高まったこと、それから消費喚起につながったことという効果があつたというふうに認識してございます。加えまして、町民の皆様のプレミア率、町民向けの商品券がプレミア率が高いことから、コロナ禍に加えて昨今の物価高、物価高騰がある中で日々の生活の一助につながったのではないかとというふうに評価してございます。それと、今度は町外向けなのですが、町外向けの商品券は新たな消費者を呼び込む契機となりまして、本町の農産品の評価、ファンができて、リピーターとなって店舗や道の駅で町内外からの来訪者が増加して、一定の効果があつたというふうに認識してございます。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） この商工事業者への関係で言えば、農業と連携した具体的取組、これは過去に奥洞爺牛の取組があつたと思うのですが、奥洞爺牛、高いものですから、なかなか一般の消費と申しますか、そういう部分には届かなかつた部分もあるのかなと思いますけれども、そのような農業と連携した取組を今後積極的に取り組んでいく考え方があるかどうかについてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、商工観光課長。

○商工観光課長（三松靖志君） ご答弁申し上げます。

農業と商工業の連携ということで、今お話のありました奥洞爺事業というのは補助金を活用した事業で数年前に実施されたのですが、奥洞爺温泉郷というようなのぼりをいまだに立てていただいて、事業者さんとしては引き続き、モチベーションと申しますか、それを維持して頑張っておられる方もおりまして、こちらもそういつ

た意味では成果があったものと認識してございます。

それで、農商工の連携については、本町経済の活性化を図るためにはそうした産業の枠を超えて連携をいたしまして、お互いのノウハウや技術を活用して農産物の付加価値向上、今の奥洞爺もそうなのですが、新商品の開発や販路の拡大、これに取り組んでいく必要があると考えてございます。このため、町もこれまでも本町のリングを使用いたしましたシードルや醸造用ブドウを専用種で製造したワインなど、商品化や販売に関係団体と連携して取り組むとともに、本町の資源や特性を生かした特産品の開発等に補助金を交付いたしまして、本町の知名度の向上や地域の活性化等を図る取組を支援してきたところでございます。また、本町の農産物等の知名度向上やブランド化に向けて農産物直売所サムズや商工会青年部等と連携いたしまして、札幌で行われます道産子感謝DAY、札幌麦酒祭りというイベントや道内の高速道路のサービスエリアで開催されます北海道ハイウェイShowArea、こういったイベントに出展をいたしまして、町の農産品や農産加工品のPR活動を一丸となって展開してきたところでございます。

町といたしましては、地域の宝である農産物等の付加価値向上を図るため、農業者はもとより、商工業者や関係団体、関係機関、さらには地域おこし協力隊と連携をいたしまして、本町の看板となる新商品の開発をより一層推進するとともに、ふるさと納税やSNSなどを効果的に活用したPR活動を積極的に展開するなど、本町の知名度の向上やブランド化をさらに進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） そのような形でぜひ積極的に進めていただければと思います。

次に、医療と福祉分野に移ります。久保内地区の医療機関移転でございますけれども、この医療機関移転時期についての具体的見通しといいますか、その辺についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

医療機関の移転についてですが、当該医療法人によりますと、先ほどご答弁申し上げましたとおり、伊達市内に新たに医療施設を整備した上で移転を進めるとのことでありまして、お話をされた時点では具体的な着工の時期は決まっていないということでありました。こうした施設の整備や移転につきましては、当該医療法人にとっても組織的な意思決定等の対応もありますので、当該医療法人の具体的な公表のない現時点では様々な立場や事情等をご察しいただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 当然法人の都合もあるということですから、それはそういう

方針がはっきり見えてきた段階でお知らせいただければと思います。

それで、この法人につきましては、これまでコロナ対応を含めて地域医療を守るといっていろいろご協力いただいているわけなのですが、これが今後も変わらずなく当該医療機関にご協力いただけるという理解でよろしいのか、その辺についてお知らせ願いたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

病院移転後の対応についてですが、このたびの移転の表明に当たりまして、当該医療法人からは、昭和57年12月の開院以来約40年間にわたり、地域の身近な医療機関として築いてきた町や町民との絆を大切にして、本町の医療に対する役割は今後も果たしていきたいという説明をいただいております。また、移転後の本町の医療との関わりにつきましては、具体的な条件等を今後協議してまいることとしております。

以上です。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森太郎君） 了解いたしました。ぜひその法人にはこれまでどおり積極的に町と関わっていただけることを期待しております。

それで、次に具体的に感染症が疑われる症状が出た場合の受診についてお伺いしたいと思います。発熱等の感染症状が出たときに、発熱外来、この辺でいうとちょっと大きなところあたりはそうだと思うのですが、受診しづらいというような話も聞きます。その辺の実態と、PCR検査の無料の抗原検査キットの配付を受けるための具体的な手続があると思うのですが、その手順についてお知らせ願いたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

発熱外来の受診についてですが、感染拡大が急速に進む中、感染者はもとより、感染の疑いがある方などが受診や検査に殺到するため、これまでの感染の波が起きたときと同様に、その波の時期によっては医療機関が逼迫する状況が起きているものと考えております。そこで、発熱などの症状のある方の対応についてですが、かかりつけ医がある方は当該病院に電話で相談し、その指示に従うこととされております。また、かかりつけの病院がない方は、北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センターに相談し、その指示に従うこととされております。

さらに、PCR検査等についてですが、発熱などの症状がなければ無料の検査所を利用することができまして、近隣では伊達市内7か所の薬局で検査を受けることが可能となっておりますが、あらかじめ電話で相談した上でご利用いただくことをお勧めしております。なお、無料の抗原検査キットの配付についてですが、道では新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、診療、検査、医療機関の予約が取りにくい等の

状況を踏まえ、医療機関に負担をかけずに迅速な陽性判定を行い、健康観察につなげることができるよう、有症状の方への抗原定性検査キットの配付や陽性者登録を行う北海道陽性者登録センターをこの8月に設置しております。現時点では当面石狩振興局管内の市町村を対象として運用することとしておりますが、順次拡大して実施できるよう準備を進めているとしておりますので、詳細が分かり次第広報等で町民の皆様にお知らせしたいと考えております。

いずれにしましても、発熱外来の受診などお困りのことがありましたら、遠慮なく町の保健センターに相談をされることも含めて町民の皆様に対するコロナ関係情報の提供を充実してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） これより休憩といたします。再開は16時10分といたします。

休憩 午後 3時59分

再開 午後 4時10分

○仮議長（菊地敏法君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） これ最近のマスコミ等でもいろいろ発表されているようですが、感染者の療養期間、それと濃厚接触者というのですか、それですとか接触者、その待機期間の見直しの動きがあると、この辺の見直しの動きについての情報と、それとPCR検査の検体を提出して、その結果が出てくるまでの時間的な部分、もし承知していればお聞きしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

療養期間の見直しについてですが、現在感染者の療養期間としては、症状がある場合は10日間、無症状の場合は7日間というふうになっております。先頃の報道によりますと、首相は9月6日夕方の記者団からの取材に対しまして、症状がある方は7日間、無症状の方は5日間とする方針を明らかにされたと聞いております。なお、こうした内容につきましては、現在のところ正式な通知を得ておりませんことをご理解いただきますようお願いいたします。

それと、PCR検査の検体、判明する時間ということだったのですが、医療機関によって多少結果が出るまでの時間異なるようです。理由は承知はしていないのですが、検査を受けるときにそれぞれ医療機関のほうに確認いただければと思います。よろしく願いいたします。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） それでは、重症化予防のための投薬体制についてお聞きしたいと思います。これも先般の新聞報道等では出ていたのですけれども、現状では薬事承認されて流通している治療薬は少ないと。国からの割当ての範囲でしか流通していないが、今後生産体制が整備されることで流通が多くなっていくのではないかということでありましたが、その辺についての状況についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

治療薬の流通についてですが、医薬品の取扱いなどにつきましては国が様々な手続を経て行うものと承知しており、現時点では情報を持ち合わせておりませんし、私どものような自治体が軽々しく言及するようなものではないと考えますので、こうした事情をご理解いただきますようお願いいたします。なお、治療薬の情報等については、公表可能な情報を入手次第、町民の皆様に広報やホームページ等を通じてお知らせしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 了解いたしました。流通している治療薬についてお伺いしますけれども、これはどこの医療機関でも使用可能になるということなのか、その辺についての詳細をお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

治療薬の使用についてですが、本件につきましても現時点では公表し得る情報を持ち合わせておりませんので、情報を入手次第、町民の皆様に広報やホームページを通じてお知らせしてまいりたいと思いますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 分かりました。

今後の動きとして、5歳から11歳の接種状況、これについて町としては積極的に呼びかけていくのかという、その辺についての対応についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

5歳から11歳のワクチン、これからも積極的に呼びかけるのかということなのですが、今5歳から11歳の接種は接種推奨というふうになっておりまして、それが9月6日付で予防接種法の改正がありまして、努力義務ということになりました。それで、今後それについて広報等でお知らせをしていくとともに、積極的に接種を呼びかけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 国では9月初めに新型コロナウイルスのオミクロン株対応の新ワクチン接種について決定したということ、これも新聞で見たわけなのですが、この辺の今後の対応、町の対応についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

新ワクチンの接種日程についてですが、国からの通知によりますと9月中旬に開催される予定の予防接種・ワクチン分科会で新ワクチンの接種を特例臨時接種に位置づけをすることなどを諮り、必要な法令改正を経て新ワクチン接種が開始される予定となっております。新ワクチンの接種については、10月半ばをめどに、初回接種を完了した12歳以上の全ての住民を対象として実施することを想定して準備をするよう国から指示がありましたので、本定例会で新ワクチンの接種に係る予算を計上して、速やかに対応できるよう準備を進めることとしております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） 了解いたしました。

それで、最後になると思いますが、在宅生活支援事業の関係をお伺いしたいと思います。この事業を行うための事業所職員に感染者との接触事案が発生する場合もあると思うのですが、そのことによって出勤自粛期間が発生した場合の人員確保に問題があるかないかという部分についてお伺いしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

事業所の人員確保についてですが、事業所におかれましては誰もがいつ感染してもおかしくない状況の中、日々感染防止に神経をすり減らして業務の遂行に尽力しているものと承知しております。事業所においては、感染を持ち込まないよう細心の注意を払っているものの、残念ながら職員に感染者が多数発生した場合などは、人員体制の確保の面ばかりでなく、感染拡大を阻止する観点から、サービスの一時的な縮小等の措置を取らざるを得ないこともあると考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 8番、森太郎君。

○8番（森 太郎君） これで最後にしたいと思うのですが、万全の感染対策をした上で、コロナ禍でも高齢者等への訪問サービス、これが後退しないように対応していただきたいと思うのですが、その辺についての町の考え方をお伺いして、最後にしたいと思います。

○仮議長（菊地敏法君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

訪問サービスの提供についてですが、サービスを提供する事業所におかれましては、感染症予防のマニュアルを整備し、介護員の感染防止対策を徹底し、精神的に厳しい状況の中で業務を全うしており、並々ならぬご努力に頭が下がる思いであります。町としましては、こうした事業所で一たび感染が発生すると多数の感染につながるおそれがありますので、感染防止対策の徹底などについて事業所と連携し、サービスに影響が生じないよう感染防止に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○仮議長（菊地敏法君） 以上で森議員の一般質問が終了いたしましたので、議長を交代いたします。

〔議長交代〕

○副議長（森 太郎君） 引き続き一般質問を行います。

5番、山本勲君。

○5番（山本 勲君） 私のほうからは地域おこし協力隊の活動についてを質問いたします。

先日、総務・経済合同常任委員会所管事務調査で地域おこし協力隊7名と活動状況について意見交換を行いました。その中で、これからの壮警町のことや各ポジションでの活動、個々の隊員の思いや考えを伺い、日々の活動についての理解を深めました。については、今後の協力隊の活動についての理解をより深めたく、以下について質問いたします。

1つ目、今後協力隊の増員の予定はあるのか。

2つ目、3年の期限を迎える隊員は、期限後も壮警町に定住できるのか。また、担当していた活動の引継ぎや後任はどのようになるのか。

3つ目、地域おこし協力隊拠点施設、地域のおそびばミナミナの設置目的、設置用と、運営の主体はどのようになるのかを質問いたします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、町長。

○町長（田鍋敏也君） 5番、山本議員のご質問にご答弁申し上げます。

地域おこし協力隊は、総務省が推進する施策で、都市部から過疎地域等に住民票を異動し、地域おこしや地域活動の支援を行いながら、その地域への定住、定着を図る取組です。令和3年度、約6,000人の隊員が全国で活動しており、令和6年度には8,000人に増やす目標を掲げております。隊員の活動経費には一定の財政措置があり、町ではこの施策を活用するため、他の自治体の取組例を参考に、令和2年度以降計画的な募集を行い、現在豊富な経験と多様な知見をお持ちの7人の方が農業、情報発信、スポーツ、国際交流、観光、移住、空き家対策等の分野で幅広く活動され、それぞれ成果を上げられております。

1点目の協力隊の増員の予定についてですが、地域おこし協力隊は総務省の施策として継続されるものと承知をしており、町としましてはこれまでの取組成果を踏まえ、積極的な活用により壮瞥町の課題解決と地域力の向上を図っていくために必要な人材、体制を検討し、適切に判断していく考えです。

2点目の隊員の期限後の定住についてですが、協力隊の任期は3年で、7のうち4人が来年6月から8月で任期が終了します。総務省では、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、特例として本年度から2年を上限に任期の延長が可能とされたところです。町としましては、この特例の選択や任期満了後の定住も含め、該当する隊員と協議、調整を行っていく考えで、こうした調整と検討の中で協力隊員が担う活動の継続や後任の募集などについて判断していく考えです。

3点目の地域のあそびばミナミナについてですが、このミナミナは「そうべつの素敵なヒト・モノ・コトに出会う場」として「そうべつを知り、そうべつをつなげる」ことをコンセプトに、交流を通し、地域の活性化を図ることなどを目的として設置したものです。去る8月26日開催したオープニングセレモニーには町内外から多くの方へ出席いただき、報道でも取り上げられたところですが、開設にご尽力、ご協力をいただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

具体的な活用については、町内の資源を協力隊の目線による様々な情報発信をはじめ、移住の相談や協力隊が企画するイベントでの利用とともに、協力隊卒業後の起業等を試行する場などとして幅広い活用を図る考えであります。施設の運営主体は町であり、隊員が火曜日から土曜日まで常駐し、隊員の主体的な活動により運営する予定であります。7人の協力隊が検討を重ね、多くの皆様のご協力でオープンしたこの新たな地域おこし協力隊の活動拠点ミナミナが町のにぎわい創出や関係人口、交流人口の拡大に役割を果たすよう取り組んでいく所存でありますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご答弁といたします。

○副議長（森 太郎君） 5番、山本勲君。

○5番（山本 勲君） 協力隊のことに関してですけれども、何点が再質問させていただきます。

地域おこし協力隊には大きく分けると3種類のものがあると聞きました。それはどのような種類なのか。

また、現在7名いるのですが、その7名はどの部類に属しているのか。

あと、任期の3年間で協力隊個人個人に農業だとかスポーツだとかで3年間でここまでやってくださいというようなミッションみたいなものはあるのかをお聞きいたします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、企画財政課長。

○企画財政課長（上名正樹君） ご答弁申し上げます。

地域おこし協力隊には大きく3種類あるというところですがけれども、こちらは多分

議員のほうでホームページを見たところだと思うのですが、8月30日にホームページに掲載した移住ブログの中に、協力隊の活動形態としてミッション型、それからフリーミッション型、そして起業型の3種類があると記載してあります。ミッション型につきましては自治体側が仕事の内容をあらかじめ定めているもの、それからフリーミッション型は地域の課題を隊員自らが見つけて課題解決に取り組むもの、それから起業型というのは隊員自身のスキルなどを生かして起業に向けて取り組むという3種類があります。

そこで、当町では地域おこし協力隊の募集時には仕事、業務内容を示しておりまして、例えば移住コンシェルジュの募集のときには移住に関する相談対応ですとか、移住に関する情報収集や情報発信、それから移住体験住宅の運営をしていただきたいというふうに募集をかけていたり、また空き家コーディネーターの募集のときには空き家の調査や情報収集、それから空き家に関する相談対応、それから町のホームページに載っていますけれども、空き家バンクの管理などについて業務内容として募集しております。ほかの協力隊の募集のときにもそれぞれ業務内容を示している点からいえば、この3分類の中ではミッション型であると言えると思います。ただ、本町の協力隊につきましては任用後は町で定めた業務はもちろんやっていただくのですけれども、それに加えて3年後、任期終了後を見据えた活動ですとか、自分自身がやりたいことを見つけていただいたりとか、あと自身のスキルを生かした活動を協力隊自身で考えて行ってもらっておりまして、そういった部分では起業型でもあると言えると思っております。

また、3年間で個々にこなさなければならないミッションがあるのかという点では、特にここまで達成してくださいというミッションとしては与えていないというところがございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 5番、山本勲君。

○5番（山本 勲君） ありがとうございます。増員に関してなのですが、私は必要と考えていまして、どうしても我々のように長い間この町に住み続けていると貴重なものが当たり前になってしまうということがあります。そんなときに協力隊や移住者、外からの視点や感覚が大切になってくると感じておりますので、これからも積極的に活用していただければと思います。

次に、答弁の中にもあったのですが、コロナの特例で最大2年延長が可能になったと、現時点で定住が決まっていたり起業内容が確定している方はいるのか。

また、期限後は壮瞥町を離れる選択肢もあるのかお聞きいたします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、企画財政課長。

○企画財政課長（上名正樹君） ご答弁申し上げます。

町長の答弁でもありましたけれども、隊員7名のうち4名が来年の6月から8月で3年間の任期を終了しますけれども、コロナの影響によって活動に制限を受けた場合には特例で最大2年間の延長が可能になったこともあり、現時点で定住、起業内容についてどうなるか確定はしていないというふうに認識しておりますが、町といたしましては任期終了後に定住してもらって、起業または就業などをしてもらえるようにサポートしていければと考えております。

それから、期限後壮警町を離れる選択肢もあるのかというところですが、この地域おこし協力隊の制度上、任期終了後の定住につきましては義務化はされていません。ですので、隊員自身の考えで壮警町に残るのか、ほかのまちへ移るのかは決めてもらうこととなります。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 5番、山本勲君。

○5番（山本 勲君） 今の協力隊のメンバーの方と、関わりというか、接点とかが結構あって、こんなにすばらしいメンバーがそろっているというふうにいつも思っています。協力隊卒業後も引き続き町の発展に協力してもらえるような人たちばかりだなと思っていますので、連携や情報共有を強化して、お互いいい環境、関係でいられるような仕組みづくりやサポートをよろしくお願いしたいなというふうに思っています。

3つ目のミナミナなのですが、今後協力隊のメンバーは全員ミナミナに常駐し、活動していくのか。また、移住相談等の窓口はミナミナになるのか。会議や打合せ、イベント等で町民が施設を利用することは可能なのか。可能であれば、利用料とかはどのようにしているのかを質問します。

○副議長（森 太郎君） 答弁、企画財政課長。

○企画財政課長（上名正樹君） ご答弁申し上げます。

何点かあったかと思いますが、ミナミナに常駐する関係ですが、現時点ではミナミナに常駐する隊員は3名考えておまして、移住担当の今井隊員、それから情報発信担当の清水隊員、それから観光担当の前??隊員の3名が交代で常駐して活動する予定でおります。この3名の交代、シフトで交代でやるのですが、インスタグラムのほうで毎週シフトをお知らせいたしますので、そちらも見ていただければ、そのシフトのほかにも、こういったことを今日はやっていますよ、誰がいて、今日は何をしますよというような情報もありますので、そちらで情報を得てもらえればありがたいなと思っております。ほかの隊員につきましては、これまでどおりの勤務場所で勤務していくこととなります。

それから、移住相談窓口につきましては、これからはミナミナになります。電話も開通しておまして、これまでどおり移住担当の今井隊員が移住相談に対応していくという形になります。

それから、ミナミナの利用についてですけれども、この地域のあそびばミナミナは地域おこし協力隊が運営するコミュニティースペースでございまして、町内外の方々が気軽に立ち寄れる場にしたいと考えておりまして、地域の人をつなげたり地域の活性化につながるような取組をはじめ、会議ですとか打合せにもぜひこのミナミナを利用してもらえればと思っております。

また、ミナミナでのイベントの利用につきましては、本施設が地域おこし協力隊の活動拠点施設であることから、地域おこし協力隊が主催するイベントに限定をしております。ただ、地域活性化につながるようなイベントの開催の希望ですとかご提案がありましたら、まずはお気軽に地域おこし協力隊にご相談いただきまして、主催は地域おこし協力隊になるのですけれども、併せてやる実施方法などについて検討させていただいて、できれば前向きにできるように、イベントを共催なりして一緒にできるように進めていきたいと思っておりますので、ご相談いただければと思います。

ミナミナにつきましては、様々な用途で自由にご利用いただきたいと考えておりまして、施設の利用料はかかりません。取る予定はございません。ただ、いろいろな利用状況ありますので、まずは相談していただいて、疑問な点などがあつたら常駐している協力隊に一声かけていただければと思っております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 5番、山本勲君。

○5番（山本 勲君） ありがとうございます。今までにありそうでなかった施設かなというふうに思います。大変期待していますし、協力隊員同士の連携や行動力は大変感心して見えています。ミナミナで移住希望者や移住者が何でも気軽に相談できて、そこで地元の町民ともつながれるという、そんなすてきな拠点になってほしいなと思います。我々も協力隊任せにならないようにいかなければなと改めて感じていますし、これからも横のつながりを強化しながら、オール壮警でいろいろなことに取り組んでいければというふうに思っています。

あと、今後ミナミナを、壮警町のホームページとかにまだ出ていないようでしたので、ホームページで宣伝したり、あと駐車場、何かサムズに止める人が多いような感じがするので、手狭になっていくのではないかなということ、何か考えあるのであれば、ちょっとお伺いしたいです。それと営業時間と定休日を最後にお聞きして、終わりにします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、企画財政課長。

○企画財政課長（上名正樹君） ご答弁申し上げます。

議員おっしゃるとおり、オール壮警でこの施設を通して壮警町の地域の活性化につながっていければと考えておりますので、今後ホームページにもミナミナの情報が見れるような掲示といいますか、設定できるように進めていきたいと今考えておりますし、今後も様々な広報でも、10月広報でも8月26日のオープニングセレモニーの様子で

すとか、あとはミナミナでどういったことができるのか、どういう利用で使えるのかなども詳しく紹介させていただきたいと思っておりますし、ちょっと宣伝になるかもしれませんが、地域のあそびばミナミナという名前の由来ですけれども、こちらはアイヌ語でミナというのは笑うという意味、それからみんなが集まってという、皆が集まって笑い合う場所であってほしいという意味を込めて協力隊の方たちが名前を考えて、こういった地域のあそびばミナミナというふうになりました。また、地域で集う場として子供から大人まで気軽に遊びに来てほしいという思いを込めてミナミナの頭に地域のあそびばという言葉もつけております。ぜひお気軽に遊びに来ていただいて、笑顔になって帰ってもらえるような場になるようにしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。

また、駐車場につきましては、お店の前は数台しか止められませんけれども、ミナミナだけに来る人もいるかもしれませんけれども、サムズを利用して、そのついでに寄っていただくという形で、駐車場はサムズのほうも若干使わせていただくことになるかと思っておりますけれども、そういった形で運営をしていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いできればと思います。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 町長。

○町長（田鍋敏也君） 総括的な立場でまた答弁をさせていただきたいと思いますが、感染症の拡大を契機に地方への暮らしに関心が高まっており、このようなことから協力隊も優秀な人材が我が町に集結していただいているのかなど、このように思っております。全道的に見ますと、多いところでは51人の地域おこし協力隊がいる自治体がありまして、北海道全体で821人、149団体で活躍されていて、令和3年度ですけれども、1団体当たり5.5人と、壮瞥町もその平均よりちょっと多いぐらい、人口にもよりますけれども、そういうことでもあり、胆振管内でも調べてみると東胆振を中心に非常にたくさんの協力隊が活躍されている自治体があるということでもありますので、他団体の例ですとか、我が町の今までの取組の評価とともに、ここで増員の明言はできませんけれども、積極的に活用していきたいと思っておりますし、縁あって壮瞥町に着任していただいた協力隊の皆さんと協力をしていけるような関係を構築していきたいと思っておりますし、ミナミナのように協力隊の皆さんが協議して開設された、このような取組成果が出てくるように、今までもそれぞれの協力隊員の7人の方が成果を出していただいているところでありますので、その仕組みを活用し、これからも町の課題解決に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（上名正樹君） すみません、答弁漏れがありましたので、再度答弁

させていただきます。

営業時間と定休日の関係ですけれども、ミナミナにつきましては火曜日から土曜日までの営業ですので、日曜日と月曜日が定休日になります。営業時間は、火曜日から金曜日が10時から17時30分まで、土曜日は30分短くなって10時から17時までの営業時間となります。

○副議長（森 太郎君） これにて一般質問を終結いたします。

◎散会の宣告

○副議長（森 太郎君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

9月9日の議事日程は、当日通知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

（午後 4時45分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

副 議 長

仮 議 長

署名議員

署名議員

令和4年壮瞥町議会第3回定例会会議録

○議事日程（第2号）

令和4年9月9日（金曜日） 午前10時00分開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 議案第42号ないし議案第54号及び報告第3号について
（提案理由説明・議案内容説明）

日程第 3 意見案第3号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見
書

日程第 4 議員の派遣について

○出席議員（8名）

1番	菊地敏法君	2番	松本勉君
3番	佐藤恣君	4番	加藤正志君
5番	山本勲君	6番	真鍋盛男君
7番	毛利爾君	8番	森太郎君

○欠席議員（1名）

9番 長内伸一君

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町長	田鍋敏也君
副町長	黒崎嘉方君
教育長	谷坂常年君
会計管理者兼	
	小野寺寿勝君
税務会計課長	
総務課長（兼）	庵匡君
企画財政課長	上名正樹君
企画財政課参事	市田喜芳君
住民福祉課長	阿部正一君
産業振興課長	木下薫君
商工観光課長	三松靖志君
建設課長	澤井智明君
生涯学習課長	河野圭君
選管書記長（兼）	庵匡君
農委事務局長	齋藤誠士君
監委事務局長（兼）	小林一也君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長（兼） 小林一也君

◎開議の宣告

○副議長（森 太郎君） おはようございます。長内議長から本日の定例会を欠席する旨の届出がありましたので、地方自治法第106条第1項の議会の議長に事故があるとき、副議長が議長の職務を行うの規定に基づき、私が議長を務めますので、よろしくお願いいたします。

これより本日の会議を開きます。

（午前10時00分）

◎議事日程の報告

○副議長（森 太郎君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○副議長（森 太郎君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第116条の規定により、議長において

2番 松本 勉君 3番 佐藤 恣君

を指名いたします。

◎議案第42号ないし議案第54号及び報告第3号

○副議長（森 太郎君） 日程第2、議案第42号ないし第54号及び報告第3号を議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（田鍋敏也君） 令和4年第3回定例会に当たり提出いたします議件は、議案第42号から議案第54号までの13件、報告第3号の1件、合計14件であります。

この提出議案のうち、人事案件についてご説明いたします。議案第42号 教育委員会教育長の任命について。

下記の者を教育委員会の教育長に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により、議会の同意を求めます。

教育長の任命についてであります。現教育長の谷坂常年氏は令和元年8月1日付で教育長に就任して以来2期3年2か月にわたり本町教育行政の適正な執行に努めていただいておりますが、このたび令和4年9月30日をもって任期満了となるため、引き続き同氏を教育長として選任いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により、本議会の同意を求めます。

谷坂氏におかれましては、教育長就任後教育行政の適正な執行にご尽力をいただい

ており、本町の教育長として適任と判断しておりますので、議員各位のご同意をお願い申し上げます。

なお、別に履歴書を配付しておりますので、後ほどご照覧ください。

次に、議案第 43 号 教育委員会委員の任命について。

下記の者を教育委員会の委員に任命したいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 4 条第 2 項の規定により、議会の同意を求めらる。

教育委員会委員の任命についてであります。現委員の金子祐一氏は平成 22 年 10 月 1 日付で教育委員に就任して以来現在まで 3 期 12 年にわたり教育の振興にご尽力をいただいておりますが、このたび令和 4 年 9 月 30 日をもって任期満了となるため、引き続き同氏を教育委員として選任いたしたく、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 4 条第 2 項の規定により、本議会の同意を求めらるものであります。

金子氏におかれましては、教育委員就任後精力的に教育行政の適正な執行にご尽力をいただいております。本町の教育委員として適任と判断しておりますので、議員各位のご同意をお願い申し上げます。

なお、別に履歴書を配付しておりますので、後ほどご照覧ください。

以上、提案説明といたします。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○副議長（森 太郎君） 副町長。

○副町長（黒崎嘉方君） 引き続き私から提案理由について説明申し上げます。

3 ページを御覧ください。議案第 44 号 専決処分の承認を求めらるることについて。

地方自治法第 179 条第 1 項の規定によって、別紙のとおり専決処分したので、同条第 3 項の規定によりこれを報告し、承認を求めらる。

4 ページになります。専決処分書。

地方自治法第 179 条第 1 項の規定により、議会の議決すべき事件について特に緊急を要するたため議会を招集する時間的余裕がないので、次のとおり専決処分する。

令和 4 年度壮警町一般会計補正予算（第 6 号）について。

令和 4 年度壮警町一般会計補正予算（第 6 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、既定の歳入歳出予算の総額 41 億 5,510 万 5,000 円に歳入歳出それぞれ 710 万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 41 億 6,220 万 5,000 円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

専決処分の日付は、令和 4 年 8 月 9 日となります。

事項別明細書、歳出から説明します。8 ページになります。初めに、8 月 8 日から 9 日未明にかけての大雨の概要と対応についてであります。町内では日本海から北海道に延びる前線や低気圧の影響で断続的な大雨となり、道の駅そうべつ情報館 i 屋

ら 16 日にかけての大雨の概要と対応についてであります。町内では日本海から北海道に延びる前線や低気圧の影響で断続的な大雨となり、道の駅そうべつ情報館 i 屋上の気象観測装置によると総雨量で 63.5 ミリメートル、1 時間当たりの最大降水量で 13 ミリメートル、また幸内地区雨量計では総降水量 88.5 ミリメートル、1 時間当たりの最大降水量で 11.5 ミリメートルを記録したところであります。町としましては、16 日午前に被害の調査を実施し、町道や林道の断続的な路面洗掘や側溝への土砂の流入をはじめ、農業用排水路や農業用取水施設への土砂の堆積などの被害状況を確認するとともに、通行等の安全確保を図り、社会生活や営農活動等に支障が生じないよう緊急的に復旧対策を行うこととしたものであります。その復旧対策についてであります。災害復旧費、公共土木施設災害復旧費、道路橋梁河川災害復旧費で 184 万円の追加となります。その内訳になりますが、修繕料では町道パンケ川左岸線の簡易舗装路面の舗装復旧工に要する経費で 23 万円、手数料では町道中達観内西関内線の未舗装道路の路面整正作業や町道ホロト仲洞爺線の堆積土砂の排土作業、さらには町道上立香第 2 線ほか 2 路線の堆積土砂の路面清掃や側溝の土砂上げ作業に要する経費で 161 万円を計上するものであります。

次に、農林水産施設災害復旧費、農林水産災害復旧費で 194 万円の追加となります。農林水産災害復旧費の内訳になりますが、修繕料では林道駒別線の法面復旧や取付け道路の路面整正に要する経費で 194 万円を計上するものであります。

歳入では、地方交付税、地方交付税、地方交付税で 184 万円の追加となります。

繰入金、基金繰入金、森林環境譲与税基金繰入金で 194 万円の追加となります。林道駒別線の農林水産災害復旧費に充当するものであります。

11 ページの第 1 表、歳入歳出予算補正については、説明した内容の再掲でありますので、説明は省略します。

15 ページになります。議案第 46 号 壮警町表彰条例に基づく表彰について。

壮警町表彰条例に基づき下記の者を表彰したいので、同条例第 4 条の規定により議会の同意を求めます。

16 ページになります。被表彰者につきましては、8 月 2 日に開催されました表彰審議会から答申を受けております貢献表彰、自治に関するものとして森太郎氏、社会事業に関するものとして前川郷志氏、教育・文化・体育に関するものとして岡崎真琴氏で、合わせて 3 名の方々であります。

また、議決事項ではありませんが、永年在住功労者の感謝状につきましては 35 名が該当になりますことを参考までお知らせいたしますとともに、その方々の一覧を別に添付しておりますので、後ほどご照覧いただきたいと思います。

なお、栄誉賞及び栄誉をたたえてにつきましては、本年度は該当がないことを申し添えます。

17 ページになります。議案第 47 号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正

する条例の制定について。

職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例を、別紙のとおり制定する。

18 ページになります。本件につきましては、育児休業制度の改正に伴い、地方公務員の育児休業等に関する法律が改正され、10月1日から施行されることから、同法において条例で定めるとされた事項について所要の改正を行うものであります。

初めに、今回の制度改正の概要についてであります。改正のポイントは大きく3点ありまして、1点目は原則1回としていた育児休業を分割して2回取得できるようになること、2点目は子の出生後一定期間内であれば1点目の育児休業とは別に取得できるとする産後パパ育休制度を新設すること、3点目は会計年度任用職員などの非常勤職員が子の1歳到達日後も育児休業を取得する場合の要件を緩和することとなっております。

そこで、これらを踏まえた条例の改正内容であります。第2条第3号中の育児休業の取得に係る要件を規定するものでは、非常勤職員の育児休業に係る任期の要件について産後パパ育休取得に係る要件を追加するほか、同号中イでは子の1歳到達日後の要件緩和と整合性が図られるよう条文を整理しております。

第2条第3号ウを削除するとともに、第2条の3第3号中の育児休業法第2条第1項の条例で定める日の規定では、1歳から1歳6か月に達するまでの子に係る非常勤職員の育児休業について、19ページに飛びますが、同号中イをウとし、同号ア中の条文を整理するとともに、同号中アをイとし、同号にアを加え、子の1歳到達日後に引き続き取得することとされた要件について配偶者の育児休業終了まで再取得日を遅らせることが可能となったこと、また同号にエを加え、育児休業の取得は原則1回であることについて同法と整合性が図られるよう条文を改正しております。

第2条の4中では、1歳6か月から2歳に達するまでの子に係る非常勤職員の育児休業について規定するものであります。前条と同様の内容に改正するものであります。

20ページになりますが、第2条の5は削除し、後述の第3条の2に規定するものであります。

第3条第5号では、特例的に3回目の育児休業を取得できる場合について育児休業等計画書に基づき取得できるとする規定を廃止するとともに、同条第6号を同条第5号、同条第7号を第6号とし、同条第8号中では任期更新に伴い取得できるとする規定の対象を非常勤職員から任期を定めて採用された職員まで範囲を拡大し、同号を第7号とする改正をしております。

また、第3条の次に第3条の2を加え、産後パパ育休の取得期間についての規定を追加するものであります。

第10条では、同条第6号に規定する育児短時間勤務に関する計画書の名称を変更するものであります。

附則では、第1項で、この条例は、令和4年10月1日から施行することとしております。

また、第2項では、育児休業等計画書に関する経過措置について規定しており、施行期日前に育児休業等計画書を提出した職員については、なお従前の例によることとしております。

なお、別に新旧対照表を添付しておりますので、後ほどご照覧ください。

21ページになります。議案第48号 壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例を、別紙のとおり制定する。

22ページを見てください。本件につきましては、全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律が制定され、高齢者の医療の確保に関する法律が一部改正されたことに伴い、壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部について所要の改正を行うものであります。

条例の改正内容であります。第3条第3号ウ中では法改正に伴い条文の文言を整理するとともに、後期高齢者医療における療養の給付に係る一部負担金の負担割合に2割負担が創設されたことに伴い、従前からの町民税非課税の者や3割負担の者に加え、2割負担の者も医療費助成の対象となるよう改め、次の同号エ中では法改正に伴い条文の文言を整理するものであります。

附則では、第1項で、この条例は、令和4年10月1日から施行することとしております。

また、第2項では、経過措置について規定しており、施行の日以後に行われる後期高齢者医療給付について適用し、同日前の後期高齢者医療給付については、なお従前の例によることとしております。

なお、別に新旧対照表を添付しておりますので、後ほどご照覧ください。

23ページになります。議案第49号 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための壮警町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための壮警町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例に関する条例の一部を改正する条例を、別紙のとおり制定する。

24ページを御覧ください。本件につきましては、新型コロナウイルス感染症に感染または感染が疑われる国民健康保険被保険者の傷病手当金の支給について、これまで厚生労働省からの通知に基づいて3か月ごとに対象期間を延長する条例の改正をその都度行ってきたところではありますが、感染が長期化する中で厚生労働省の通知等の対応に機を逸することなく迅速に対応するため、期間の延長については規則で定めるよう改正するものであります。

条例の改正内容になりますが、附則第2項中では失効日を令和4年9月30日以後の規則で定める日とするよう改正するものであります。

また、附則で、この条例は、公布の日から施行することとしております。

なお、別に新旧対照表を添付しておりますので、後ほどご照覧ください。

25ページになります。議案第50号 令和4年度壮瞥町一般会計補正予算(第8号)について。

令和4年度壮瞥町一般会計補正予算(第8号)は、次に定めるところによる。

第1条、既定の歳入歳出予算の総額41億6,598万5,000円に歳入歳出それぞれ8,346万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ42億4,945万2,000円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

第2条、地方債の変更は、「第2表 地方債補正」による。

事項別明細書、歳出から説明します。33ページになります。総務費、総務管理費、財産管理費で710円の追加となります。公共施設管理事業(指定管理者施設)の修繕料になりますが、本件につきましては本年度の当初予算に計上しておりましたゆーあいの家浴槽改修工事について浴槽用資材費の値上がり等により予算不足が生じるため270万円を計上するものであります。また、当該浴槽改修工事と関連がありますので、コミュニティータクシー利用料免除措置負担金及び指定管理施設休業補償金について先に説明させていただきます。初めに、コミュニティータクシー利用料免除措置負担金になりますが、当該工事の施工に伴って1か月半程度ゆーあいの家を休業せざるを得ないことから、自家用車等の交通手段を持たない利用者等への対策として他の町営温泉施設を利用する際のコミュニティータクシー利用料を免除することとして、当該免除分の負担金10万円を計上するものであります。さらに、指定管理施設休業補償金になりますが、当該休業に伴って指定管理者に対して休業期間と同時期の直近3か年の平均収入額を算定根拠とする補償金を交付することとして、400万円を計上するものであります。以上がゆーあいの家浴槽改修工事に係る補正予算の説明となります。3行戻りまして、北の湖記念館光回線新設工事になりますが、現在北の湖記念館で情報発信等に利用しているADSL回線サービスが令和5年1月末で廃止されることから、光回線への切替え工事費21万円を計上するものであります。次に、財産管理事業一般経費の壮瞥温泉地区街路灯移設工事になりますが、道道洞爺湖登別線の拡幅工事に伴い、本町が街路灯を共架しているNTT電柱が建て替えになることから、街路灯の架け替えに必要な経費9万円を計上するものであります。

財政費、財政調整基金費で5,974万1,000円の追加となります。財政調整基金積立金になりますが、令和3年度繰越金の全額を積み立てるものであります。

徴税费、賦課徴収費で23万円の追加となります。収納管理事務、課税事務、納税奨

励事業の印刷製本費になりますが、令和5年度から固定資産税や軽自動車税等の納付書にQRコードを付し、関係機関における事務負担の軽減及び納税者の利便性の向上を図ることとされております。本件につきましては、当該対応を円滑に行うため、QRコードを付した納付書の印字確認及び読み取り確認の事前検証に必要な経費を計上するものであります。

企画費、企画費で42万円の追加となります。行政情報システム運用管理事業の西いぶり広域連合負担金（電算）になりますが、障害者福祉システムの改修に必要な経費を計上するものであります。

民生費、社会福祉費、社会福祉総務費で47万9,000円の追加となります。介護保険特別会計繰出金になりますが、介護保険特別会計の補正に伴い整理をするものであります。

34ページになります。児童福祉費、児童措置費で612万6,000円の追加となります。保育及び子育て環境整備事業の手数料では、保育所の給食業務の安全管理の強化を図るため、調理場職員のノロウイルス検便検査に必要な経費9万9,000円を計上するものであります。次の管外入所負担金では、他市町の認可保育施設に通う園児が3名から6名に増加したことに伴い、施設に支払う経費534万7,000円を計上するものであります。また、次の子育てのための施設等利用給付負担金では、他市町の認可外保育施設に通う園児が2名から4名に増加したことに伴い、負担金68万円を計上するものであります。

衛生費、保健衛生費、保健衛生総務費で39万1,000円の追加となります。保健センター管理経費の修繕料になりますが、保健センターの電気設備について電気施設の保守点検の結果、早急に修理をするよう指摘がありましたので、修理に必要な経費39万1,000円を計上するものであります。

温泉管理費では、財源区分の整理となります。本件につきましては、旧久保内中学校を活用して農産物の集出荷、貯蔵、加工施設を整備している町内の事業者から旧校舎を利用した事務所施設における冬期間の暖房用として温泉水供給についての依頼があり、供給条件等について検討した結果、供給量毎分最大150リットル、給湯料80万円で供給契約を締結することとしたため、給湯収入80万円を追加するとともに、一般財源を同額で減額する整理をするものであります。

農林水産業費、林業費、林業振興費で35万円の追加となります。有害鳥獣関係の新規狩猟免許取得等補助金になりますが、有害鳥獣につきましてはこれまでも電気柵の整備や有害鳥獣の駆除等の対策に取り組んできましたが、昨年冬から今年の春にかけて果樹の樹体に甚大な被害が発生するなど、その被害は深刻さを増している状況となっております。町としましては、現在生産者の方々の意見を聞きながら、より効果的で実効性のある対策を検討しているところでありますが、このたびはその一環として鳥獣害対策に関わる人材の育成、確保と捕獲体制の充実を図るため、わな免許の

取得に要する経費を計上するものであります。

土木費、道路橋梁費、道路橋梁維持費では、節間の変更となります。道路橋梁維持経費になりますが、修繕料を400万円減額し、手数料に同額を追加する整理を行うものであります。本件につきましては、令和3年度末に1,000万円の寄附金をいただき、本年度第2回定例会で昨年度の大雪で顕著になった道路施設の改善を図り、今後の除排雪経費の軽減に向けた整備を行う目的でデリネーターの修繕料で400万円、支障木の処理手数料で200万円、滝之町地区の雪捨場等の整備工事で400万円の補正予算について議決をいただいたところであります。このうち支障木の処理については植生の状況を詳細に把握したところ、当初の見込みよりも道路沿線の立木が車道側に張り出していることやこのまま放置すると今後の成長により支障となる立木が多く存在していることが判明し、除排雪作業の効率化を図るため直接的に除排雪作業の支障となる立木の処理を重点的に行うことを優先すべきと判断するとともに、デリネーターの修繕についてはスノーポールを設置する対応に見直すこととし、修繕料400万円を減額し、支障木の処理に係る手数料を400万円追加するものであります。

水道費、水道費で15万6,000円の減額となります。簡易水道事業特別会計繰出金になりますが、簡易水道事業特別会計の補正に伴い整理をするものであります。

下水道費、下水道費で27万7,000円の追加となります。集落排水事業特別会計繰出金になりますが、集落排水事業特別会計の補正に伴い整理をするもので、その内訳は集落排水事業繰り出し分で31万7,000円の追加、管理型浄化槽事業繰り出し分で4万円の減額となります。

35ページになります。諸支出金、諸費、国道支出金返納金で172万4,000円の追加となります。国、道支出金返納金になりますが、令和3年度の事業費が確定したことに伴い、国、道に対する返納金を計上するもので、その内訳は障害者自立支援給付費国庫負担金返納金で60万7,000円、障害者自立支援給付費道費負担金返納金で30万3,000円、障害者医療費国庫負担金返納金で7万3,000円、障害者医療費道費負担金返納金で3万6,000円、障害児施設給付費国庫負担金返納金で27万4,000円、障害児施設給付費道費負担金返納金で13万7,000円、新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金返納金で29万4,000円を計上するものであります。

新型コロナウイルス感染症対策費、新型コロナウイルス感染症対策費、新型コロナウイルス感染症衛生対策費で678万5,000円の追加となります。新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業になりますが、本件につきましてはオミクロン株に対応した新ワクチンによる追加接種について国から接種体制の整備について指示がありましたので、必要な経費を計上し、迅速かつ的確な接種体制を確保するものであります。その内訳になりますが、接種業務に従事する保健師1名分の集団接種問診従事者報酬金で43万円、接種事務等に係る消耗品費で50万円、接種券の送付に係る通信運搬費で9万4,000円、国保連合会の審査支払手数料で9万円、被接種者の送迎に係る被接

種者送迎委託料で 162 万 5,000 円、予診票等の印刷封入に係る接種券一体型予診票等印刷封入委託料で 33 万円、健康管理システムの改修に係る西いぶり広域連合負担金（電算）で 30 万円を計上するものであります。次に、新型コロナウイルスワクチン接種事業になりますが、新ワクチンによる追加接種について接種を担う医療機関に対するワクチン接種委託料で 341 万 6,000 円を計上するものであります。

31 ページの歳入では、地方交付税、地方交付税、地方交付税で 3,209 万円の追加となります。今年度の普通交付税の交付額が 16 億 5,163 万 7,000 円に決定されたことによるものであります。

国庫支出金、国庫負担金、民生費負担金で 152 万 8,000 円の追加となります。教育保育給付費負担金になりますが、他市町の認可保育施設の利用に係る管外入所負担金に対する国庫負担金を計上するものであります。

衛生費負担金で 341 万 6,000 円の追加となります。新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金になりますが、オミクロン株に対応した新ワクチンによる追加接種に対する国庫負担金を計上するものであります。

国庫補助金、総務費補助金で 18 万 4,000 円の追加となります。デジタル基盤改革支援補助金になりますが、自治体の行政手続のオンライン化の推進に向けた各種システム改修費等に対する国庫補助金を計上するものであります。

民生費補助金で 55 万円の追加となります。その内訳になりますが、地域生活支援事業費補助金では、障害者福祉サービスデータベース対応に対する国庫補助金 21 万円を計上するものであります。また、次の子育てのための施設等利用給付交付金では、他市町の認可外保育施設に支払う経費に対する国庫補助金 34 万円を計上するものであります。

衛生費補助金で 336 万 9,000 円の追加となります。新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金になりますが、オミクロン株に対応した新ワクチンによる追加接種に対する国庫補助金を計上するものであります。

道支出金、道負担金、民生費負担金で 72 万 3,000 円の追加となります。教育保育給付費負担金になりますが、他市町の認可保育施設の利用に係る管外入所負担金に対する同負担金を計上するものであります。

32 ページになります。道補助金、民生費補助金で 17 万円の追加となります。子育てのための施設等利用給付交付金になりますが、他市町の認可外保育施設に支払う経費に対する道補助金を計上するものであります。

財産収入、財産運用収入、給湯収入で 80 万円の追加となります。給湯料になりますが、歳出予算でご説明した旧久保内中学校を活用して農産物の集出荷、貯蔵、加工施設を整備している町内の事業者に対する温泉水の供給に係る給湯料を計上するものであります。

繰越金、繰越金、繰越金で 4,474 万 1,000 円の追加となります。令和 3 年度の繰越

金となります。

諸収入、雑入、雑入で1万円の追加となります。雇用保険被保険者負担分を計上するものであります。

町債、町債、臨時財政対策債で411万4,000円の減額となります。令和4年度の発行可能額が1,888万6,000円に決定されたことによる整理となります。

26ページから27ページの第1表、歳入歳出予算補正については、説明した内容の再掲でありますので、説明は省略します。

28ページの第2表、地方債補正では、変更で臨時財政対策債、限度額2,300万円を限度額1,888万6,000円に変更するものであります。

36ページになります。議案第51号 令和4年度壮瞥町介護保険特別会計補正予算（第1号）について。

令和4年度壮瞥町介護保険特別会計補正予算（第1号）は、次に定めるところによる。

第1条、既定の歳入歳出予算の総額3億8,780万円に歳入歳出それぞれ3,348万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億2,128万6,000円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第1表 歳入歳出予算補正」による。

事項別明細書、歳出から説明します。41ページになります。地域支援事業費、包括的支援事業・任意事業費、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費で249万2,000円の追加となります。包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費になりますが、本件につきましては壮瞥町地域包括支援センター職員の退職等により欠員が生じるため、会計年度任用職員2名分の人件費を計上するものであります。その内訳になりますが、保健師等の専門職2名分の会計年度任用職員報酬で197万7,000円、会計年度任用職員期末手当で7万2,000円、社会保険料で35万4,000円、通勤手当の費用弁償で5万1,000円、法定健康診断委託料で3万8,000円を計上するものであります。

基金積立金、基金積立金、基金積立金で533万9,000円の追加となります。介護保険事業基金積立金になりますが、令和3年度事業費の確定に伴う繰越金3,099万5,000円から償還金2,565万6,000円を差し引いた残額を積み立てるものであります。

諸支出金、償還金及び還付加算金、償還金で2,565万5,000円の追加となります。償還金の社会保険診療報酬支払基金交付金及び国庫、道費負担金等返還金になりますが、令和3年度事業費の確定に伴い、返還金が生じたため、計上するものであります。

40ページの歳入では、国庫支出金、国庫補助金、地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）で95万9,000円の追加となります。地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）になりますが、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費に係る国庫補助金を計上するものであります。

道支出金、道補助金、地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）で 47 万 9,000 円の追加となります。地域支援事業交付金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）になりますが、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費に対する道補助金を計上するものであります。

繰入金、一般会計繰入金、地域支援事業繰入金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）で 47 万 9,000 円の追加となります。地域支援事業繰入金（介護予防・日常生活支援総合事業以外）になりますが、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費に係る町負担分を計上するものであります。

基金繰入金、基金繰入金で 57 万 5,000 円の追加となります。基金繰入金になりますが、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費に充当するものであります。

繰越金、繰越金、繰越金で 3,099 万 4,000 円の追加となります。令和 3 年度事業費の確定に伴う繰越金を計上するものであります。

42 ページから 43 ページの給与費明細書につきましては、後ほどご照覧いただきたいと思っております。

37 ページの第 1 表、歳入歳出予算補正については、説明した内容の再掲でありますので、説明は省略します。

44 ページになります。議案第 52 号 令和 4 年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）について。

令和 4 年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、既定の歳入歳出予算の総額 3 億 4,510 万円に歳入歳出それぞれ 949 万 3,000 円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 3 億 5,459 万 3,000 円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

第 2 条、地方債の変更は、「第 2 表 地方債補正」による。

49 ページになります。事項別明細書、歳出から説明します。施設費、施設費、建設改良費で 949 万 3,000 円の追加となります。建設改良費の仲洞爺地区水道管路改善調査設計委託料になりますが、仲洞爺地区では仲洞爺キャンプ場の施設改修等による集客の取組や民間事業者による施設整備が計画されているなど町水道の使用量の増加が見込まれるため、現在仲洞爺地区簡易水道施設について調査検討する業務を行っているところであります。その中間報告によりますと、現状の水道施設では水圧の低下が懸念され、当該地区の安定供給を図るためにはこれに対応して一部区間において配水管を増径する工事を行う必要があるとされていることから、改善を要する区間の調査測量及び実施設計を行うものであります。

歳入では、繰入金、他会計繰入金、一般会計繰入金で 15 万 6,000 円の減額となります。

繰越金、繰越金、繰越金で 24 万 9,000 円の追加となります。令和 3 年度の繰越金となります。

町債、町債、衛生債で 940 万円となります。仲洞爺地区水道管路改善調査設計委託料に充当するものであります。

45 ページの第 1 表、歳入歳出予算補正については、説明した内容の再掲でありますので、説明は省略します。

46 ページの第 2 表、地方債補正では、変更で簡易水道施設整備事業、限度額 1 億 2,700 万円を限度額 1 億 3,640 万円に変更するものであります。

50 ページになります。議案第 53 号 令和 4 年度壮瞥町集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）について。

令和 4 年度壮瞥町集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）は、次に定めるところによる。

第 1 条、既定の歳入歳出予算の総額 1 億 8,270 万円に歳入歳出それぞれ 50 万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 1 億 8,320 万円とする。

歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

事項別明細書、歳出から説明します。54 ページになります。集落排水事業費、集落排水施設費、集落排水整備費で 50 万円の追加となります。集落排水整備費の公共ます等設置工事になりますが、当初予算では一般住宅 3 件分を想定し、75 万円を計上しており、これまでに 1 件で 28 万 6,000 円を執行しているところであります。こうした中、民間の共同住宅新築工事に伴って公共ますを設置することとなりましたが、当該施設の建設位置は下水道本管までの距離が長く、また管路の敷設高も深くなるため、現在の執行残では不足が生じるため、計上するものであります。

歳入では、繰入金、他会計繰入金、一般会計繰入金で 27 万 7,000 円の追加となります。その内訳は、集落排水事業繰入金で 31 万 7,000 円の追加、管理型浄化槽事業繰入金で 4 万円の減額となります。

繰越金、繰越金、繰越金で 22 万 3,000 円の追加となります。令和 3 年度の繰越金になります。

51 ページの第 1 表、歳入歳出予算補正については、説明した内容の再掲でありますので、説明は省略します。

55 ページになります。議案第 54 号 令和 3 年度壮瞥町各会計歳入歳出決算認定について。

地方自治法第 233 条第 3 項の規定により、令和 3 年度壮瞥町一般会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、簡易水道事業特別会計、集落排水事業特別会計の歳入歳出決算を、監査委員の意見を付して議会の認定を求める。

本件につきましては、地方自治法第 233 条第 1 項に基づき、会計管理者から決算書の提出を受け、同法第 233 条第 2 項に基づき、8 月 10 日から 8 月 16 日までのうち 4 日間、本町監査委員の審査を受けておりますが、8 月 26 日に監査委員から決算審査意見書の提出がありましたので、地方自治法第 233 条第 3 項の規定により、令和 3 年度壮瞥町各会計の歳入歳出決算を監査委員の意見を付して議会の認定を求めるものであります。

令和 3 年度各会計歳入歳出決算書及び令和 3 年度壮瞥町各会計予算の執行成果概要に基づき、各会計ごとに申し上げます。別にお配りしている令和 3 年度壮瞥町各会計予算の執行成果概要を御覧ください。

初めに、5 ページの 3 の決算額の状況についてであります。一般会計では歳入決算額 43 億 743 万 8,000 円、歳出決算額 42 億 4,589 万 7,000 円、差引き 6,154 万 1,000 円が次年度へ繰越しとなります。また、翌年度への繰越し事業に必要な財源 180 万円を控除した実質収支額は 5,974 万 1,000 円となります。

6 ページの 4 の基金現在高の状況についてであります。前年度に比べ 3 億 4,091 万 2,000 円増の 21 億 2,530 万 5,000 円となります。基金現在高が増加した主な要因としましては、町民生活や地域経済に支障を来さない範囲で徹底した歳出削減を図るとともに、国庫補助金等の財源確保等の取組の強化や普通交付税の追加交付、さらには企業版ふるさと納税制度を活用した寄附などによるものであります。

5 の地方債現在高の状況についてであります。前年度に比べ 2 億 902 万 6,000 円減の 31 億 8,782 万 7,000 円となります。地方債現在高が減少した主な要因としましては、近年過疎対策事業債をはじめとする地方債の発行額が減少していることなどによるものであります。

6 の財政指標の状況についてであります。財政力指数が 0.195、経常収支比率が 78.7%、実質公債費比率が 11.3%となっております。

次に、10 ページの国民健康保険特別会計についてであります。歳入決算額 3 億 4,535 万 2,000 円、歳出決算額 3 億 3,754 万 6,000 円、差引き 780 万 6,000 円が次年度へ繰越しとなります。また、基金現在高の状況についてであります。3,939 万 1,000 円となります。

次に、11 ページの後期高齢者医療特別会計についてであります。歳入決算額 5,246 万 7,000 円、歳出決算額 5,177 万 7,000 円、差引き 69 万円が次年度へ繰越しとなります。

次に、12 ページの介護保険特別会計についてであります。歳入決算額 4 億 6,178 万 6,000 円、歳出決算額 4 億 3,079 万 1,000 円、差引き 3,099 万 5,000 円が次年度へ繰越しとなります。また、基金現在高の状況についてであります。394 万 9,000 円となります。

次に、13 ページの簡易水道事業特別会計についてであります。歳入決算額 3 億

2,165万円、歳出決算額3億2,077万9,000円、差引き87万1,000円が次年度へ繰越しとなります。また、地方債現在高の状況についてであります、前年度に比べ1億2,418万2,000円増の7億7,811万3,000円となります。

次に、14ページの集落排水事業特別会計についてであります、歳入決算額1億9,104万7,000円、歳出決算額1億9,082万2,000円、差引き22万5,000円が次年度へ繰越しとなります。また、地方債現在高の状況についてであります、前年度に比べ643万2,000円減の5億7,150万3,000円となります。

なお、議案書の壮警町監査委員から提出をいただいております壮警町各会計歳入歳出決算及び基金の運用状況に関する審査意見書並びに別添配付しております令和3年度決算に係る主要事業一覧（主要施策の成果概要）については、後ほどご照覧ください。

議案の85ページにお戻りいただき、報告第3号 出資法人の経営状況について。

下記の法人の経営状況について、地方自治法第243条の3第2項の規定に基づき、別紙のとおり報告する。

地方自治法施行令第152条第1項第2号に規定されている町が出資する法人につきましては、毎事業年度の経営状況を説明する書類を作成し、議会に提出することとされております。それぞれの法人の事業年度が終了いたしましたので、関係書類を提出し、報告するものであります。

初めに、1の有限会社オロフレリゾートになりますが、87ページを御覧ください。当該会社は、平成13年9月12日に設立され、平成16年12月17日から指定管理者としてオロフレスキー場と弁景地域間交流拠点施設の管理運営を行っております。今期の事業概要についてであります、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、5月初旬から9月末までの間、まん延防止等重点措置の適用や緊急事態宣言に基づく緊急事態措置の実施が繰り返し行われる中での運営となりました。こうした中、夏季についてはコロナ禍の影響で修学旅行や農家民泊の利用は昨年同様になく、弁景地域間交流拠点施設の利用は52名と昨年実績の3割程度にとどまりました。一方で、キャンプについては自然空間での開放的なアウトドアとして人気を集めたことや雑誌記事広告を掲載し、キャンプ場の魅力を発信したことなどから、キャンプ利用者は昨年の2.5倍の868人となりました。次に、冬季のスキー場の営業についてであります、昨年以上の降雪に恵まれる中、大雪の影響で2日間の休業があったものの、77日間の営業となりました。冬季の運営に当たっては、新たに場内案内看板やWi-Fiの整備、電子決済の導入を図るとともに、リフト券については多言語化の対応や2時間券の新設、子供料金の値下げを行うほか、Instagramによる情報発信を恒常的に行うなど利用者に寄り添ったサービスの提供に従業員一丸で取り組んだ結果、前年に比べて入場者数では28%増、リフト輸送人数では42%増、リフト券売上げでは11%増、バナナボート体験の利用者数では51%増となり、コロナ禍でスキー事業や企画イ

ベントが中止となる中で集客確保に努め、当期利益は114万円となっております。なお、令和4年度の事業計画と予算につきましては、後ほどご照覧ください。

次に、2の有限会社壮瞥町リサイクルシステムについてであります。99ページになります。当該会社は、堆肥製造供給施設の運営会社として平成17年2月8日に設立されております。今期の事業概要についてであります。堆肥の生産では計画量2,500立方メートルに対し2,160立方メートルで、計画比86.4%、前年比では112.5%となっております。次に、堆肥の製造に係る堆肥原料、副資材受入れでは計画量2,090トンに対して2,053トンで、計画比98.2%、前年比では107.5%となっております。また、販売量では、そうべつの恵が計画量1,630立方メートルに対し992立方メートルで、計画比60.9%、前年比では55.5%となっており、生ごみ堆肥のみんなのゆうきについては計画には位置づけていないものの18立方メートルの販売実績となっております。今期の販売金額の合計は、計画販売額740万円に対して677万円で、計画比91.5%、前年比では76.5%となっております。委託料の収支では、契約額2,093万円に対して決算額1,893万円、執行率は90%で、当期利益は39万円となっております。なお、令和4年度の事業計画や予算の詳細につきましては、後ほどご照覧ください。

以上が今定例会に提出いたします議案の内容でございます。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） これにて提案理由の説明を終結いたします。

◎意見案第2号

○副議長（森 太郎君） 日程第3、意見案第3号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書を議題といたします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

1番、菊地敏法君。

○1番（菊地敏法君） 意見案第3号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書の提案理由の説明を申し上げます。

北海道は、豊かで美しい自然環境に恵まれ、広大な大地と海に育まれた豊富で新鮮な食を強みに我が国の食料供給を担うとともに、本道特有の歴史・文化や気候風土などを有しており、こうした北海道ならではの独自性や優位性を生かしながら、将来にわたって持続可能な活力ある北海道の実現を目指しています。

こうした中、社会資本整備を取り巻く環境は、激甚化・頻発化する自然災害や日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震等のリスク増大のほか、今後一斉に更新期を迎える橋梁などの公共施設の老朽化など、様々な課題を抱えており、今後は、北海道の強みである「食」や「観光」に関連する地域（生産空間）が持つ潜在力が最大限発揮される

よう、平常時・災害時を問わない北海道を支える基盤の確立に向け、防災・減災、国土強靱化に資する社会資本の整備を図ることが必要であります。

こうした中、地方財政は依然として厳しい状況にあることから、国と地方の適切な役割分担のもと、防災・減災、国土強靱化に必要な予算を安定的かつ継続的に確保することが重要であり、よって、国においては、国土の根幹をなす高規格道路から国民の日常生活に最も密着した市町村道に至る道路ネットワークの計画的・体系的整備の必要性や、ポストコロナを見据えた物流・観光をはじめとする経済回復に資する道路の重要性などを踏まえ、より一層の道路整備の推進や維持管理の充実・強化に向けて、次の事項について特段の措置を講ずるよう強く要望するものであります。

一、国土強靱化に資する社会資本の整備・管理が長期安定的に進められるよう、公共事業関係予算の所要額を確保するとともに、地域の実態に鑑み予算を重点配分すること。

一、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を計画的に進めるために必要な予算・財源を確保するとともに、継続的・安定的に国土強靱化の取組を進めることが重要であることから、5か年加速化対策後も予算・財源を通常予算とは別枠で確保し継続的に取り組むこと。

一、新広域道路交通計画に基づき、高規格道路については、着手済み区間の早期開通、未着手区間の早期着手及び暫定2車線区間の4車線化といった機能強化を図ること。また、高規格道路と並行する国道とのダブルネットワークの構築や道路の防災対策・無電柱化などによるリダンダンシーの確保を図ること。

一、橋梁、トンネル、舗装等の老朽化対策を推進するため、点検・診断・補修などのメンテナンスサイクルを確立し、予防保全を含む戦略的な維持管理・更新事業を行うための技術的支援の拡充を図ること。

一、地域の安全な暮らしや経済活動を支える基盤づくりのため、通学路の交通安全対策などの道路整備や除排雪を含む年間を通じた維持管理の充実が図られるよう、必要な予算を確保すること。

一、維持管理に活用可能な交付金制度を創設するとともに、公共施設の長寿命化について、すべての管理施設の点検や診断、補修、更新が交付対象となるよう採択要件を緩和するなど、地方負担の軽減を図ること。

一、冬期における円滑な交通確保のため、除排雪に必要な予算を確保するとともに、老朽化が進行している除雪機械等の計画的な更新・増強が可能となるよう財政支援を強化すること。

一、日本海溝・千島海溝周辺型地震に備え、避難施設、避難路などの整備及び津波対策緊急事業について、必要な予算の確保、地方負担を軽減する財政支援の充実強化を図ること。

一、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するため、粘り強い堤防

の整備に関する交付金制度の拡充や準用河川改修の事業要件緩和、小規模河川改修に対応した財政、技術支援制度の創設など、「流域治水」の取組に必要な財政支援を更に強化すること。

一、災害発生時の迅速かつ円滑な復旧等のため、北海道開発局及び開発建設部の人員体制の充実・強化を図ること。

以上について議員各位のご賛同をお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

なお、提出先につきましては、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、国土強靱化担当大臣。

以上であります。

○副議長（森 太郎君） これにて提案理由の説明を終結いたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより意見案第3号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、意見案第3号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書は原案のとおり可決されました。

◎議員の派遣について

○副議長（森 太郎君） 日程第4、議員の派遣についてを議題といたします。

お諮りいたします。議員派遣の件については、お手元に配付のとおり派遣することにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議員の派遣については、お手元に配付のとおり派遣することに決しました。

◎休会の議決

○副議長（森 太郎君） お諮りいたします。

議事の都合により9月10日から9月11日までの2日間休会にいたしたいと思いま

す。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、9月10日から9月11日までの2日間休会することに決しました。

◎散会の宣告

○副議長（森 太郎君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

9月12日の議事日程は、当日通知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

（午前11時17分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

副 議 長

署名議員

署名議員

令和4年壮瞥町議会第3回定例会会議録

○議事日程（第3号）

令和4年9月12日（月曜日） 午前10時00分開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 議案第42号 教育委員会教育長の任命について
- 日程第 3 議案第43号 教育委員会委員の任命について
- 日程第 4 議案第44号 専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 5 議案第45号 専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 6 議案第46号 壮瞥町表彰条例に基づく表彰について
- 日程第 7 議案第47号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する
条例の制定について
- 日程第 8 議案第48号 壮瞥町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療
費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制
定について
- 日程第 9 議案第49号 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため
の壮瞥町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例
に関する条例の一部を改正する条例の制定につい
て
- 日程第10 議案第50号 令和4年度壮瞥町一般会計補正予算（第8号）に
ついて
- 日程第11 議案第51号 令和4年度壮瞥町介護保険特別会計補正予算（第
1号）について
- 日程第12 議案第52号 令和4年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算
（第2号）について
- 日程第13 議案第53号 令和4年度壮瞥町集落排水事業特別会計補正予算
（第2号）について
- 日程第14 議案第54号 令和3年度壮瞥町各会計歳入歳出決算認定につい
て
- 日程第15 報告第 3号 出資法人の経営状況について

○出席議員（8名）

1番	菊地敏法君	2番	松本勉君
3番	佐藤忞君	4番	加藤正志君
5番	山本勲君	6番	真鍋盛男君
7番	毛利爾君	8番	森太郎君

○欠席議員（1名）

9番 長内伸一君

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町長	田鍋敏也君
副町長	黒崎嘉方君
教育長	谷坂常年君
会計管理者兼	
	小野寺寿勝君
税務会計課長	
総務課長（兼）	庵匡君
企画財政課長	上名正樹君
企画財政課参事	市田喜芳君
住民福祉課長	阿部正一君
産業振興課長	木下薫君
商工観光課長	三松靖志君
建設課長	澤井智明君
生涯学習課長	河野圭君
選管書記長（兼）	庵匡君
農委事務局長	齋藤誠士君
監委事務局長（兼）	小林一也君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長（兼） 小林一也君

◎開議の宣告

○副議長（森 太郎君） おはようございます。長内議長から本日の定例会を欠席する旨の届出がありましたので、地方自治法第 106 条第 1 項の議会の議長に事故があるとき、副議長が議長の職務を行うの規定に基づき、私が議長を務めますので、よろしくお願いいたします。

これより本日の会議を開きます。

（午前 10 時 00 分）

◎議事日程の報告

○副議長（森 太郎君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○副議長（森 太郎君） 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第 116 条の規定により、議長において

4 番 加藤正志君 5 番 山本 勲君

を指名いたします。

◎議案第 42 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 2、議案第 42 号 教育委員会教育長の任命についてを議題といたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

これより議案第 42 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 42 号 教育委員会教育長の任命については原案のとおり同意することに決定いたしました。

◎議案第 43 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 3、議案第 43 号 教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

これより議案第 43 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 43 号 教育委員会委員の任命については原案のとおり同意することに決定いたしました。

◎議案第 44 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 4、議案第 44 号 専決処分の承認を求めることについてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

2 番、松本勉君。

○2 番（松本 勉君） 大雨に対する災害復旧の工事の内容の説明でございましたけれども、いわゆる堆積土砂の土砂上げとか、その辺の路面整正の作業というのは字面からも分かるのですけれども、町道の未舗装道路の路面整正の内容ですとか、あるいは舗装復旧、舗装道路を復旧したという額面どおりなのでしょうけれども、例えば舗装道路がえぐれてしまった、段差ができたみたいな、どのような内容だったのか、その 2 つをお伺いしたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

大雨による災害復旧の内容で、まず未舗装道路の作業内容ということでございますけれども、大雨により、未舗装道路ということで砂利道なのですけれども、路面の上に雨水が流れて、そこがどンドン、どンドン洗掘されていくというところがございますけれども、それで通行に支障になる程度掘れてしまうということで、大きく洗掘されてしまったところについては砂利を補足して転圧して平らに仕上げていくという作業を行っております。そういう路線が数件あったものを行っているところでございます。

それと、舗装の復旧につきましては、ある程度古い舗装ですとちょっとひび割れとかあるようなところがあって、それが大雨の流水によって舗装の下のほうに水が潜り込むといいますか、という事象が起きたのだと思うのですけれども、基本的には舗装が剥離してしまっている箇所があって、その分段差であったりとか、そういう支障を来しているというところで、そういうところを舗装復旧したという内容でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 了解いたしました。

その下で農林水産の災害復旧で駒別林道のことも載っているのですけれども、多分内容は同様のことなのかなというふうに思いますけれども、何せこの駒別林道ってしょっちゅう補正予算等で名前が出てきますし、大雨が降ると必ず何か災害が起きるみたいな印象があるのですけれども、道路が寸断したりということの大規模な修繕も余儀なくされたことがありましたけれども、素人なのですけれども、そもそも雨が降ったときに災害が出やすい箇所などは特定あらかじめできるとか、そういう予想はつかないものなののでしょうか。毎年のように最近の大雨の災害がありますが、大雨等で、ほぼ同じ場所がとか、あるいは毎回違う場所なのかと、その辺分からないのですけれども、そういう傾向と対策みたいなことは取れないものなのではないかと、そういう質問です。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

駒別林道につきましても大雨のたびに被災することが多くて、度々補正等々させていただいているところではございますけれども、やはり砂利道ということで雨が降ると高いところから低いところに水が流れていくということである程度表面には水が流れてしまうということはやむを得ないのかなと思いますけれども、日頃災害起きるところにつきましては一応どういう水の流れで来たのかとか、周辺の畑ですとか法面から水が出るようなところについては側溝の土砂上げですとか、そういうところはやっておりますけれども、やっぱり雨の降り方等々によってなかなか予測がつかないというところが正直なところでございます、そのような傾向、対策というのを今までの経験から被災しそうなところについては特に土砂上げであったりだとか、水の流れがうまくいくような路面整正の仕方ですとか、そういうところはそのたびに工夫しながらはやっておりますけれども、現状としては被災してしまうということですので、今後もそういうことを意識しながら維持関係はやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） これにて質疑を終結いたします。

これより議案第44号を採決いたします。

本案は、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 44 号 専決処分の承認を求めることについては原案のとおり承認することに決定いたしました。

◎議案第 45 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 5、議案第 45 号 専決処分の承認を求めることについてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

これより議案第 45 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 45 号 専決処分の承認を求めることについては原案のとおり承認することに決定いたしました。

◎議案第 46 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 6、議案第 46 号 壮警町表彰条例に基づく表彰についてを議題といたします。

本案につきましては、私の一身上に関する事件であることから、ここで仮議長の菊地敏法君と交代いたします。

〔議長交代〕

○仮議長（菊地敏法君） それでは、地方自治法第 106 条第 1 項の規定により、私が議長の職務を行います。

本案につきましては、8 番、森太郎君が地方自治法第 117 条の規定により除斥に該当するので、退席を求めます。

〔8 番 森 太郎議員退席〕

○仮議長（菊地敏法君） 質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○仮議長（菊地敏法君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

これより議案第 46 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○仮議長（菊地敏法君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 46 号 壮警町表彰条例に基づく表彰については原案のとおり同意することに決定いたしました。

8 番、森太郎君を復席いたさせます。

〔8 番 森 太郎議員復席〕

○仮議長（菊地敏法君） 8 番、森太郎君に係る審議が終了しましたので、議長を交代いたします。

〔議長交代〕

◎議案第 47 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 7、議案第 47 号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

質疑を受けます。

2 番、松本勉君。

○2 番（松本 勉君） 議案説明でも要点をまとめて 3 点に絞って分かりやすく説明いただいたことなのでありますけれども、いま一つぴんときないところがございます。もう一度説明を求めたいと思うのですけれども、そもそも育児休業、現行と異なりますか、現行法でいいのですか、現行の制度でも母親、父親とも育児休業は認められていて、産後 8 週間のうちに 4 週でしたか、すみません、細かいこと承知していませんけれども、それを分割することができるようになった。

もう一つは、産後パパ育休制度、真新しい言葉ですけれども、このパパと言っていることということは父親だけに限ったものなのか、対象が、これもたしか 2 度に分けて一定期間内に取れる、先ほどの産休のほかに、そのように理解しますけれども、これ母親のほうも当然もらえるものなのではないでしょうか。つまり産後パパという限定したその意味合いがいま一つ分からなかったということ。

もう一つは、会計年度任用職員等の非常勤職員も対象にして、その要件を緩和することなのですが、その要件緩和の具体内容というのは就労期間のことを意味しているのか、その辺の確認だったのですけれども、教えていただければと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

まず、今回の主な制度改正ということで 3 点なのですが、1 つはいわゆる育児休業というものが従前は原則 1 回しか取れなかったものが 2 回に分けて取得できるようになると、当然取得しやすくなるということになります。それが 1 点。

それから、2 点目の産後パパ育休の話なのですが、こちらについてはご質問にもありましたが、基本的に子の出生後 57 日以内に入る育休になるのですけれども、57 日というのは産後 8 週です。ちょうど 8 週間と、57 日が、表現変わっていますが。産後 8 週というのは、出産をされたお母さんに関しては産後の休暇の期間内になりますの

で、通常であればそうなりますので、お母さんはそちらのほうの産後休暇を使って、それをサポートするお父さんが産後パパ育児という形で取得をするということなので、原則的には男性を対象にした休暇、従前はパパ休暇という名前で1回だけ取れたものが、これも57日以内に2回取得できるようになると。制度名も変わるということで、分割を細かくすることで、どうしても仕事をしながら育児休業しますから、細かく切れたほうが仕事上も取りやすいだろうということで今回の制度改正になっているというふうに理解をしています。

それから、3点目ですが、公務員という非常勤職員の育児休業の柔軟化というのが3点目のポイントなのですが、従前は非常勤職員の場合は原則子が1歳まで、例えば保育所に入れないとか、そういう諸事情があれば1歳6か月、2歳というふうに延長できるのですが、その延長するタイミングがちょうど切りかわりのとき、1歳以降からスタートとか、そういう形で延長の開始日が決まっていたのですが、それが柔軟化することで緩くなったと。これによって例えば1歳2か月ぐらいのときに育休を開始するだとか、開始日が弾力的になるのです。そうすると、夫婦間で交代の育休が取りやすくなるというのが今回の3点目の肝といえましょうか、一番のポイントということで、基本的に非常勤職員の場合には正職員とは別建てでつくってまして、これは民間の企業さん等の従業員の方が育児・介護休業法に基づいて育休を取られますけれども、そこにほぼ基準を合わせたというのがこの10月から改正される制度の概要でございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） すみません。一応私も走り読みでインターネットなどを調べさせてもらってというか、事業所も当然これ対応しなければいけないことになるわけでありましてけれども、3点目の部分の1歳到達後もというところの先ほどおっしゃった延長して1歳6か月というその期限というか、そこからしか取れないという延長を柔軟にしたというのはいわゆる一般制度では普通の正職員でも同じではなかったでしたか。それを非常勤というところのくくりにしたのがちょっとぴんとこなかったということなので、それを雇用期間が一定期間、1年を超えてしているとか、その辺の雇用期間で決めていくのかなというふうに勝手な解釈をしたのですが、そうではなくて、ほかの職員と同じ中身を非常勤について再掲するというのは条例で別々に別建てでつくっているの、その分をそこに設けたと、こういう説明だったのでしょうか。そういう理解でいいのですか。言っている意味分かりますか。分からない。よろしく。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

ちょっと説明が足りなかったのかもしれないのですが、基本的に役場職員を含めた

公務員に関しては民間の育児・介護休業法とは別に国家公務員及び地方公務員それぞれの育休法というのがあります、そちらでいうと正職員の場合は3歳まで育児休業が取得できるようになっています。ですから、先ほど申し上げたように1歳から1歳半、2歳までというその延長の手続が、そもそも3歳まで認められていますので、その手続が正職員の場合にはないということになります。正職員ではなく非常勤職員の場合には、3歳まで認められていなくて、民間と同じ1歳までということになっているので、その延長、延長のときの開始だとか、そういう手続は民間に準じてやると。それが同じ条例、同じ法律の中に正職員と非常勤職員と両方入ってくるので、それで書き方として分かりづらくなっているところがあります。それから、育休の分割取得だとか産後パパ育休というのは、正職員も非常勤職員も両方適用になります。ただ、3点目の延長開始の柔軟化だけは、非常勤職員のみが対象になると、そのような制度になっているということでございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第47号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第47号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案のとおり可決されました。

◎議案第48号

○副議長（森 太郎君） 日程第8、議案第48号 壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

質疑を受けます。

3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） この条例の改正2か所ありますが、これについて私は異議ありませんけれども、このような機会でなければ聞くことができませんので、理解を深める上で次のことについて伺います。

この条例によって壮警町で年間何件くらいの申請行為があるのか。2点目、現在のこの条例により医療費の助成を受けている方は何人いらっしゃるか。この2点について伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

今回の条例の改正ですけれども、先日の説明でもありましておき今回は後期高齢者医療における一部負担金の割合、今の後期高齢者というのは1割負担もしくは3割負担だったのですけれども、そこに2割負担というのが増えまして、それで後期高齢者の中で障害者がいた場合、今までは課税世帯で後期高齢者1割負担の場合ですと重度障害者と負担割合が同じものですから、重度障害者のほうは対象にはなるのですけれども、停止という形でありました。それが今回後期高齢者2割負担ということになりまして、そうなりますと自己負担が1割で、重度障害者の医療で1割ということで対象となるということになりました。

それで、今どのぐらいの申請ということなのですけれども、今回対象になることで新しく対象になると思われる人数は大体4人ぐらいというふうに想定というか、考えております。

それで、あと……

〔発言する者あり〕

○住民福祉課長（阿部正一君） すみません。

○副議長（森 太郎君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前10時27分

再開 午前10時28分

○副議長（森 太郎君） 再開いたします。

住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

それで、全体の申請数ということ……

〔発言する者あり〕

○住民福祉課長（阿部正一君） すみません。被保険者ということだったのですけれども、現行では後期高齢者の3割負担の方が14名で、1割負担の方が535名ということでした。それで、今回見直したことによりまして、3割負担の方は14名程度ということなのですけれども、新たに2割負担の方が81名ということになります。1割負担の方が454名ということでありまして、これは、所得に応じて負担割合が変わってくるという内容となっております。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） これにて質疑を終結いたします。
討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。
これにて討論を終結いたします。

これより議案第 48 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 48 号 壮警町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案のとおり可決されました。

◎議案第 49 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 9、議案第 49 号 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための壮警町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。
これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。
これにて討論を終結いたします。

これより議案第 49 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 49 号 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための壮警町国民健康保険に係る保険給付の臨時特例に関する条例の一部を改正する条例の制定については原案のとおり可決されました。

◎議案第 50 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 10、議案第 50 号 令和 4 年度壮警町一般会計補正予算（第 8 号）についてを議題といたします。

質疑を受けます。最初に、事項別明細書、歳出についてページごとに受けます。一般3ページから。

7番、毛利爾君。

○7番（毛利 爾君） 私は、コミュニティータクシーの利用のことでお伺いしますが、ゆーあいの家が休業するということですが、住民の対象になる範囲としてはどの辺になるのでしょうか。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

ゆーあいの家が浴槽の改修ということで1か月半近く休業するということで、その間ゆーあいの家に入れない方が入浴をするために久保内のふれあいセンターあるいは来夢人の家、そういった他の町営温泉施設へ行くその交通手段を確保するという目的で今回コミタクの利用料の免除というものを設けております。対象に関しましては、基本的に町民対象ではありますが、誰ということ限定はしておりません。ただ、費用等積算するに当たって町のほうでまず実際にゆーあいの家を利用されている方を調べて、特に福祉証とか利用されている方は番号を控えていただいているので、誰が何回ぐらい使っているかというのは大体把握はできます。それを社協さんですとか、あるいは包括支援センターのほうに照会をかけて、恐らくこの方は交通手段がなくて徒歩でゆーあいの家に行っているであろうと思われる方が大体11人ぐらいいらっしゃるのですが、その方々が歩いて久保内や来夢人へは行けませんから、その間の交通手段を用意するというコミタクを使っただくと。ただし、その往復の利用については、町のほうで無料にするというものですので、対象は大体それぐらいの方を対象にしています。ただ、実際に車のある方がコミタクを使ったら、それは減免しませんとかと、そういう制度ではありません。ただ、現状として考えたときに、コミュニティータクシーのダイヤで追っていくと恐らく1日2回ぐらいしか多分使えないということ、それから当然ほかのお客さんと同じで予約をしたり、あるいは乗り合いになったり、あるいは現地で1時間半とかずっと待っていなければならない、ですから利便性を考えればわざわざ車を持っている方がコミュニティータクシーを使うというのはあまり想定をしていなくて、駄目ではないけれども、恐らく使われるのは今歩いてゆーあいの家に通っていらっしゃる方だろうというふうに想定をしています。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 4番、加藤正志君。

○4番（加藤正志君） 私も今同僚議員からの質問の中で継続してお伺いしたいことがあります。

まず、1点目は、1か月半を予定している修繕、その部分においていつ頃を予定しているのか、まずそれが1点目です。

あと、2点目は、今回公共施設管理事業の中で修繕料が270万ほど増額になるということでの説明があったと思います。当初予算、今年度1,520万を計上していたと思うのですが、それから270万増額すると、おおよそ18%弱の値上がりかなというふうに感じております。そういった中で資材費の高騰とか、そういった部分も説明がありましたけれども、ある意味で人件費も含めてその中身について改めてお伺いしておきたいと思います。

それともう一つ、今同僚議員からも質問ありました中でコミュニティータクシーを利用して浴場、町営の浴場2施設ありますけれども、その2施設につきましても利用する方は選ぶことができるかという部分、その辺を含めてお伺いしておきたいと思えます。お願いします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

まず、1点目の工事の時期でございますが、現状では11月から12月、2か月の中の1か月半程度というものを想定しています。今後入札ですとか、契約が進んでいったときに具体的になっていくので、それは広報等を通じて町民の皆さんにお知らせをしたいというふうに思っております。

それから、2点目の経費の値上げの件でございますが、今回大幅な値上げになってしましまして、ただその主たる要因というのが材料費の値上げです。それが一般的な木材ですとか、そういったものの材料ではなくて、今回の施工でFRPという素材を使う予定です。浴槽が従前はアスファルトを敷いてタイルを貼ってという形で造っていたのですが、それが劣化してどんどん上に上がってきってしまうということが問題で今回改修をするので、従来のやり方やめて、そのFRPという、よくプールとかで使うような、そういう素材で特殊素材です。それに貼り替えをするというものなのですが、このFRP素材というのが主に原油ですとか、そういったものから生成する素材でして、御存じのとおり原油高に直撃をされたというような状況で、専らこの素材費がどんどん引き上がって、それに今度現場管理費ですとか、そういった通常に何%ずつという掛ける数値があるのですが、それも引き上げられていって最終的に270万ほど足りないということでございます。

それから、3点目のコミタクを使ってゆーあいの家休業期間中お風呂へ行かれる方については、基本的に来夢の家や久保内のふれあいセンター、一応その2か所を今想定していますので、それを選ぶというのは構いません。大丈夫だと思います。でも、あとはコミュニティータクシー増便とかするわけではないので、通常の予約の中ではほかの方とバッティングしないで満車にならずに予約が取れば、それを使っていずれかに選択して行っていただくということは可能かというふうに考えます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 今私も改修工事の時期についてお伺いしたいなと思ったら、同僚議員が質問されて、その答えが11月から12月ですよというお答えがありました。高齢者の方が多く利用している、そして自家用車で今言われた2つの施設を利用する場合、冬期間できるだけ交通安全上からもやはり工期をもっと10月、11月の中頃までに私はすべきでないかなと。そうすることによって、今まで多くの自家用車を使って行っていた方が雪道でないところを安心して走ることができるのでないかなと。そんなことを考えたものですから、11月から12月というお答えありましたけれども、私はできれば早めて10月から11月の中旬くらいまでに終わるような日程は組めないのか、そんなことを考えて質問しているのですけれども、このことについてどのようにお考えになるか伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、総務課長。

○総務課長（庵 匡君） ご答弁申し上げます。

工期に関しましては、この段階ですとかなかなか早めるというのはちょっと難しいかなというふうには考えます、諸準備もございますので。それで、実は当初新年度の段階でいつ施工しようかということ指定管理者であったり、関係するところと協議をしました。議員がおっしゃるとおり、町民の方の通いやすさといましようか、そういったものも当然考慮すべきという意見はあったのですけれども、その一方でちょっといい話かどうか分かりませんが、この施設に関しては実は利用者の多くは町外の方です。6割ぐらいが町外の方で、観光客も含めてなのですけれども、そういった方々が来るのがどうしても夏場を中心にしてある意味稼ぎどきというか、なものですから、その収入をやっぱり確保したいという意図もございました。実は、ゆーあいの家に関しては令和元年度に比べてこの8月までの売上げが大体4分の3ぐらいです。コロナを経て完全に収入減、収入が落ち込んでいまして回復していないという状況で、その経営上の問題もあって、もちろん町民の方、毎日使っていただける大事な方ではあるのですけれども、その両方を勘案して1、2、3月、真冬はやめようということにはなったのですが、落としどころとして11月から12月ぐらいが両方を満たせる、そういう時期だろうということで選定をした経過でございますので、ご理解をいただけたらと思います。

以上です。

○副議長（森 太郎君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 続いて、一般4ページ。

4番、加藤正志君。

○4番（加藤正志君） 私は、農林水産業の林業振興費の中の有害鳥獣関係につきまして質問したいと思います。

先日町から説明ありましたわなのことです。それについて改めてお伺いしたいので

すけれども、わなという部分に対して町民からわなを仕掛けて結構捕られる方も聞いておりました。そういった中で昨年の実績、わなによる捕獲数、実績が分かれば、そして今年度でもいいのですけれども、今年度今まで何頭ぐらいわなで捕獲されていたのかという部分が分かればお伺いしておきたいのと、もう一点はわなの免許の取得に要する経費を計上していますけれども、何人くらいを想定して、わなの取得、何人ぐらい予定しているのか、その辺をお伺いしておきたいと思います。お願いします。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

まずは、わなの実績ということですが、今回のわなに関しましてはエゾシカを捕獲するためのくくりわなと言われているタイプのわななのですけれども、今のご質問の中で貸出ししているというのは、それはくくりわなも貸出しはしているのですけれども、基本的にはアライグマを捕獲する箱わなと言われているものでして、箱わなでの捕獲実績は昨年アライグマ 168 頭捕獲しております。これは、委託業務で実施している部分です。そのほかに、これは貸出しではないのですけれども、くくりわなで捕獲されたエゾシカが猟友会の方などでやってもらった部分が 14 頭の捕獲実績がございます。この 14 頭の中には、昨年町の職員がわなの狩猟免許取りましてその対応に当たった部分もあるのですが、その部分で 14 頭の中に 3 頭も含まれていますというところなんです。それで、今年度につきましてもアライグマのほうは大体、正確な数字、今手元にないのですけれども、月 10 頭前後は捕獲されているのと、鹿に関しましては職員で設置した部分で 1 頭鹿が捕獲されているというところなんです。

もう一件のご質問で今回の補正の中でこの経費何人分を見ているのかという部分では、5 人分を想定して計上させていただいております。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 4 番、加藤正志君。

○4 番（加藤正志君） 今の内容について、その説明である程度は理解したのですけれども、ただ私個人的に聞いていたのが南久保内の方で自分で結構わなを仕掛けて、狩猟免許たしか持っていた方だと思っておりますけれども、わな免許を持っている方がそれを仕掛けて、個人的に、結構それ以上捕っているように聞いたことがありましたので、ちょっと頭数が少ないのかなと。南久保内の方が捕られていたので、改めて 14 頭ぐらいで昨年なんかは鹿、わなで仕掛けたということで理解してよろしいのでしょうか。その確認だけ、1 点だけお願いしたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

今 14 頭ということでご説明したのですが、これとはまた別に有害駆除という年間鹿であれば 200 頭とか、そういう予算の中で捕獲している部分があるのですが、そのときに基本的にはこれは銃で仕留めるのですけれども、その銃で仕留める前段でわな

を使ってやられているハンターさんもいらっしゃるというところで、くくりわなで捕獲して、それに鉄砲でとどめを刺すというような形でやっていたらハンターさんもいらっしゃるの、多分その辺の方の数字が入っているのではないかなと思います。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 2番、松本勉君。

○2番（松本 勉君） 4ページですけれども、児童措置費の保育及び子育て環境整備事業の手数料9万9,000円でお伺いいたします。

説明では、調理場職員のノロウイルス検便検査に必要な経費という計上でございますけれども、これが駄目とか必要ないとか、そういう話ではないですけれども、基本的に給食事業場における検便検査の義務要綱にはノロ検査は今のところ入っていないと理解しておりますけれども、なぜこのタイミングでノロウイルスの検査を行うかというこのタイミングを確認したかったのでありまして、ノロウイルスはご承知のように非常に危険ではありますけれども、変な話、感染しますと自覚症状がすぐ出るということもございまして、当然ふだんから生ものを摂取しないですとか、手洗いとか、あとは厨房機器の取扱い、それは十分配慮されているのだろうというふうに理解するし、また肉の調理の後に野菜を切らないとか様々なルールがあって、また職場では業務終了後に室内全体を殺菌、消毒するとか、その辺の手順はされているのだろうと思うのですけれども、改めてこのタイミングでなぜノロウイルスの検査を入れてきたのかなということの確認でありました。

○副議長（森 太郎君） 答弁、住民福祉課長。

○住民福祉課長（阿部正一君） ご答弁申し上げます。

ご質問、ノロウイルス検査なのですけれども、議員ご指摘のように義務にはされていなくて、一応努力義務ということで、例年10月から3月までノロウイルス発生するというので、それに努めることというふうになっておりまして、ただ義務ではないということでありました。ですが、これは今というか、前からだったのですけれども、できれば給食業務の安全強化を図ってのこともありまして、できるだけそういう検査をしたほうがいいなということもありまして、たまたまこのタイミングにはなってしまったのですけれども、より安全強化を図って子供たちの健康を守ることに努めたほうがいいのかということで計上させていただきました。

以上でございます。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） このページに数点お伺いしたい点がありますので、最初に温泉管理費のことについて質問したいと思います。

今回の補正で、旧久保内中学校跡を利用しての食品加工場で冬期間の暖房用として温泉水の供給することの提案説明で理解できない面がありますので、以下項目ごとに

申し上げますので、よろしくお願ひしたいと思います。

1点目、使用は事務所の暖房用とありますが、事務所の面積はどの程度か。暖房は、旧施設の床暖房施設の利用をするのか、また新たに温泉水を使つての暖房機を新設するのか。

2点目、冬期間とのことであるが、何月から何月までの期間か。

3点目、供給する温泉水の温度は何度程度なのか。

4点目、毎分最大 150 リットルとのことであるが、この最大量設定の根拠は何か。

5点目、この供給による同系列で使用しているそうべつ温泉病院、ふれあいセンターへの供給に影響はないのか。

6点目、温泉病院も同系列からリハビリ用として温泉水を供給受けておりますが、供給の毎分最大設定リットル、これはいかほどか、また使用料の計算はどのようにして設定しているのか。

7点目、供給温泉水の料金を 80 万円とのことであるが、この 80 万円の算出根拠の説明がなく、ただ金額だけが独り歩きしているように私は感じてなりません。算出の根拠、計算方法について示していただきたい。

最後、温泉水の泉源からくみ上げている量は毎分何リットルなのか。この温泉水を団地のハウス供給量と二次的な活用分、これは今提案されている事務所の暖房だとか、温泉病院の供給、それからふれあいセンターの風呂の供給、この温泉水の供給量はどの程度になっていて、現在運営している中でもし課題があれば、その課題を伺いたいなど。

最初に、この 8 点について伺いたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

まず、1点目の今回熱利用を予定しております旧中学校の校舎でございますが、こちらの面積が一応 1,757 平方メートルというふうに押さえております。

それから、利用に関しましては、新たに暖房施設を整備するのではなく、旧中学校時代に使っていた熱交換器等と、あと循環のポンプ、その辺を事業者側のほうで整備をして使うというふうに伺っております。

それから、供給期間なのですけれども、この辺まだはっきりと契約したわけではないのですが、予定といたしましては 11 月から 6 月、8 か月の間ということになるのですが、これは大体冬期間というところです。

供給温度に関しましては、この辺も契約の中で温度何度というところはまだ話はあれなのですが、実際現実的なところとしましては 45 度ぐらいかなというところを考えております。これは、後でまた説明しますけれども、温泉病院さんのほうで供給している温度と大体同じぐらいになるかなというところです。

最大 150 リットルの根拠なのですけれども、これも後で全体バランスの話が出てく

るのですけれども、実際には久保内ふれあいセンターに冬の間行っている、あそこは熱利用の最終施設というか、末端の施設になるのですが、そこに行っているお湯の量が大体 150 リッターがマックスぐらいなので、それに合わせた量というところになります。

温泉病院ですとかふれあいセンターへの影響はというところですが、温泉病院さんは今回予定している中学校よりも供給するお湯のフロー上上流側にありますので、温泉病院さんのほうは特に影響はないかと考えております。ただ、下流側にあるふれあいセンターのほうは、先ほどから言っていますとおり 150 リッターのお湯が行くのですが、それがその分新しい施設のほうで熱利用されるので、量は変わらないのですけれども、その分の温度が下がった状態で供給されるということになります。

それから、温泉病院の供給量というところでご質問もあったかと思うのですが、こちらは今の実績といたしましては大体温泉病院 150 リッターとプライム 50 リッター前後というところで、合わせても 200 リッターぐらいというような量になっております。

それから、使用料の設定はどうなっていますかの設定というところだったのですが、温泉病院さんとプライムさんと合わせて年間 100 万円という形で契約させていただいております。

それから、今回の 80 万円の設定に関しましては、これは今の温泉病院さんの契約額ですとか、ほかの施設、条例なんかで定められている部分も含めて勘案して、なおかつふれあいセンターさんに行く分の温度が下がるという部分も勘案いたしましてこの値段を設定しております。

温泉全体でくみ上げている量はというところですが、冬と夏とで当然ハウスが動いたり動いていなかったりするので、量は全然違うのですけれども、今くみ上げている量に関しましては冬場は 3 つの泉源から合わせて約 1 トンほどの量をくみ上げております、毎分 1 トン、1,000 リットル。そのうち利用状況といたしましては、地熱のハウス、トマトのハウスで大体毎分 800 リッターぐらいです。800 リッターで第 1 団地、第 2 団地に大体毎分 400 リッターぐらいずつ供給をして、そのうち第 1 団地の排湯分が今度二次利用として温泉病院ですとかふれあいセンターのほうに導水されていくのですけれども、その分が大体 150 から 200 リッターぐらい温度の低い二次利用のお湯が行って、それにさらに先ほど 1 トンくみ上げていると言ったうちの生のお湯を半々ぐらいで混ぜて大体 350 から 400 リッターぐらいで大体 50 度ぐらいまで温度を上げて温泉病院ですとか、そちらのほうに供給しているのですが、やっぱり何せ配管が長いものですから、途中で温度がだんだん下がってきたりして大体供給温度としてさっき言った 45 度ぐらいというところになります。

以上でよろしいでしょうか。

〔発言する者あり〕

○産業振興課長（木下 薫君） 以上です。

○副議長（森 太郎君） これより休憩といたします。再開は11時15分といたします。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時15分

○副議長（森 太郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 先ほど8点について質問して答弁いただきましたけれども、私は提案説明の文章の中に事務所施設という言葉が入っていたものですから、このような質問に至ったのです。といいますのは、私はそこで事務所という言葉は必要ないのでないか、施設についてというのであれば千七百何平米ですか、先ほど答弁いただきましたら1,757平米、分かるのですけれども、事務所ということを断り書きしているということは、もしも事務所入れるのなら、事務所、施設についてというような表記があれば私はこのような質問はしなかったと思います。

そこで、供給することによってふれあいセンターの温度が下がるということも危惧されるということ先ほどの答弁にありましたけれども、やはりそのようなことのないように私は努力していただきたいなという考えを持っております。

次に、先ほどの質疑の中にもありましたけれども、農林水産業の免許取得補助金、これについてももう少し伺いたいなと思います。といいますのは、提案説明では甚大な被害が発生、私はどう想像していいか分からぬ。甚大という言葉の意味からしたら、すごいとか、大きいとかと分かるのですけれども、その被害は深刻さを増しているということですが、ただ言葉だけでなく、もしも数的に表したらどの程度なのか。町民の皆さんが聞いて甚大な被害って何だろうという疑問を持つのではないかと思いますけれども、このことについてももう少し分かればお聞きしたいなと。

それから、今回35万円の補助金ですから、当然受けて実施する団体があると思いますが、その補助金を受けて実施する団体はどのような団体か。それから、35万円で先ほどの答弁では5人の方が資格を取りますよという答弁あったと思うのですが、1人7万です。補助金ですので、もっと金額がかかっているのではないかなと思いますけれども、実際にわなの資格、免許を取るには1人お幾らくらいの経費が必要なのか、これについても承知していれば伺いたいなと思いますけれども、そしてこれはただ単に今年度だけの単発的な事業でなくて、私は人材の育成から考えて続けていくことがやはり必要でないかと思っておりますけれども、そのような今後の人材育成をどのように考えているか、このことについて伺いたいと思っております。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

先ほどご質問にありました甚大な被害というのは具体的に数字で表すとどうなのかという部分なのですが、今年の4月の下旬に果樹園の方から被害があったというところで相談が寄せられまして、その後役場職員、普及センター、農協さんなどの協力の下に被害調査、ファクスだとか現地調査行ったのですが、これは果樹園対象に、リンゴの圃場を対象に行ったのですが、リンゴの圃場の面積が38ヘクタール、全面積あるうちの15軒、17ヘクタールで被害が確認されたというところでした、そのうちの3.4ヘクタール、全体の38ヘクタールに対して3.4ですから、9%ぐらいなのですが、リンゴの木に関しましては木が全周皮が食べられている状況で、これはもう全損扱いだねというような普及センターさんの判断がございました。それが被害の甚大であるという部分の確認状況です。

それと、わな免許35万円、1人7万円というところの内訳といたしますか、もうちょっと詳しくご説明させていただきますと、狩猟免許を取るにはまず北海道猟友会の主催します予備講習というのを受けていただいてから北海道が実施しております試験を受けていただくと。それから、狩猟者登録をしていただいて猟友会にも入っていただくというような手続が必要になりますが、まず予備講習の受講料が8,250円、それから試験の申請手数料が5,200円、それから登録費用が1万円、それから猟友会の加入費用が3万6,000円、そのほかに診断書、これはわなの免許、狩猟の免許を取るというところで病院の診断書が必要になってくるのですが、その辺も診断書の料金がかかると。一応それぐらいのやつで大体6万5,000円ぐらいの費用、そのほかに受験地が室蘭だったり札幌だったりするものですから、それに必要な交通費ですとか、各申請書に写真も貼らなければならないということで、その写真代ですとか、そういうもろもろの費用もかかるのですが、その辺に係る部分について実費分の補助を考えているというところで、これは団体に対する補助ではなくて、あくまでも申請、免許取ろうとしている方を5名これから公募しまして、免許が取れたよというところで、免許が取れたよといたしますか、最終的な猟友会の加入手続まで終わりましたというところで事業完了というところで審査させていただいて、その実費分をお支払いするというようなことで考えております。

この事業に関しましては、今回補正で計上させていただいたものでありますが、さっき言ったような緊急的な部分もちょっとあるというのと、それとどうしても鹿の個体数を減らすことを急がなければならないという部分の考えもありまして今回計上させていただいているのですが、来年以降できれば当初から計上、これはまだ理事者とも全然話もしていないのですけれども、来年以降も継続して、できればわなだけでなく銃も含めて狩猟免許が取れるような形で検討させていただければというふうに考えております。ただ、わななり銃なり免許取ればいいというものでなくて、猟友会に入らせていただいて一斉捕獲に参加していただくですとか、そういう猟友会の方の持続的な活動に対して協力していただけるということもやっぱり大きな意味があ

るのではないかなというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 副町長。

○副町長（黒崎嘉方君） 少しだけ補足させていただきたいと思います。

樹体の被害が甚大だというお言葉にさせていただいたのですけれども、果樹の樹体ってちょっと食われたぐらいだったらいいのですけれども、周りを一周されると全滅、我々と同じで血管みたいな栄養を取っていくところがそこを流れているので、そこを一周やられると大体その木はもうバツということになる、それが人によってはその場所でほぼやられているというところもありますので、これまでにない甚大な被害だという言葉を使わせていただいたということで、これ余計な話になるかもしれませんが、壮瞥町というのは北海道に幾つかある少ない果樹地帯の中でリンゴの面積を維持しているというところで非常に評価されているところなのです。それで、そういったところでリンゴの被害がある、リンゴの木にそういった被害がある、それから果樹園の農家の方々の話を聞くと、やはり電気柵を巻いてもこういう状況で、今年は雪が多いから上から来やすかったというのものもあるかもしれませんが、これだと改植する補助金は出るけれども、やっぱり対策をきちっとやっていかない中でまた植えてもまた食べられるかなということで、いろんな面から今わなの免許も、できるだけやっぱり猟友会の方だけではなくてみんなに手伝ってもらってわなかけてもらって、それで淘汰するというか、捕獲するというようなことを工夫していつて少しでも捕獲頭数を増やそう、それから外から来る、周りをもうちょっと強固なものにできないかとか、そういったことも今併せて検討しているということをご理解いただきたいなと思います。

それから、先ほど事務所施設という言葉に対して、多分議員は施設という言葉はその工場施設のことを全部施設としてトータルするというふうにご理解されたと思うのですけれども、私どもが国語能力がないということでご理解いただければと思うのですけれども、一般的にこういった施設の整備とかで施設区分という言葉が使われるので、今回のこの工場というか、加工施設全体は、まず旧校舎については事務所として使おうと、それから運動場、体育館については選果施設で使うと、貯蔵施設を建てて、そして加工施設をと、我々は全部を施設として見て、それで施設区分としては事務所施設、それから選果施設、そういうことを捉まえて何々施設という言葉を使っているということで、決して全体を言って施設全体でお湯を使うということで事務所施設という言葉を使ったわけではないということで、これはちょっと補足ですけれども、そういう考えで言葉を整理させていただいて、もちろん分かりづらかったということについてはおわび申し上げますけれども、そういう意図で施設区分として書かせていただいたということをご理解いただければと思います。

○副議長（森 太郎君） 3番、佐藤恣君。

○3番（佐藤 恣君） 今答弁いただいて、理解はしました。地場産業として特色ある果樹に対して、今お聞きしますと、全体の9%、約1割に達するような被害があった、やはりこれは大きな被害でないかと思えます。そういう面においても今答弁をいただいて被害状況、甚大という被害の内容を理解することができました。

そこで、同じページ3回しかできないので、同じページの土木費について伺いたいと思います。支障木の処理で植生の状況を詳細に把握したところ、当初の見込みよりも道路沿線の立ち木が車道に張り出している、こういうこと、それで今後の成長を考えるともっと支障木が多くなるのでないか、それから除雪の効率化も挙げておりますけれども、そして優先的に支障木を整理するために予算を組み替えて実施したい、これも理解できるのですけれども、その支障木の多くあるところ、町道でいうと、路線名でいうとどこなのかなといろいろ想像してもちょっと理解できないものですから、今回400万を組み替えて支障木を処理するところは主にどの辺なのか、これについて理解したいので、答弁をお願いしたいと思います。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

今回の提案の中で修繕費を役務費に振り替えまして支障木の処理をするという路線につきましては、大きく地区別に分けますと、まず幸内とか弁景のほうの地区ですけれども、6路線ございまして、弁景川右岸線、関内蟠溪線、幸内上幸内線、上久保内第1線、上久保内蟠溪線、久保内団地線、それと滝之町、壮瞥温泉地区につきましては7路線ございまして、壮栄寺線、建部線、滝之町下立香線、昭和新山第2線、緑線、紫明苑線、山手線、それと立香地区につきましては3路線ございまして、中達観内西関内線、阿波国達観内線、立香牧場線、以上16路線でございますけれども、こちらにつきましては既定の予算も使いまして実施済みのところもございまして、これら路線について先ほどご質問あったとおり提案理由説明のとおりでございますけれども、道路の沿線に生えている木の枝が車道側に張り出しているのが顕著になってきているよということと、放置しているとだんだん成長してきてなお支障になるという木が多く存在しているということでございまして、その処理に予算を振り替えて除雪の作業の効率化ですとか、除雪業務の経費削減、効率がよくなると時間もかからなくなりますので、その分経費の削減にもつながるのではないかとということで、そういうことを目的に今回予算、節の内容を振り替えて使いたいということでご提案したものでございます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） 6番、真鍋盛男君。

○6番（真鍋盛男君） 私は、温泉管理費の項目で質問させていただきます。

この温泉利用というのは、ハウス団地で利用するのが主目的であるという認識で質問させていただきます。今まで中学校が運用していたときに冬期間使用した温泉水の量

と比較して相違ないのか、それからこの事業者が利用することによって地熱利用の温泉水利用の量に影響が出るか出ないかを質問します。

○副議長（森 太郎君） 答弁、産業振興課長。

○産業振興課長（木下 薫君） ご答弁申し上げます。

まず、1点目の中学校が稼働していた当時と比べての使用のお湯の量の違いなのですが、これは当時と同じ使い方をして同じ量流れている経路から供給されるものであって、そこは量的には全く変わりはないということになります。

それから、地熱の施設、ハウスのほうへの影響ということでもよろしかったですか。これは、さっきも言いましたけれども、ハウス施設はずっと上流側になりますので、上流側というのは温泉供給のルートの中で手前というか、上流になりますので、そこでの使い勝手というのは今回の川下側の施設でどう使うかという部分について影響が出てくるものではないというふうに考えております。

以上です。

○副議長（森 太郎君） ほかありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 続いて、一般5ページ。ありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 次に、歳入について、一般1ページ。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 続いて、一般2ページ。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 次に、第1表、歳入歳出予算補正及び第2表、地方債補正について。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 次に、条文及び補正予算全体について。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第50号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 50 号 令和 4 年度壮警町一般会計補正予算（第 8 号）については原案のとおり可決されました。

◎議案第 5 1 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 11、議案第 51 号 令和 4 年度壮警町介護保険特別会計補正予算（第 1 号）についてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第 51 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 51 号 令和 4 年度壮警町介護保険特別会計補正予算（第 1 号）については原案のとおり可決されました。

◎議案第 5 2 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 12、議案第 52 号 令和 4 年度壮警町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）についてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第 52 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 52 号 令和 4 年度壮瞥町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）について原案のとおり可決されました。

◎議案第 53 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 13、議案第 53 号 令和 4 年度壮瞥町集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）についてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

2 番、松本勉君。

○2 番（松本 勉君） 公共ますの設置工事を行うということの設計委託料の補正でございますけれども、その説明の中で、細かいのですけれども、民間の共同住宅の新築工事に伴ってというところが、その詳細の説明はいいのですけれども、具体的にどのような共同住宅の設置なのかと、中身を確認したかったと、こういうことです。

○副議長（森 太郎君） 答弁、建設課長。

○建設課長（澤井智明君） ご答弁申し上げます。

公共ますの設置についてということでございますけれども、議員ご質問のあった内容の中でこれの設計について民間に委託するということだったかと思うのですけれども、基本的にはこれ工事、公共ますの設置に係る費用が予算不足するということで増額の補正を提案しているものでございますので、まずはその辺ご理解いただきたいと思えます。

それと、民間の共同住宅の新築工事の概要につきましては、滝之町地区に 1 棟 4 戸の共同住宅を新築するという事で 6 月頃にご相談があった件でございます、それに係る経費が通常の一般住宅に公共ます設置するよりも下水道本管までの距離ですとか、管の敷設する深さが深くなるですとか、もろもろと仮設にもお金がかかるということで予算不足を生じたという内容でございます、不足分を追加させていただくという内容になっております。

以上です。

〔発言する者あり〕

○建設課長（澤井智明君） 今の共同住宅の位置についてちょっと説明が足りなかったようですので、共同住宅の新築の位置、滝之町地区と言っていましたけれども、滝之町地区の橋口 2 地区になりますので、追加させていただきます。

以上です。

○副議長（森 太郎君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第 53 号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 53 号 令和 4 年度壮瞥町集落排水事業特別会計補正予算（第 2 号）については原案のとおり可決されました。

◎議案第 5 4 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 14、議案第 54 号 令和 3 年度壮瞥町各会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

お諮りいたします。議案第 54 号については、議長を除く全員の議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 54 号については、議長を除く全員の議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決しました。

お諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会の委員長及び副委員長の選任については、議長において選考することにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、決算審査特別委員会の委員長及び副委員長の選任については、議長において選考することに決しました。

選考結果についてご報告いたします。委員長に毛利爾君、副委員長に菊地敏法君を選任することに決しました。

お諮りいたします。ただいまの報告のとおり選任することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、決算審査特別委員会委員長に毛利爾君、副委員長に菊地敏法君を選任することに決しました。

◎報告第 3 号

○副議長（森 太郎君） 日程第 15、報告第 3 号 出資法人の経営状況についてを議

題といたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

以上で報告第3号を終結いたします。

◎休会の議決

○副議長（森 太郎君） お諮りいたします。

議事の都合により9月13日から9月15日までの3日間休会にいたしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副議長（森 太郎君） ご異議なしと認めます。

よって、9月13日から9月15日までの3日間休会することに決しました。

◎散会の宣告

○副議長（森 太郎君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

9月16日の議事日程は、当日通知いたします。

本日はこれにて散会いたします。

（午前11時47分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

副 議 長

仮 議 長

署名議員

署名議員

令和4年壮瞥町議会第3回定例会会議録

○議事日程（第4号）

令和4年9月16日（金曜日） 午後 3時30分開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 議案第54号 令和3年度壮瞥町各会計歳入歳出決算認定について

日程第 3 報告第4号及び議案第55号について

日程第 4 各委員会の所管事務調査について

○出席議員（9名）

1番	菊地敏法君	2番	松本勉君
3番	佐藤恣君	4番	加藤正志君
5番	山本勲君	6番	真鍋盛男君
7番	毛利爾君	8番	森太郎君
9番	長内伸一君		

○欠席議員（0名）

○地方自治法第121条第1項の規定により説明のため出席した人

町長	田鍋敏也君
副町長	黒崎嘉方君
教育長	谷坂常年君
会計管理者兼	
	小野寺寿勝君
税務会計課長	
総務課長（兼）	庵匡君
企画財政課長	上名正樹君
企画財政課参事	市田喜芳君
住民福祉課長	阿部正一君
産業振興課長	木下薫君
商工観光課長	三松靖志君
建設課長	澤井智明君
生涯学習課長	河野圭君
選管書記長（兼）	庵匡君
農委事務局長	齋藤誠士君
監委事務局長（兼）	小林一也君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長（兼）	小林一也君
---------	-------

◎開議の宣告

○議長（長内伸一君） これより本日の会議を開きます。
（午後 3時30分）

◎議事日程の報告

○議長（長内伸一君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（長内伸一君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
本日の会議録署名議員は、会議規則第116条の規定により、議長において
6番 真鍋盛男君 7番 毛利 爾君
を指名いたします。

◎議案第54号

○議長（長内伸一君） 日程第2、議案第54号 令和3年度壮警町各会計歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

議案第54号については、9月12日の本定例会において決算審査特別委員会に付託された審査案件でありますので、決算審査特別委員会委員長の報告を求めます。

7番、毛利爾君。

○決算審査特別委員会委員長（毛利 爾君） 決算審査特別委員会審査報告を申し上げます。

令和4年9月12日開催の第3回定例会において、議長を除く全員の議員で構成する決算審査特別委員会を設置し、本特別委員会に付託されました議案第54号 令和3年度壮警町各会計歳入歳出決算認定についてを、9月13日から16日までのうち3日間特別委員会を開催し、慎重に審議を行いました結果、次の結論を得ましたので、審査の経過と結果をご報告いたします。

事件名、議案第54号 令和3年度壮警町各会計歳入歳出決算認定について。

審査の経過、特別委員会の開催、議案第54号を審査するための特別委員会を次のとおり開催いたしました。総務、経済常任委員会の2分科会による書類等の審査を9月13日から14日までの2日間、議案審議を9月16日の1日間。

特別委員会に出席した委員、特別委員会に職務のため出席した者、特別委員会に出席した説明員の氏名は、お手元に配付の書面のとおりであります。

特別委員会の結論、議案第54号 令和3年度壮警町各会計歳入歳出決算認定については、関係書類、支出証書、資料等の審査を実施した中での疑問点、問題点等につ

いて質疑の中で理事者及び担当課長の説明を受け、慎重に審査を行いました。

審査の結果につきましては、原案のとおり認定すべきものと決しました。

なお、審査の中での課題等については、十分な協議検討をされるよう望みます。

以上で決算審査特別委員会に付託されました議案第 54 号 令和 3 年度壮瞥町各会計歳入歳出決算認定についての審査の経過と結果を申し上げ、報告といたします。

決算審査特別委員会委員長、毛利爾。

以上、報告を終わります。

○議長（長内伸一君） 決算審査特別委員会委員長の報告に対して質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第 54 号を採決いたします。

本議案に対する決算審査特別委員会委員長の報告は全て原案のとおり認定すべきものであります。

本議案は、決算審査特別委員会委員長の報告のとおり認定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 54 号については決算審査特別委員会委員長の報告のとおり原案のとおり認定されました。

◎報告第 4 号及び議案第 55 号について

○議長（長内伸一君） 日程第 3、報告第 4 号及び議案第 55 号についてを議題といたします。

理事者から提案理由の説明を求めます。

副町長。

○副町長（黒崎嘉方君） 令和 4 年第 3 回定例会に追加提出いたします議件は、報告第 4 号の 1 件、議案第 55 号の 1 件、合計 2 件であります。

112 ページになります。報告第 4 号 令和 3 年度決算に基づく健全化判断比率等について。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第 3 条第 1 項及び第 22 条第 1 項の規定に基づき、別紙監査委員の意見をつけて報告する。

本件につきましては、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定に基づき、公表が義務づけられている4つの財政健全化の指標について、今定例会において令和3年度の各会計決算が認定されたことから、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定に基づき、監査委員の意見をつけて議会に報告するものであります。

115 ページを御覧ください。令和3年度財政健全化審査意見書になりますが、2の審査の結果にあります(1)の総合意見では健全化判断比率及びその算定の基礎とする事項を記載した書類について、いずれも適正に作成されているものと認められるとともに、(2)の個別意見につきましてもそれぞれ良好な状態にあると認められるとする評価をいただいているところであります。また、表中の健全化判断比率につきましては、4つの指標がありますが、①の実質赤字比率と②の連結実質赤字比率について赤字はなく、③の実質公債費比率は11.3%、④の将来負担比率の算定結果はゼロ以下となっております。

次に、116 ページの令和3年度簡易水道事業特別会計経営健全化審査意見書と117 ページの令和3年度集落排水事業特別会計経営健全化審査意見書になりますが、ともに2の審査の結果にあります(1)の総合意見では資金不足比率及び算定の基礎となる事項を記載した書類について、いずれも適正に作成されているものと認められるとともに、(2)の個別意見につきましても良好な状態にあると認められるとする評価をいただいているものであります。

なお、112 ページの報告第4号の表中にありますとおり、早期健全化基準、財政再生基準、経営健全化基準の指標を記載しておりますので、こちらは参考としていただければと思います。

続いて、118 ページになります。議案第55号 工事請負契約について。

令和4年9月5日指名競争入札に付した、国道453号水道施設移設工事について、下記のとおり請負契約を締結するため、地方自治法第96条第1項第5号の規定によって、議会の議決を求める。

記に記載した契約の概要になりますが、1の契約の目的は、国道453号水道施設移設工事。2の契約の方法は、指名競争入札。3の契約金額は、1億1,330万円。4の契約の相手方につきましては、道栄・壮建特定建設工事共同企業体で、代表者は有珠郡壮警町字滝之町283番地、道栄建設株式会社代表取締役、小田由三で、その構成員になりますが、有珠郡壮警町字滝之町423番地26、壮建興業株式会社代表取締役、高橋美智彦となっております。

この工事につきましては、国道453号蟠溪道路3工区の道路整備工事に伴い支障となる水道施設を移設するもので、工期は令和5年3月28日までとしております。

なお、指名競争入札に付した業者は全部で4社となりますが、1社が町内業者で構成する特定建設工事共同企業体で、3社が町外業者となっております。

以上が追加提出いたします議案の内容であります。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

以上でございます。

○議長（長内伸一君） これにて提案理由の説明を終結いたします。

日程第3のうち、報告第4号 令和3年度決算に基づく健全化判断比率等についてを議題といたします。

質疑を受けます。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

以上で報告第4号を終結いたします。

日程第3のうち、議案第55号 工事請負契約についてを議題といたします。

質疑を受けます。全体について。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結いたします。

討論に入ります。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） 討論なしと認めます。

これにて討論を終結いたします。

これより議案第55号を採決いたします。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） ご異議なしと認めます。

よって、議案第55号 工事請負契約については原案のとおり可決されました。

◎各委員会の所管事務調査について

○議長（長内伸一君） 日程第4、各委員会の所管事務調査についてを議題といたします。

各常任委員長から閉会中に所管事務調査を、議会運営委員長から閉会中に次期定例会までの会期日程等議会運営に関する事項について所管事務調査を実施したい旨、それぞれ申出があります。

お諮りいたします。各常任委員長、議会運営委員長からの申出のとおり閉会中に所管事務調査を実施することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（長内伸一君） ご異議なしと認めます。

よって、各常任委員長、議会運営委員長からの申出のとおり閉会中に所管事務調査を実施することに決しました。

◎閉会の宣告

○議長（長内伸一君） これにて本議会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

よって、令和4年壮瞥町議会第3回定例会を閉会いたします。

（午後 3時42分）

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

議 長

署名議員

署名議員